

いきいきふっつ障害者プラン第4期障害福祉計画策定
のための
アンケート調査結果報告書

平成 27 年3月

富 津 市

目次

I 調査実施の概要

1. 調査の目的と方法等について…………… 3
2. 報告書の読み方について…………… 3

II 調査結果

1. 調査対象者本人のことについて…………… 7
2. あなたの健康や医療について…………… 14
3. 介助の状況について…………… 17
4. サービスの利用について…………… 24
5. 日中活動や就学・就労について…………… 29
6. 住まいや暮らしについて…………… 49
7. 福祉や生活に関する相談・情報入手について…………… 56
8. 災害時の対応について…………… 64
9. 障がい者の権利擁護・理解促進、今後の施策について…………… 69

III 参考資料

1. 自由意見…………… 79
2. 調査票…………… 81

I 調査実施の概要

I 調査実施の概要

1. 調査の目的と方法等について

障害者総合支援法に基づく「いきいきふっつ障害者プラン第4期障害福祉計画」の策定に当たり、障害福祉サービスへのニーズや、障がい者の日頃の生活の様子、要望等を把握するために実施しました。

(1) 調査対象者

- ・身体障害者手帳所持者 …………… 650人
- ・療育手帳所持者 …………… 300人
- ・精神障害者保健福祉手帳所持者
- ・自立支援医療受給者証（精神通院）所持者 } …… 400人
- ・難病（特定疾患医療）に関する受給者証所持者… 150人

(2) 調査方法

郵送による配布・回収

(3) 調査期間

平成26年7月30日～9月5日

(4) 回収結果

区分	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者等	難病	計
対象者数（人）	650	300	400	150	1,500
回答者数（人）	350	168	185	71	774
回答率（%）	53.8	56.0	46.3	47.3	51.6

2. 報告書の読み方について

- ・ 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 図表中の「n」（net）とは、その設問への回答者数を表します。
- ・ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いています。
- ・ 省略の一例として、身体障害者手帳所持者を身体障がい者、療育手帳所持者を知的障がい者、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療費（精神通院）の支給を受けている方を精神障がい者等、難病（特定疾患医療）に関する受給者証所持者を難病として表記しています。

Ⅱ 調査結果

Ⅱ 調査結果

1. 調査対象者本人のことについて

(1) 回答者

◎ はじめに、この調査票にお答えいただくのはどなたですか。(○は1つだけ)

○調査票への回答者については、全体では「調査対象のあなた自身」が 60.9%と最も多くなっています。

○対象種別で見ると、知的障がい者では「あなたの意見を確認することが難しいので、家族や介助者、施設職員が回答」が 39.3%と多くなっています。

図 1.1 調査票の回答者

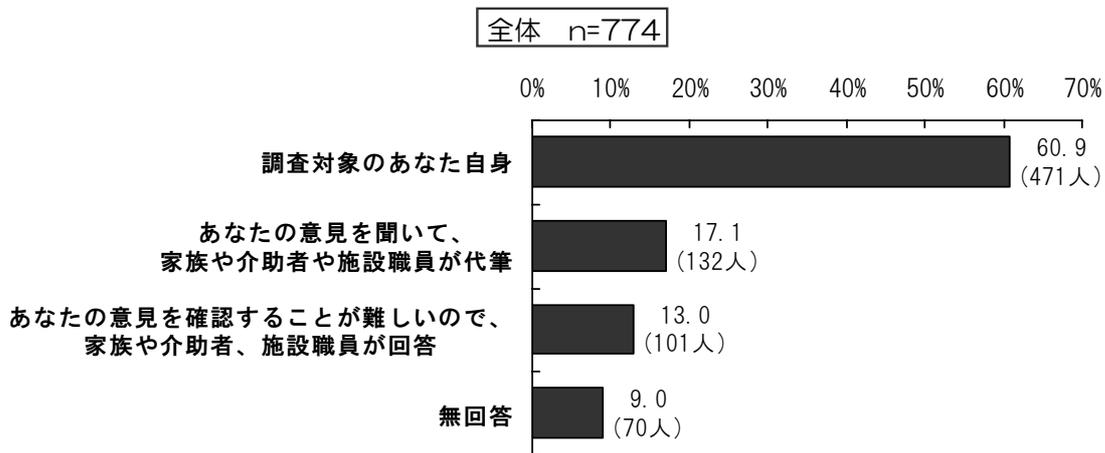
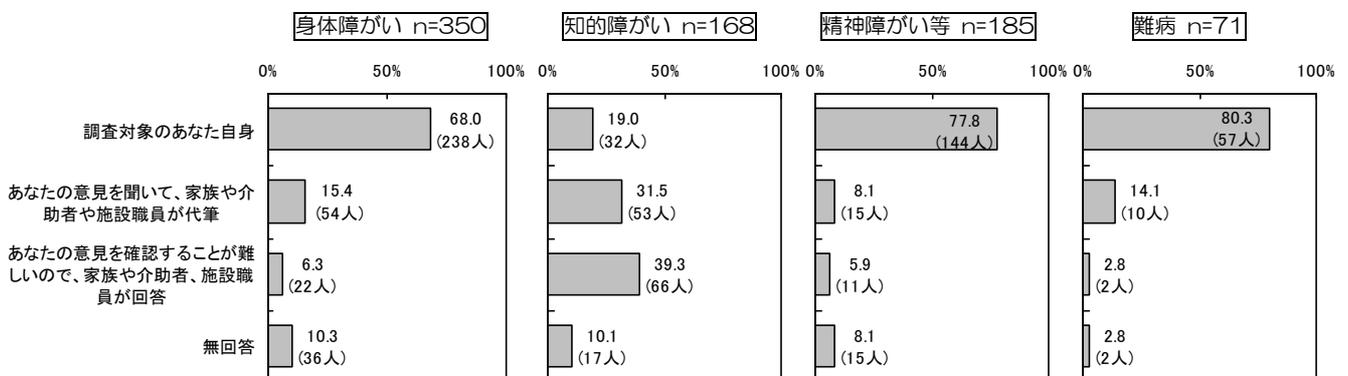


図 1.2 調査票の回答者 (対象種別)



(2) 性別

問1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つだけ)

○回答者の性別の内訳は、男性が48.3%、女性が43.3%です。
 ○対象種別で見ると、身体障がい者と知的障がい者では、全体の傾向と同様に男性が多く、精神障がい者等では男性と女性がほぼ同数、難病では女性の割合が高くなっています。

図1.3 性別

全体 n=774

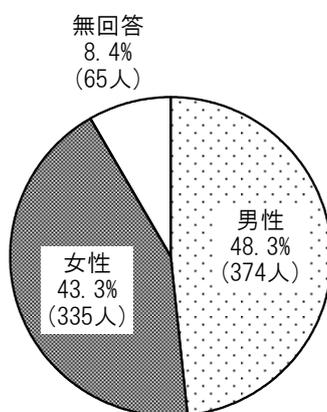
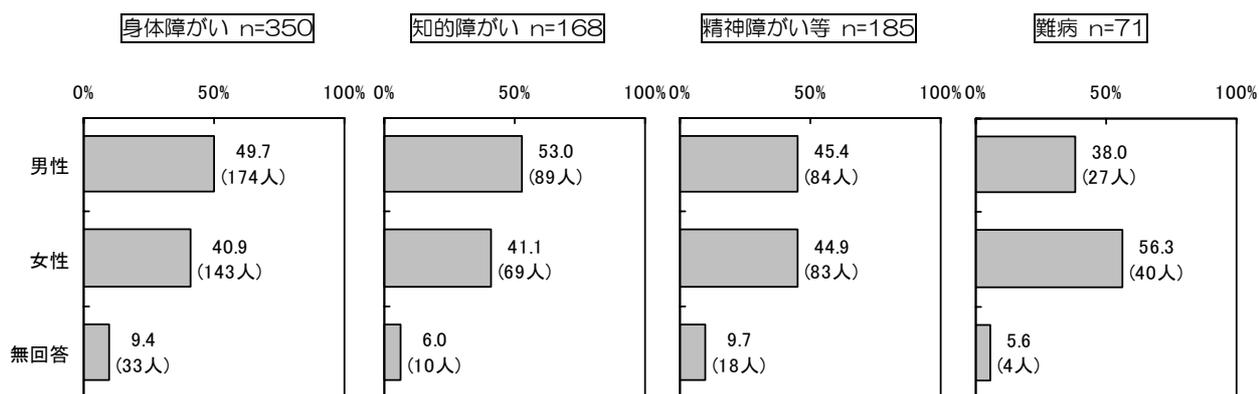


図1.4 性別 (対象種別)



(3) 年齢

問2 あなたは何歳ですか。(〇は1つだけ)

○回答者の年齢については、全体では「40～64歳」が55.2%ともっとも多くなっています。

○対象種別で見ると、身体障がい者では「40～64歳」(54.6%)、知的障がい者では「18～39歳」(47.6%)、精神障がい者等では「40～64歳」(69.2%)、難病の方では「40～64歳」(67.6%)がそれぞれもっとも多くなっています。また、「65歳以上」の回答者のほとんどは、身体障がい者となっています。

図1.5 年齢

全体 n=774

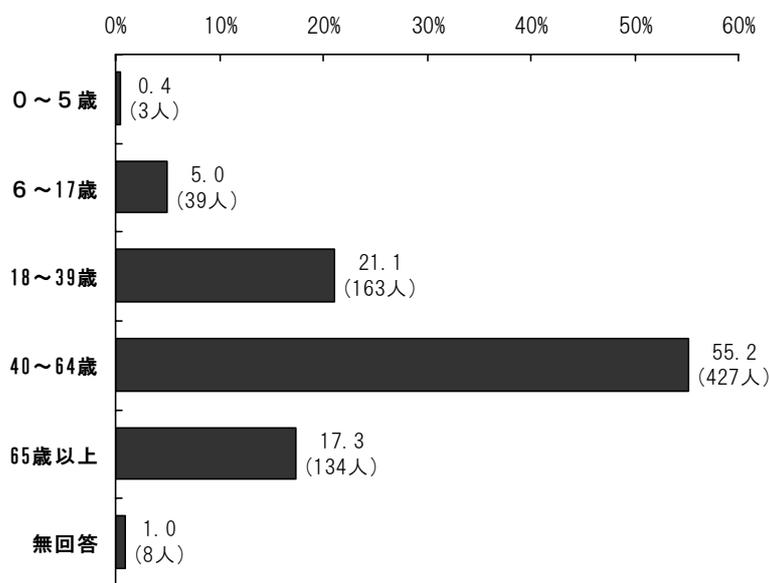


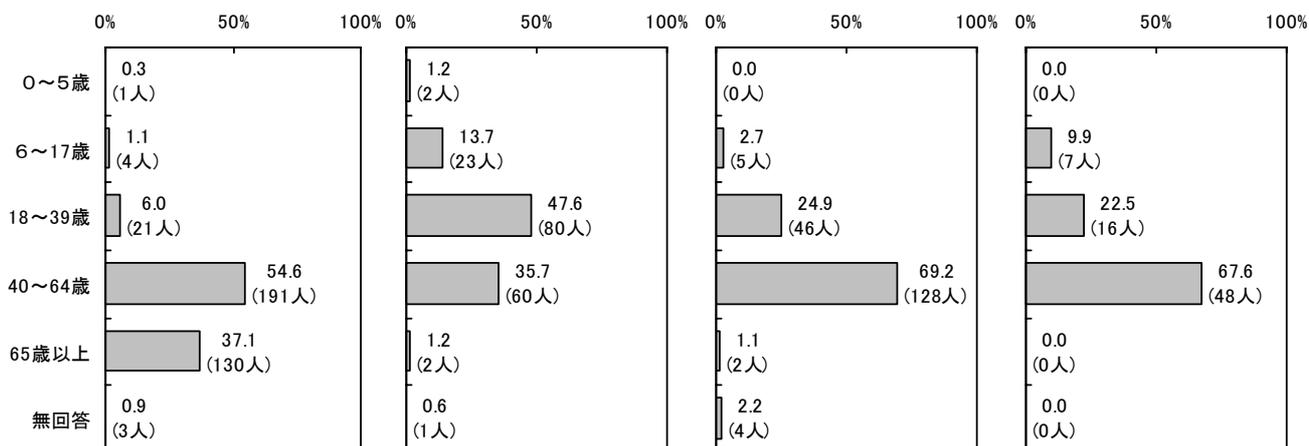
図1.6 年齢 (対象種別)

身体障がい n=350

知的障がい n=168

精神障がい等 n=185

難病 n=71



(4) 居住地区

問3 あなたのお住まいの地区はどちらですか。(〇は1つだけ)

○居住地区については、全体では「富津地区」が48.6%と最も多く、「天羽地区」が22.9%、「大佐和地区」が21.3%となっています。

○対象種別で見ると、身体障がい者と精神障がい者等は全体とほぼ同様の結果となっています。一方、知的障がい者では「その他の市町村」(18.5%)、難病の方では「富津地区」(59.2%)が、全体を大幅に上回る割合となっています。

図1.7 居住地区

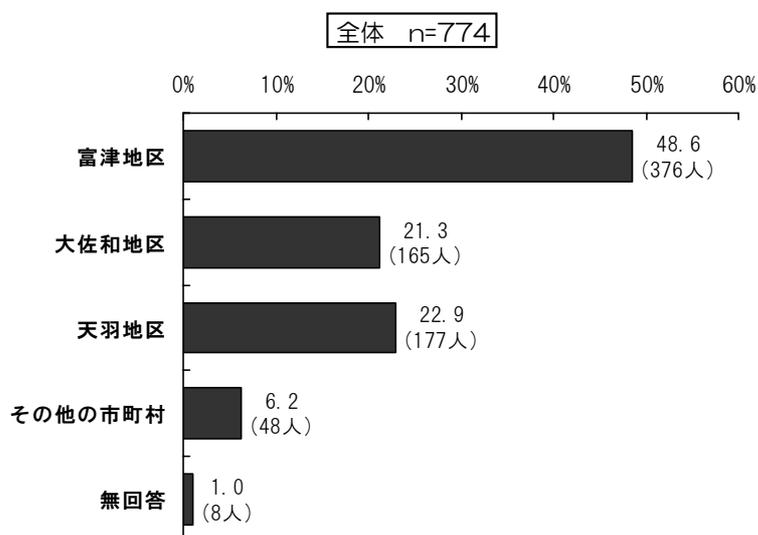
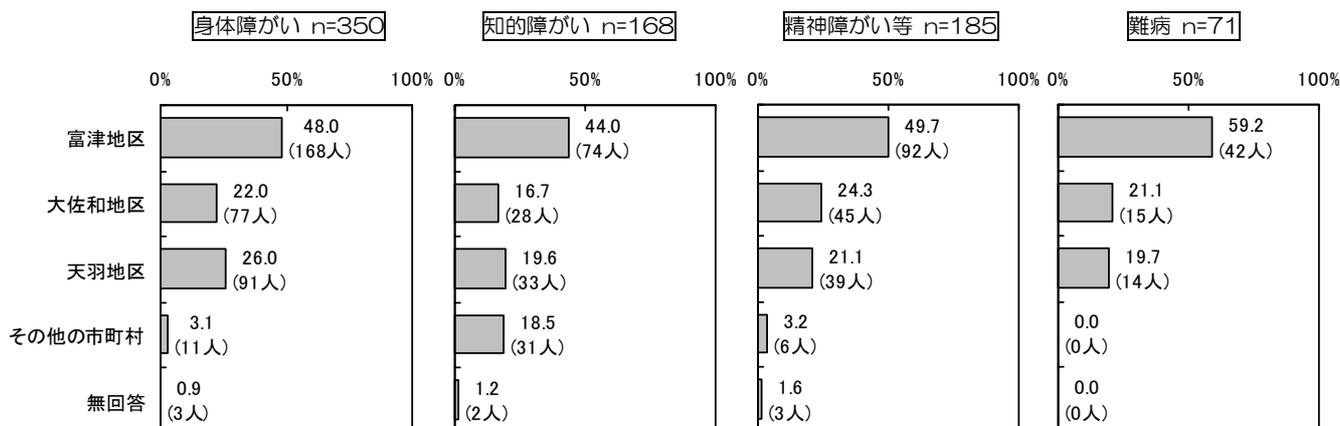


図1.8 居住地区 (対象種別)

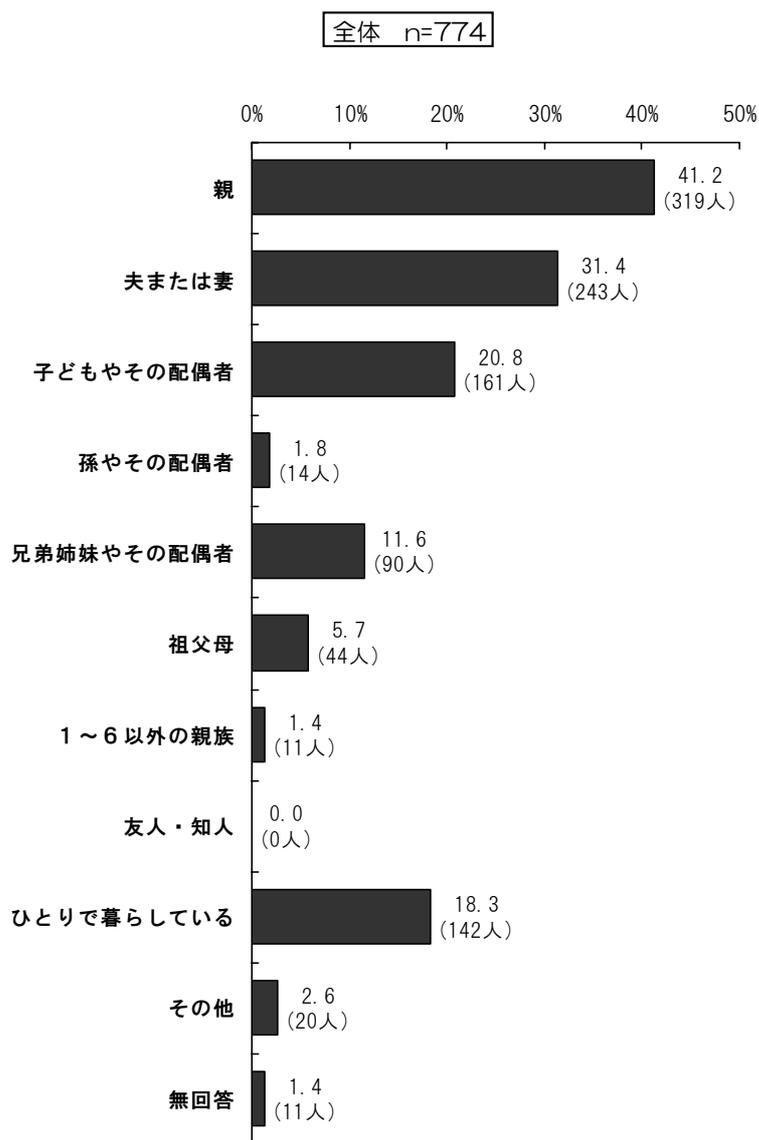


(5) 同居の状況について

問4 あなたは、誰と生活していますか。(あてはまるものすべてに○)

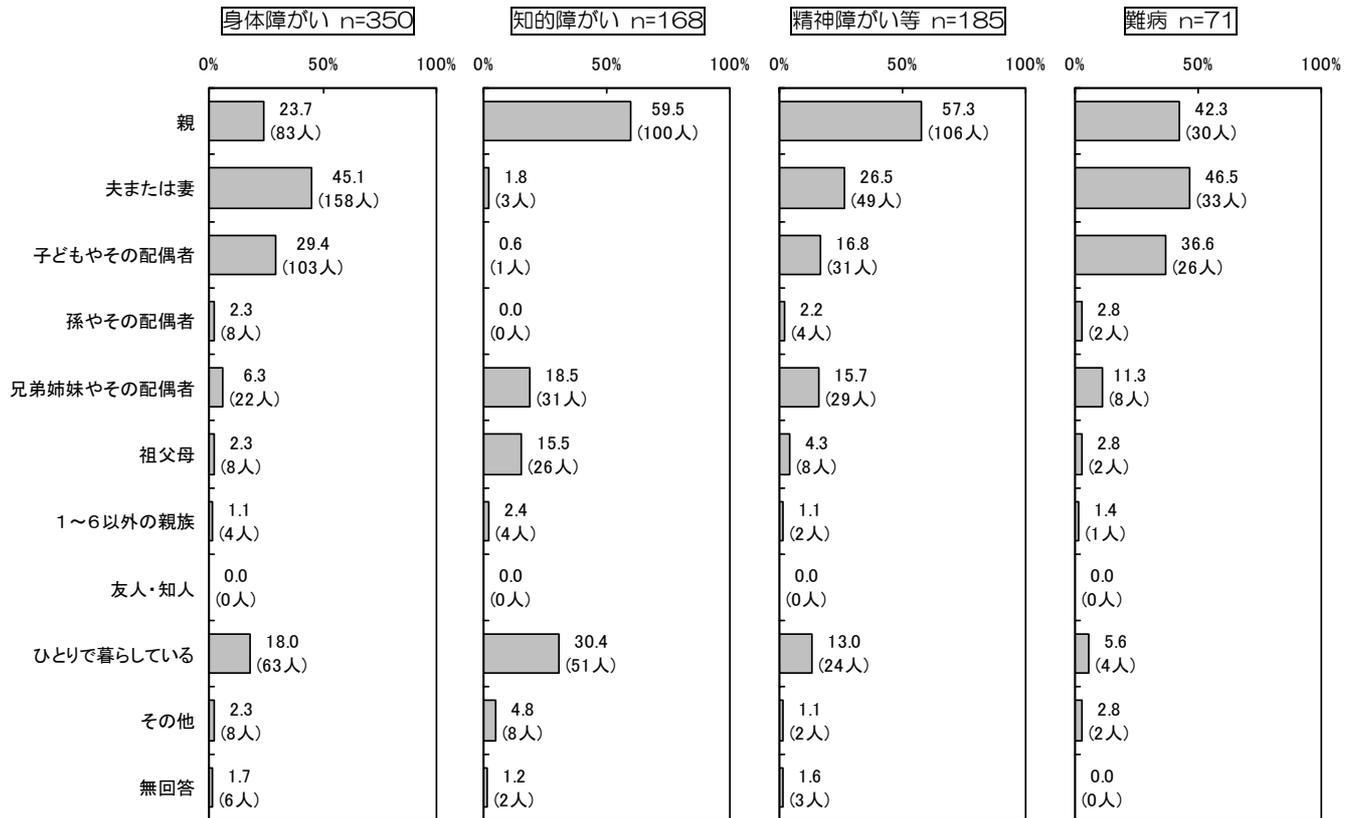
○同居の状況についてたずねたところ、全体では「親」が41.2%ともっとも多く
なっています。

図1.9 同居者の状況



○対象種別で見ると、身体障がい者と難病の方では「夫または妻」（身：45.1%、難：46.5%）が多くなっていますが、知的障がい者と精神障がい者等では「親」（知：59.5%、精：57.3%）がきわめて多くなっています。

図 1.10 同居者の状況（対象種別）



(6) 手帳の所持状況等と身体障がいの様子

問5 以下の中で、あなたにあてはまるものすべてに○をつけてください。

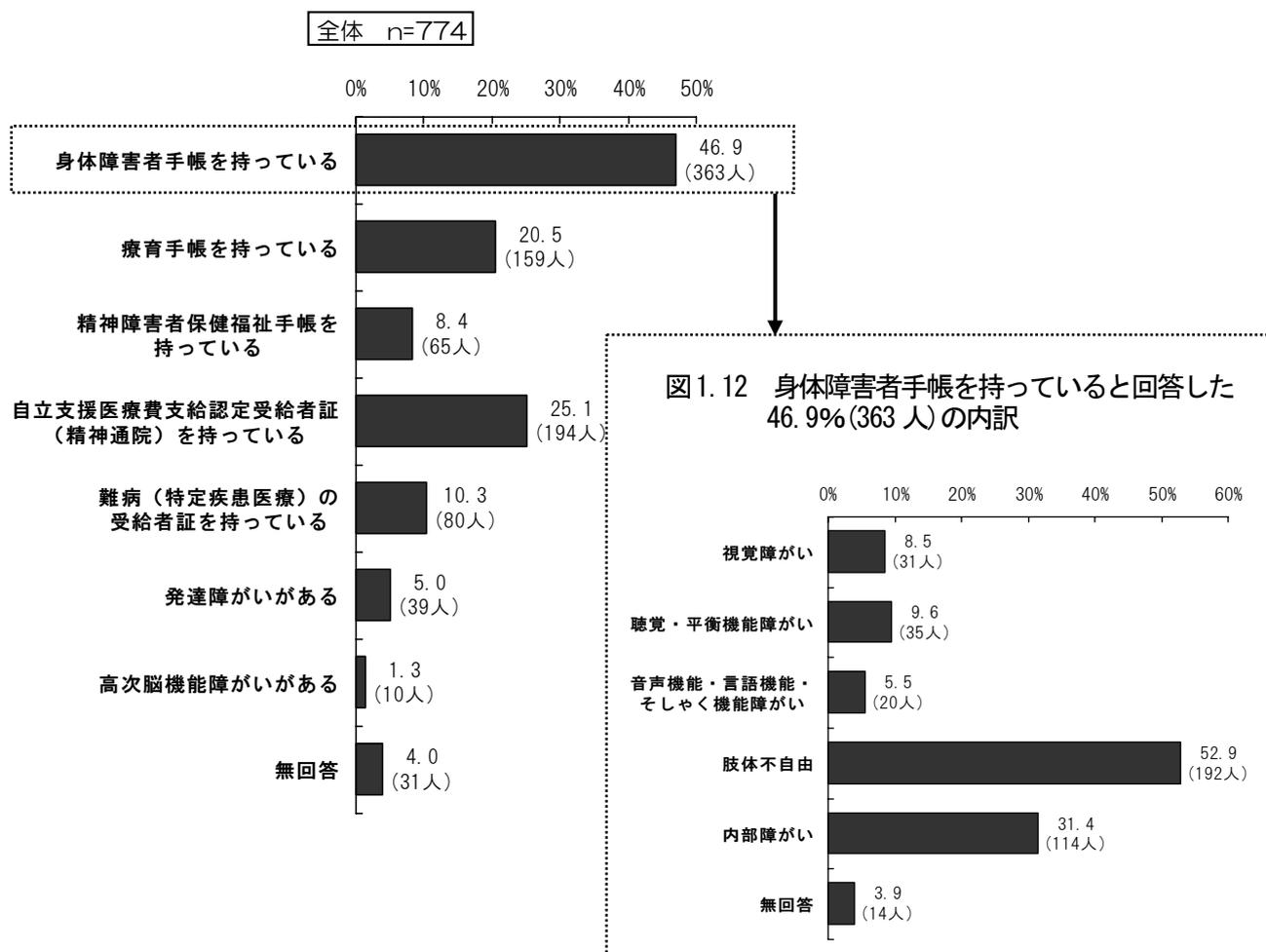
〈問5で「1」を回答した方におたずねします。〉

問5-1 どのような障がいがありますか。(あてはまるものすべてに○)

○手帳の所持については、「身体障害者手帳を持っている」方が46.9%、「療育手帳を持っている」方が20.5%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」方は8.4%、「自立支援医療（精神通院）受給者証を持っている」方は25.1%、「難病（特定疾患医療）の受給者証を持っている」が10.3%、「発達障がいがある」が5.0%、「高次脳機能障がいがある」が1.3%となっています。

○身体障害者手帳をお持ちの方に障がいの内訳をたずねたところ、「肢体不自由」(52.9%)が半数を越えてもっとも多くなっています。

図1.11 手帳の所持状況等



2. あなたの健康や医療について

(1) 医師による診療

問6 あなたは、現在、医師による診療を受けていますか。(〇は1つだけ)

○医師による診察については、全体の75.7%が「通院している」と回答し、「往診を受けている」は4.0%、「入院している」は1.8%です。

○対象種別で見ると、知的障がい者では36.3%が「診療は受けていない」と回答しています。

図2.1 医師による診療

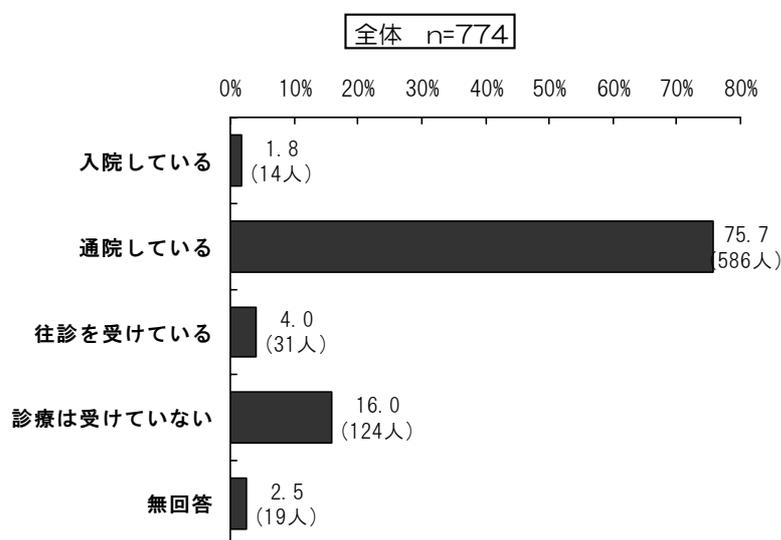
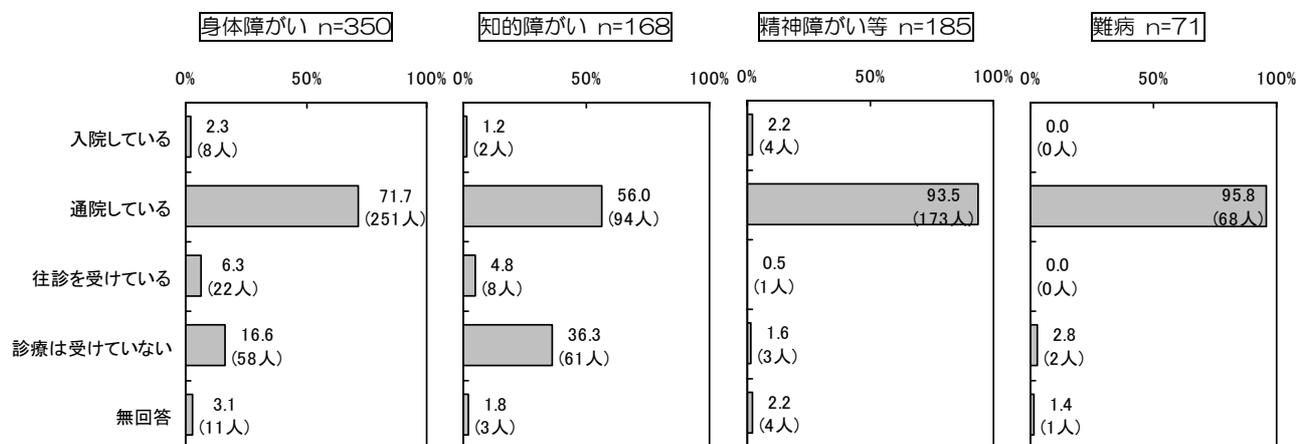


図2.2 医師による診療 (対象種別)

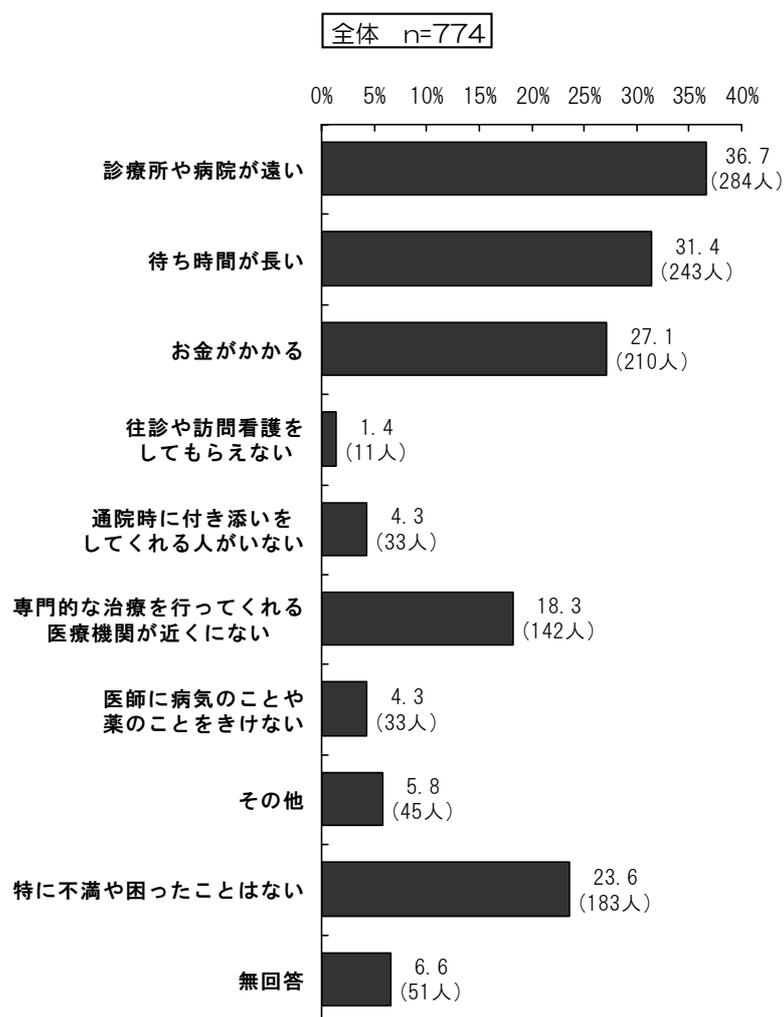


(2) 医療について困っていること

問7 あなたが、医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

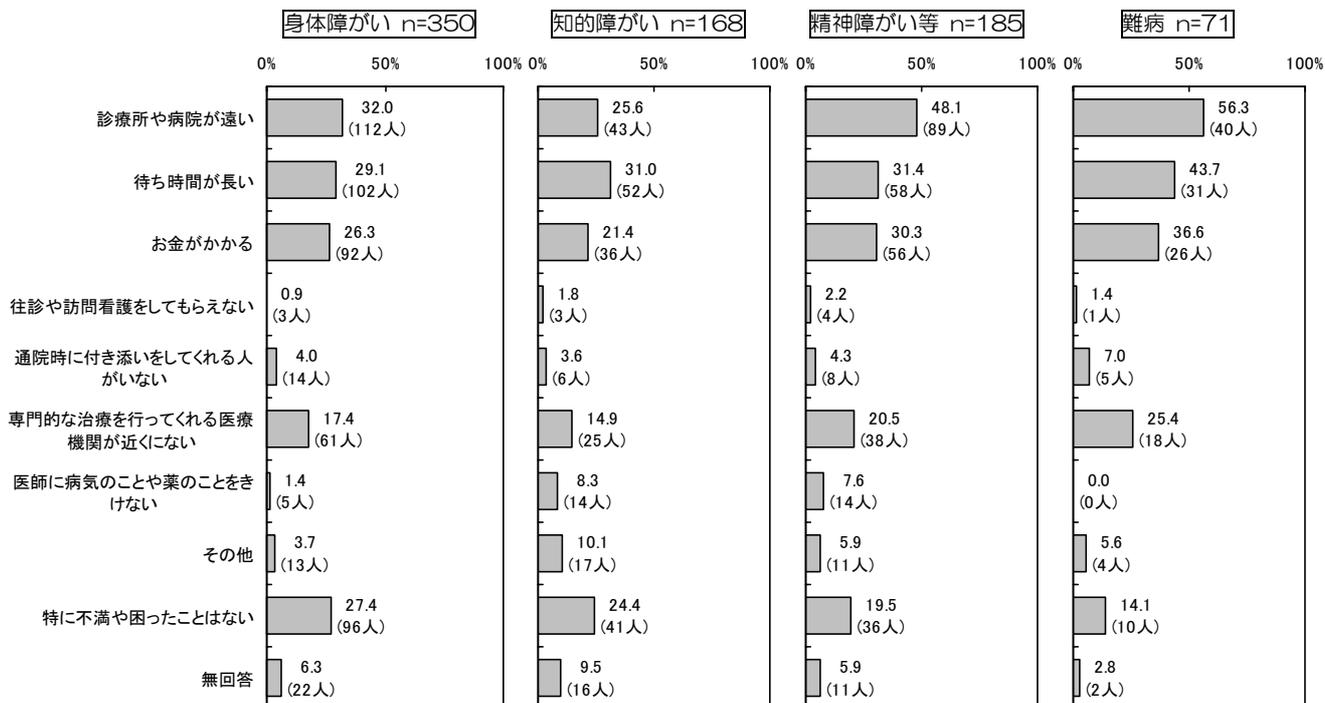
○医療について困っていることについてたずねたところ、「診療所や病院が遠い」の回答が全体の36.7%でもっとも多く、次いで「待ち時間が長い」(31.4%)、「お金がかかる」(27.1%) などとなっています。

図2.3 医療について困っていること



○対象種別で見ると、身体障がい者と精神障がい者等と難病の方では、「診療所や病院が遠い」の割合が（身：32.0%、精：48.1%、難：56.3%）が高くなっています。また、知的障がい者は「待ち時間が長い」（31.0%）が高くなっています。

図2.4 医療について困っていること（対象種別）



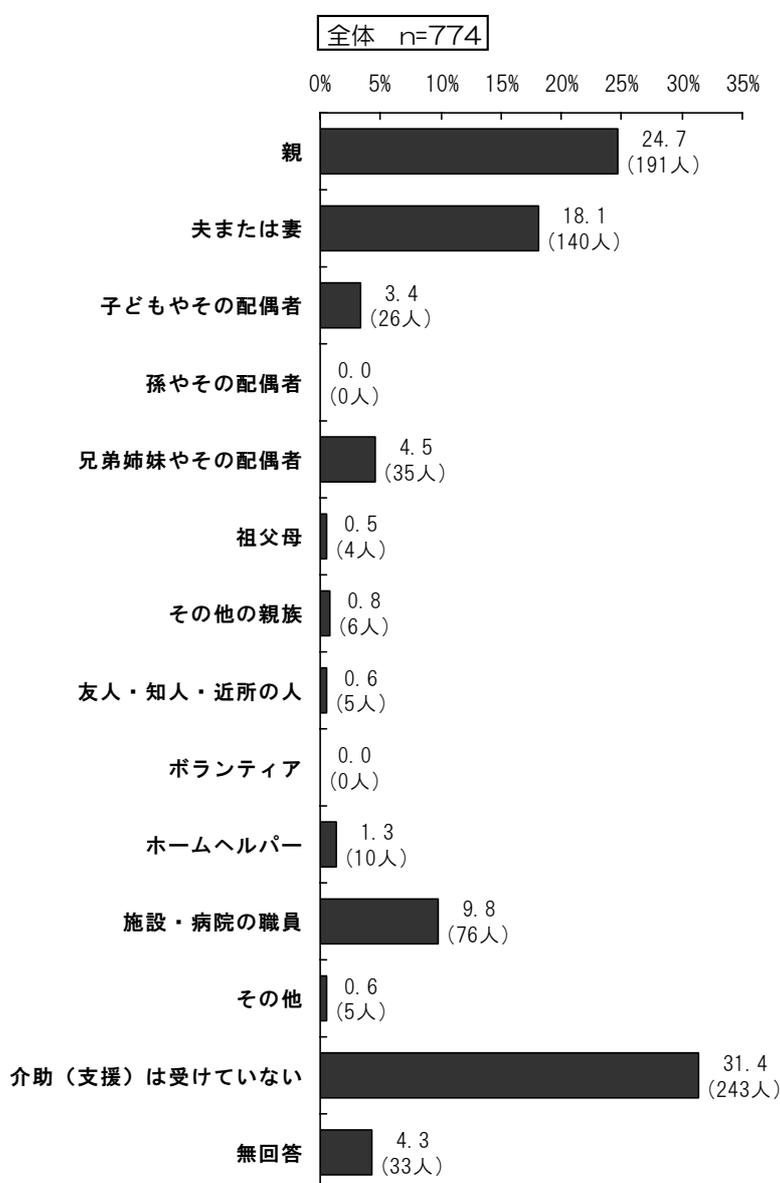
3. 介助の状況について

(1) 主な介助者

問8 あなたの主な介助者（支援者）は、どなたですか。（○は1つだけ）

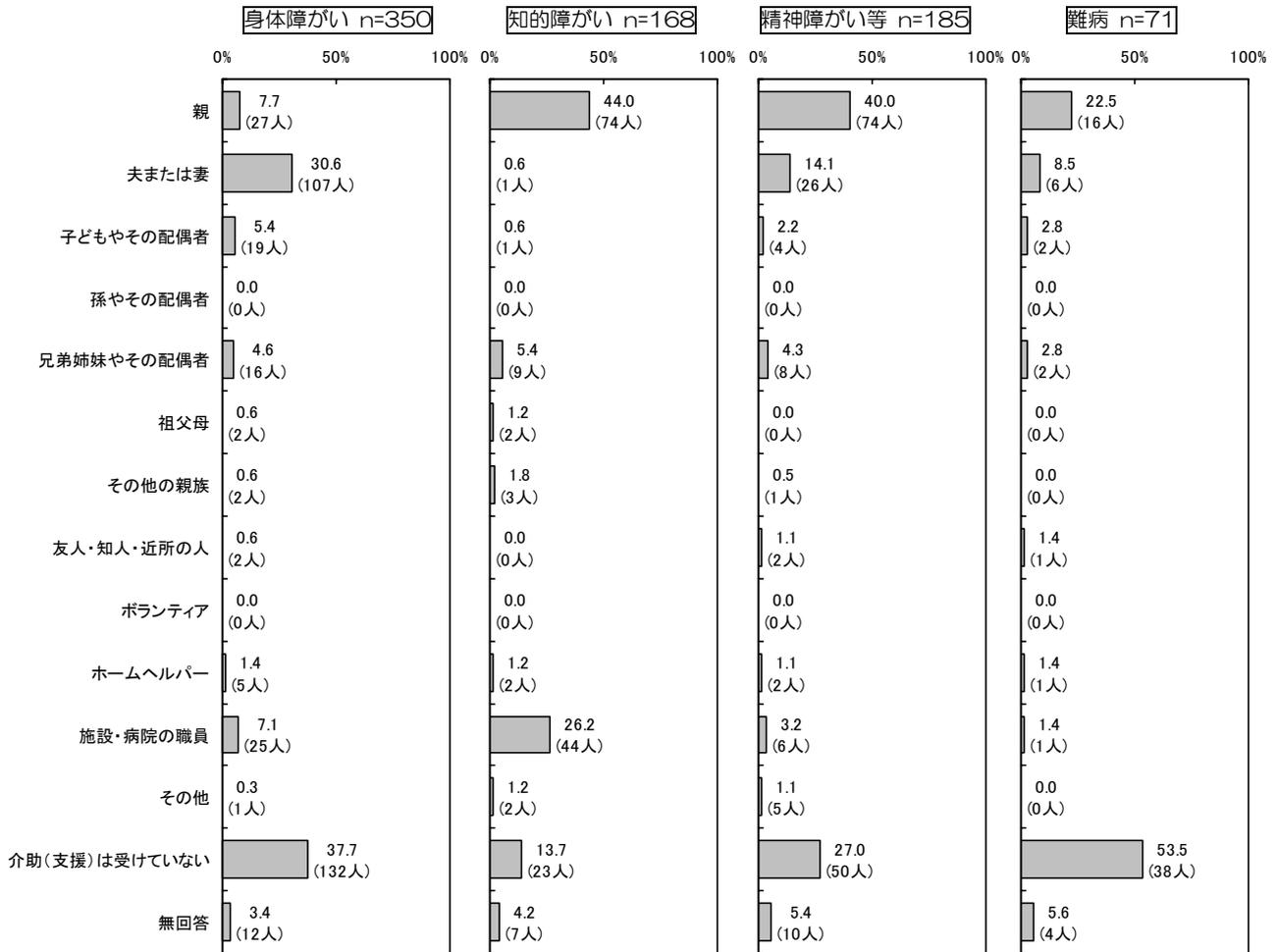
○主な介助者については、「介助（支援）は受けていない」（31.4%）の回答を除くと、全体では「親」（24.7%）との回答がもっとも多く、次いで「夫または妻」（18.1%）、「施設・病院の職員」（9.8%）などとなっています。

図3.1 主な介助者



○対象種別で見ると、「介助（支援）は受けていない」（身：37.7%、知：13.7%、精：27.0%、難：53.5%）の回答を除く主な介助者の内訳は、身体障がい者は「夫または妻」（30.6%）、知的障がい者、精神障がい者等、難病の方は「親」（知：44.0%、精：40.0%、難：22.5%）がもっとも多くなっています。そのほか、知的障がい者では、「施設・病院の職員」が26.2%となっており、他の対象種別の回答割合を大幅に上回る結果となっています。

図3.2 主な介助者（対象種別）



(2) 主な介助者の年齢

〈問8-1と問8-2は、問8で「1」～「7」（「親」～「その他の親族」）を回答した方におたずねします。〉

問8-1 あなたを主に介助している人は何歳ですか。（○は1つだけ）

○主な介助者の年齢についてたずねたところ、全体では「65歳以上」が38.3%と4割近い割合となっているほか、年代が上がるほど割合が増す傾向が見られます。

○対象種別で見ると、精神障がい者等では「65歳以上」が47.8%で、もっとも高い割合となっています。身体障がい者でも、「60～64歳」と「65歳以上」を合わせた割合が65.9%となっており、介助者の高齢化傾向がうかがえます。

図3.3 主な介助者の年齢

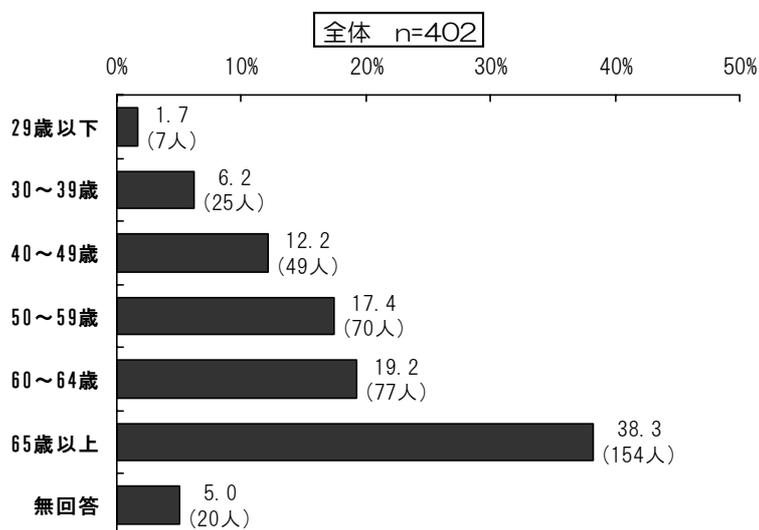
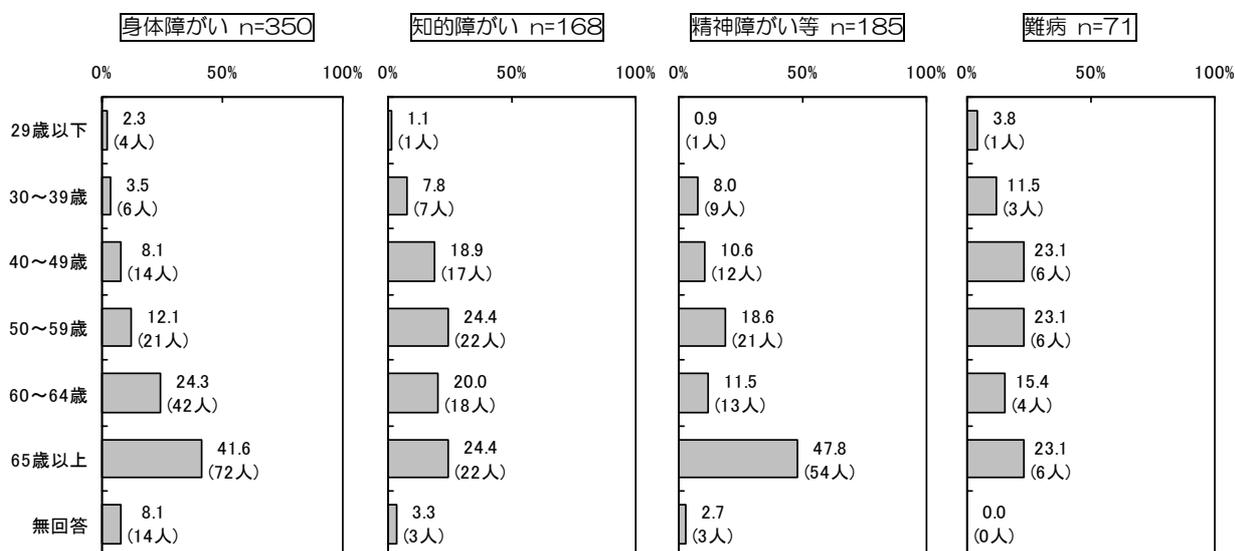


図3.4 主な介助者の年齢（対象種別）



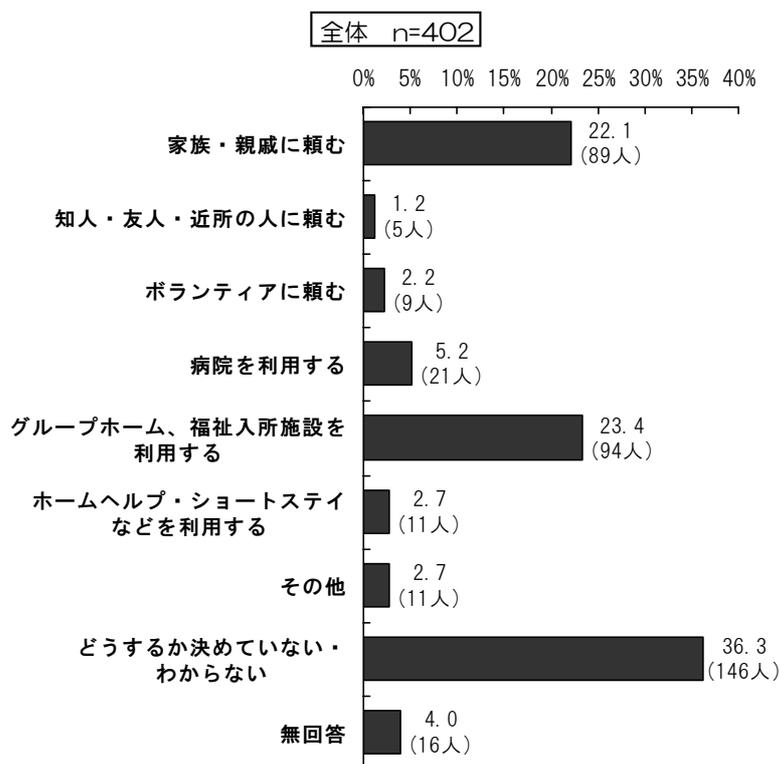
(3) 主な介助者が介助できなくなった場合について

〈問8-1と問8-2は、問8で「1」～「7」（「親」～「その他の親族」）を回答した方におたずねします。〉

問8-2 あなたを主に介助している人が介助できなくなった場合、どのようにしたいと思いますか。（○は1つだけ）

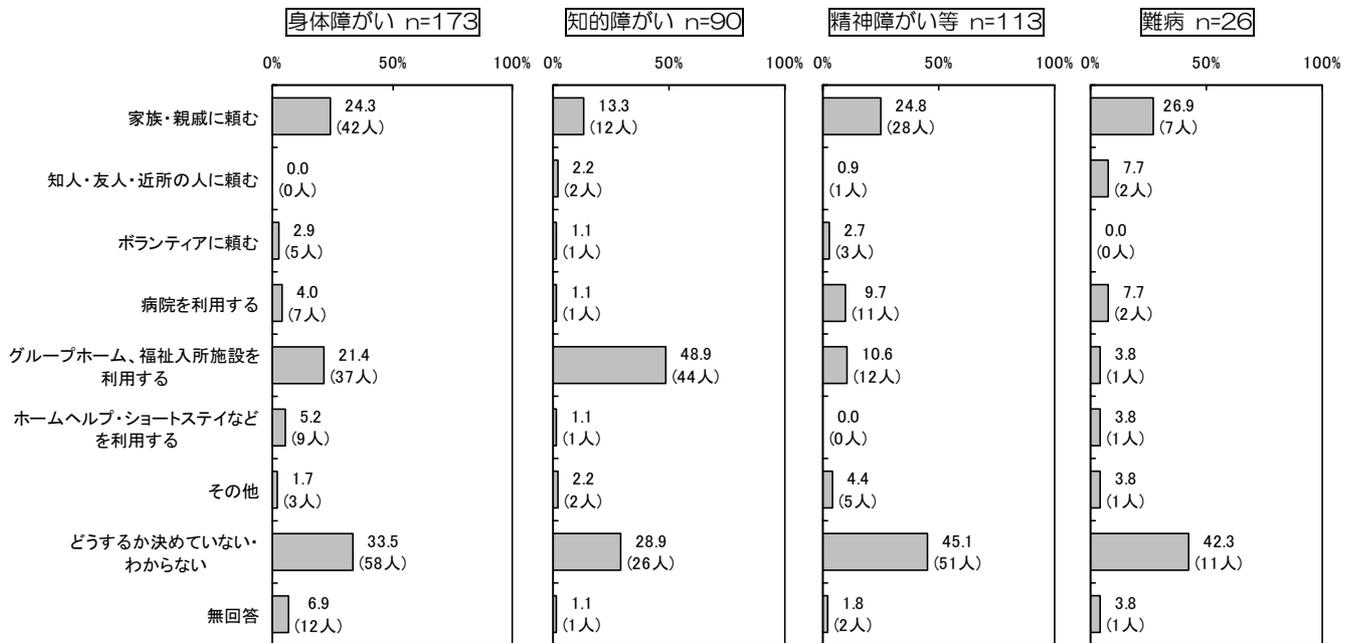
○主な介助者が介助できなくなった場合の希望についてたずねたところ、「どうするか決めていない・わからない」を除き、全体では「グループホーム、福祉入所施設を利用する」が23.4%でもっとも多く、次いで「家族・親戚に頼む」が22.1%、「病院を利用する」が5.2%などとなっています。一方、「どうするか決めていない・わからない」の回答も36.3%と高い割合となっています。

図3.5 主な介助者が介助できなくなった場合



○対象種別で見ると、知的障がい者では「グループホーム、福祉入所施設を利用する」が48.9%ときわめて高い割合となっています。

図3.6 主な介助者が介助できなくなった場合（対象種別）



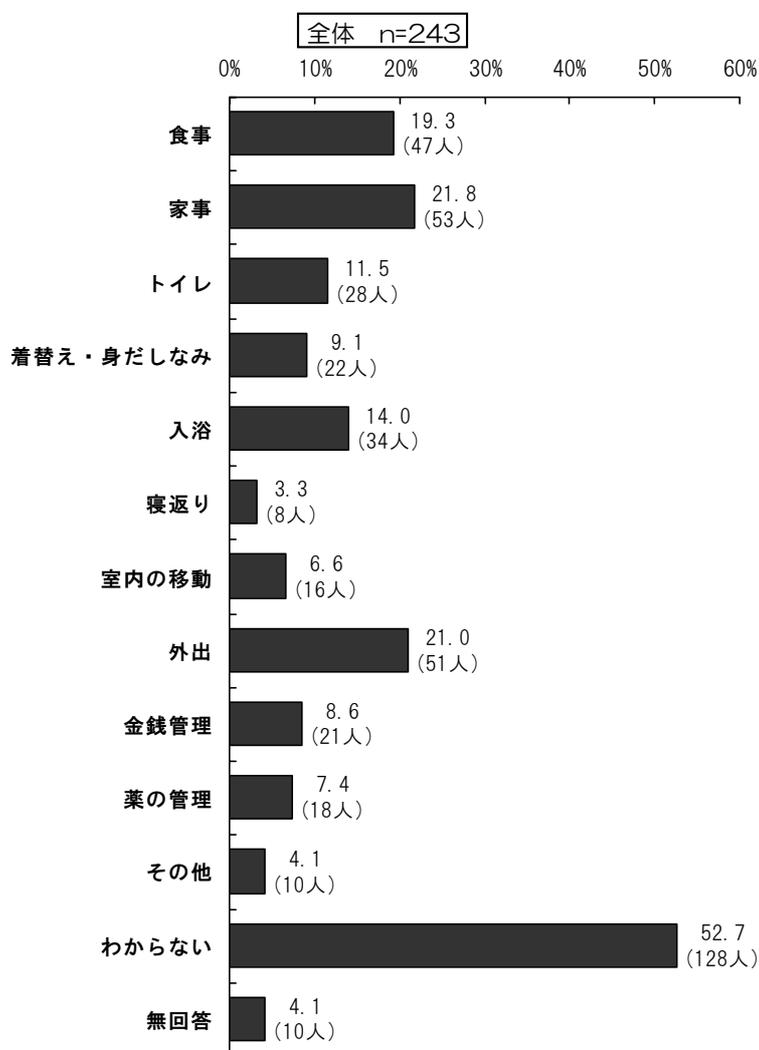
(4) 将来必要となりそうな介助について

〈問8-3は、問8で「13 介助(支援)は受けていない」を回答した方におたずねします。〉

問8-3 将来必要となると思われる介助はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

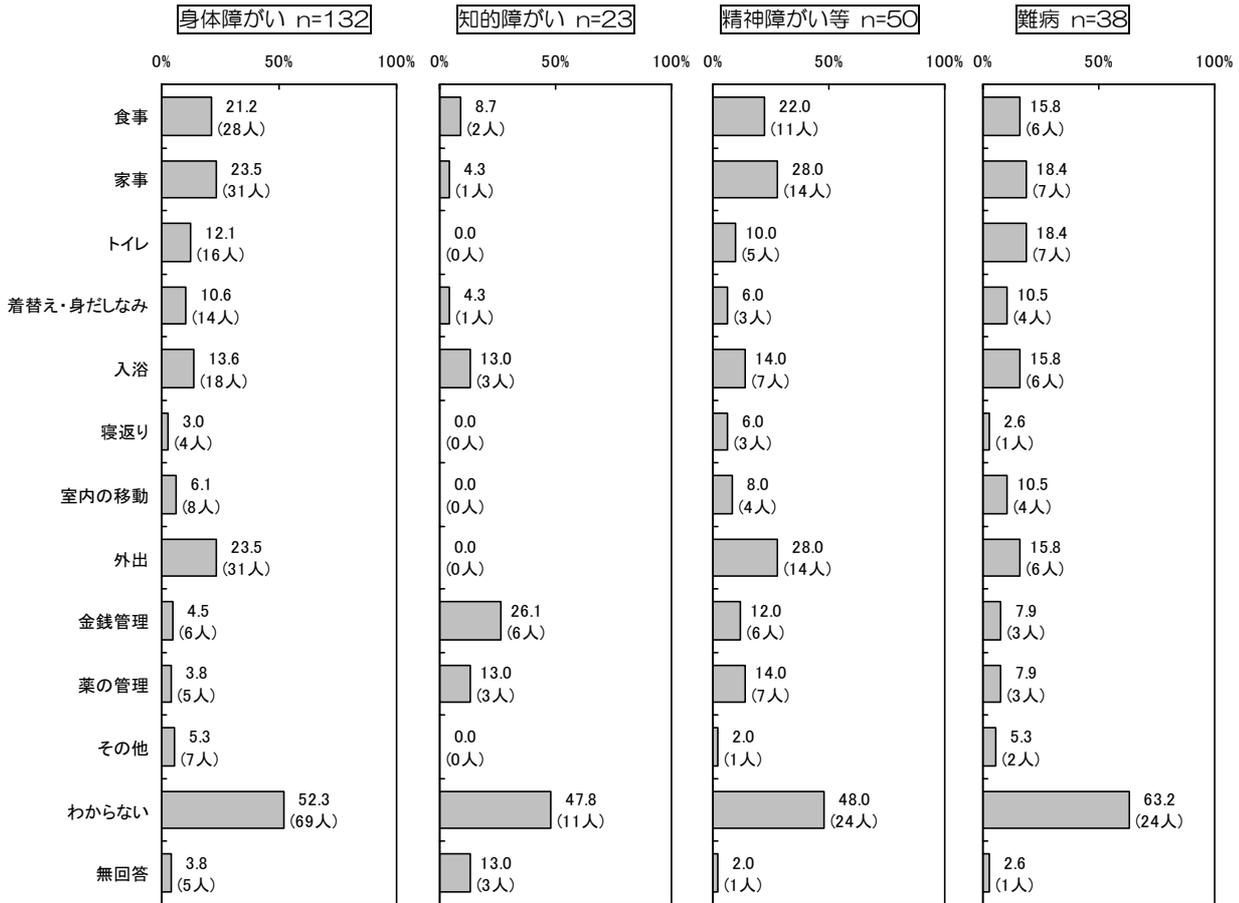
○将来必要となると思われる介助についてたずねたところ、全体では、「わからない」(52.7%)を除き、「家事」が21.8%でもっとも多く、次いで「外出」が21.0%、「食事」が19.3%などとなっています。

図3.7 将来必要となりそうな介助について



○対象種別で見ると、身体障がい者と難病の方では、全体とほぼ同様の傾向となっています。一方、知的障がい者と精神障がい者等では、「金銭管理」（知：26.1%、精：12.0%）と「薬の管理」（知：13.0%、精：14.0%）が比較的多くあげられるなど、対象者の抱える障がい等の別で特徴的な傾向がうかがえます。

図 3.8 将来必要となりそうな介助について（対象種別）



4. サービスの利用について

(1) 障がい福祉サービスの利用の様子

問9 富津市では、以下のような障がい福祉サービスを提供しています。それぞれの利用の様子についてあてはまる番号1つに○をつけてください。

● 利用度について

「満足している」、「不満がある」を合わせた『利用している』人の割合は、「生活介護」が7.6%でもっとも多く、次いで、「相談支援事業」(6.6%)、「施設入所支援」(6.3%) などとなっています。

図4.1 障害福祉サービスの利用の様子

	利用している		利用していない			無回答
	満足している	不満がある	今後は利用したい	今後も利用しない	どう分らないサービスか、	
全体 (n=774)						
上段：人数 下段：%						
居宅介護	19 2.5	8 1.0	69 8.9	159 20.5	229 29.6	290 37.5
行動援護	5 0.6	3 0.4	52 6.7	144 18.6	262 33.9	308 39.8
同行援護	7 0.9	1 0.1	65 8.4	144 18.6	250 32.3	307 39.7
短期入所	9 1.2	3 0.4	86 11.1	172 22.2	198 25.6	306 39.5
生活介護	56 7.2	3 0.4	75 9.7	141 18.2	207 26.7	292 37.7
自立訓練	12 1.6	8 1.0	74 9.6	159 20.5	216 27.9	305 39.4
就労移行支援	14 1.8	4 0.5	60 7.8	152 19.6	233 30.1	311 40.2
就労継続支援	21 2.7	7 0.9	57 7.4	149 19.3	230 29.7	310 40.1
児童発達支援・放課後等デイサービス	15 1.9	1 0.1	22 2.8	202 26.1	208 26.9	326 42.1
グループホーム	29 3.7	5 0.6	85 11.0	165 21.3	193 24.9	297 38.4
施設入所支援	42 5.4	7 0.9	87 11.2	141 18.2	197 25.5	300 38.8
相談支援事業	44 5.7	7 0.9	107 13.8	98 12.7	215 27.8	303 39.1
地域活動支援センター	16 2.1	2 0.3	81 10.5	123 15.9	244 31.5	308 39.8
移動支援	17 2.2	9 1.2	77 9.9	137 17.7	230 29.7	304 39.3
日常生活用具給付	21 2.7	10 1.3	82 10.6	136 17.6	218 28.2	307 39.7
日中一時支援	27 3.5	3 0.4	74 9.6	143 18.5	224 28.9	303 39.1

● 満足度について

『利用している』人のうち、「利用していて、満足している」人の割合では「生活介護」が 94.9%でもっとも高く、次いで「児童発達支援・放課後等デイサービス」(93.8%)、「日中一時支援」(90.0%) などとなっており、9つのサービスで8割以上の人満足していると回答しています。一方、「自立訓練」(60.0%)、「行動援護」(62.5%) などの満足度は高くありません。

図 4.2 障害福祉サービスの満足度

順位	サービス名	満足度※
1位	生活介護	94.9%
2位	児童発達支援・放課後等デイサービス	93.8%
3位	日中一時支援	90.0%
4位	地域活動支援センター	88.9%
5位	同行援護	87.5%
6位	相談支援事業	86.3%
7位	施設入所支援	85.7%
8位	グループホーム	85.3%
9位	就労移行支援	77.8%
10位	短期入所	75.0%
11位	就労継続支援	75.0%
12位	居宅介護	70.4%
13位	日常生活用具給付	67.7%
14位	移動支援	65.4%
15位	行動援護	62.5%
16位	自立訓練	60.0%

※満足度は「満足している」または「不満がある」と回答した方の人数をあわせた『利用している』方の人数のうち、「満足している」を選択した人数の割合。

● 潜在的なニーズについて

利用していないが、「今後は利用したい」という潜在的なニーズの割合については、「相談支援事業」が13.8%でもっとも高く、次いで「施設入所支援」が11.2%、「短期入所」が11.1%、「グループホーム」が11.0%など、比較的高い割合となっています。

図4.3 障害福祉サービスの潜在的ニーズ

順位	サービス名	構成比
1位	相談支援事業	13.8%
2位	施設入所支援	11.2%
3位	短期入所	11.1%
4位	グループホーム	11.0%
5位	日常生活用具給付	10.6%
6位	地域活動支援センター	10.5%
7位	移動支援	9.9%
8位	生活介護	9.7%
9位	自立訓練	9.6%
10位	日中一時支援	9.6%
11位	居宅介護	8.9%
12位	同行援護	8.4%
13位	就労移行支援	7.8%
14位	就労継続支援	7.4%
15位	行動援護	6.7%
16位	児童発達支援・放課後等デイサービス	2.8%

● サービスの認知度について

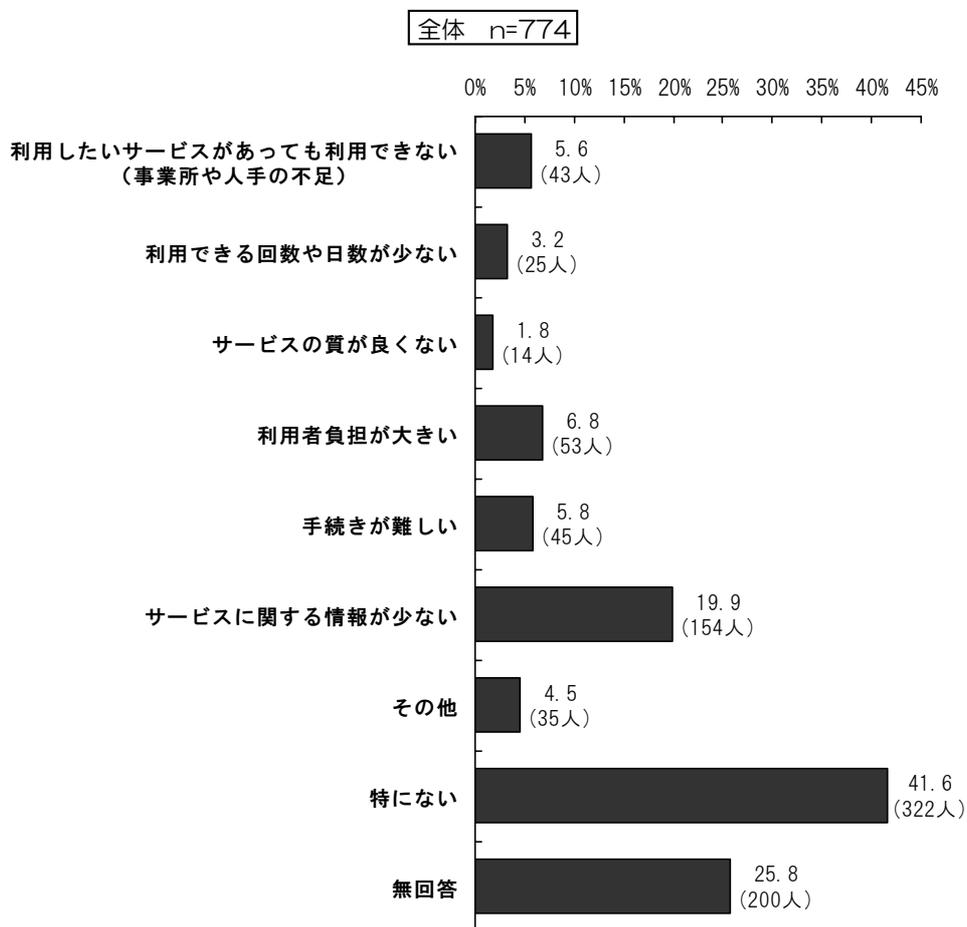
すべてのサービスについて「どういうサービスか、よく分からない」との回答が、3割前後の高い割合で見られました。無回答層の多さとあわせ、サービスの認知度はまだ十分ではないことがうかがえます。

(2) 障がい福祉サービスの利用に関して困っていること

問10 サービス利用に関して困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

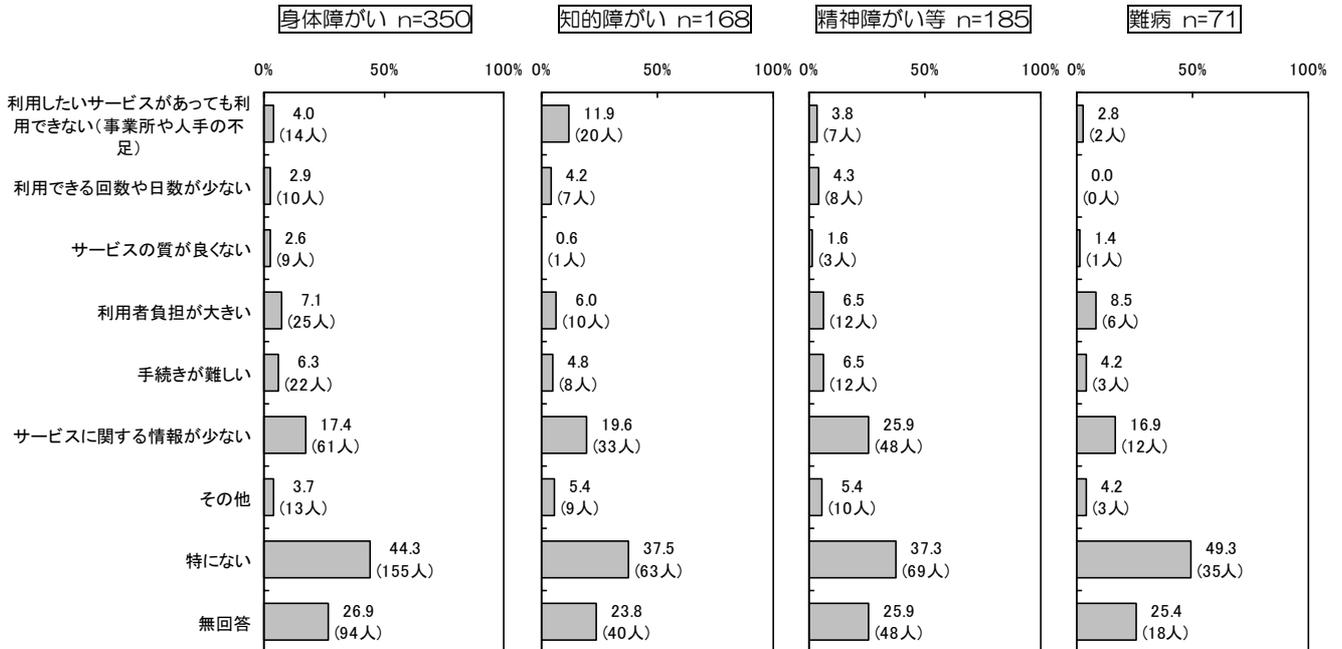
○サービスの利用に関して困っていることについてたずねたところ、全体では「サービスに関する情報が少ない」との回答が19.9%ともっとも多く、次いで「利用者負担が大きい」(6.8%)、「手続きが難しい」(5.8%)などとなっています。一方、「特に無い」の割合は41.6%で、4割強の方が困りごとは特にないと回答しています。

図4.4 障害福祉サービスの利用に関して困っていること



○対象種別で見ると、知的障がい者で「利用したいサービスがあっても利用できない（事業所や人での不足）」（11.9%）、精神障がい者等で「サービスに関する情報が少ない」（25.9%）などの割合が高くなっています。

図 4.5 障害福祉サービスの利用に関して困っていること（対象種別）



5. 日中活動や就学・就労について

(1) 外出頻度

問 11 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(〇は1つだけ)

○1週間にどの程度外出するかについてたずねたところ、全体では「毎日外出する」と「1週間に数回外出する」を合わせた『外出する』人の割合は、76.9%、「めったに外出しない」と「まったく外出しない」を合わせた『外出しない』人の割合は16.8%となっています。

○対象種別で見ると、難病の方で『外出する』人の割合が合計で91.5%ともっとも高くなっています。一方、『外出しない』人の割合は、精神障がい者等が合計で20.0%と高い割合となっています。

図 5.1 1週間の外出頻度

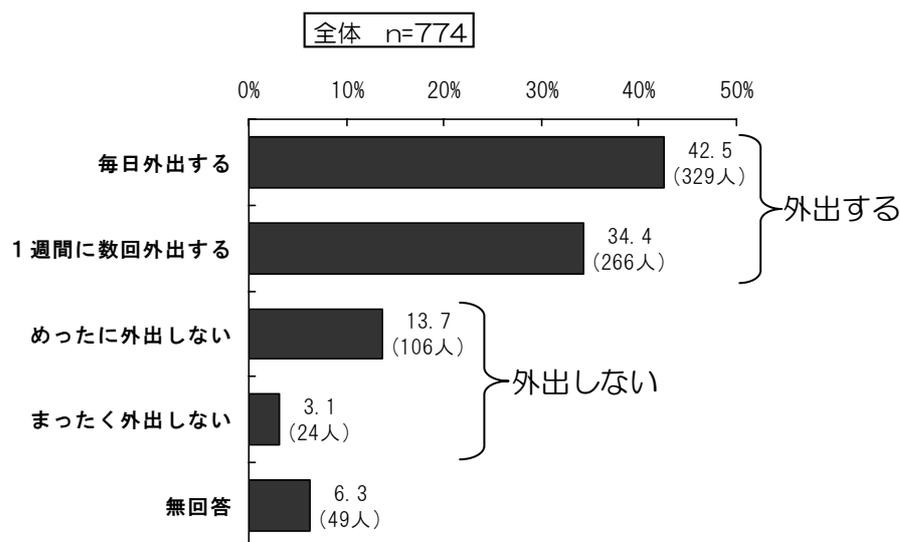
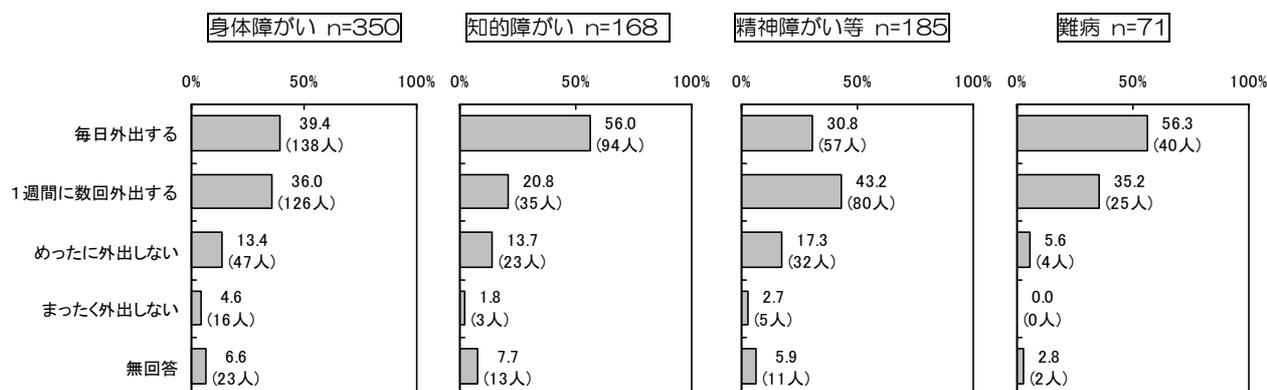


図 5.2 1週間の外出頻度 (対象種別)

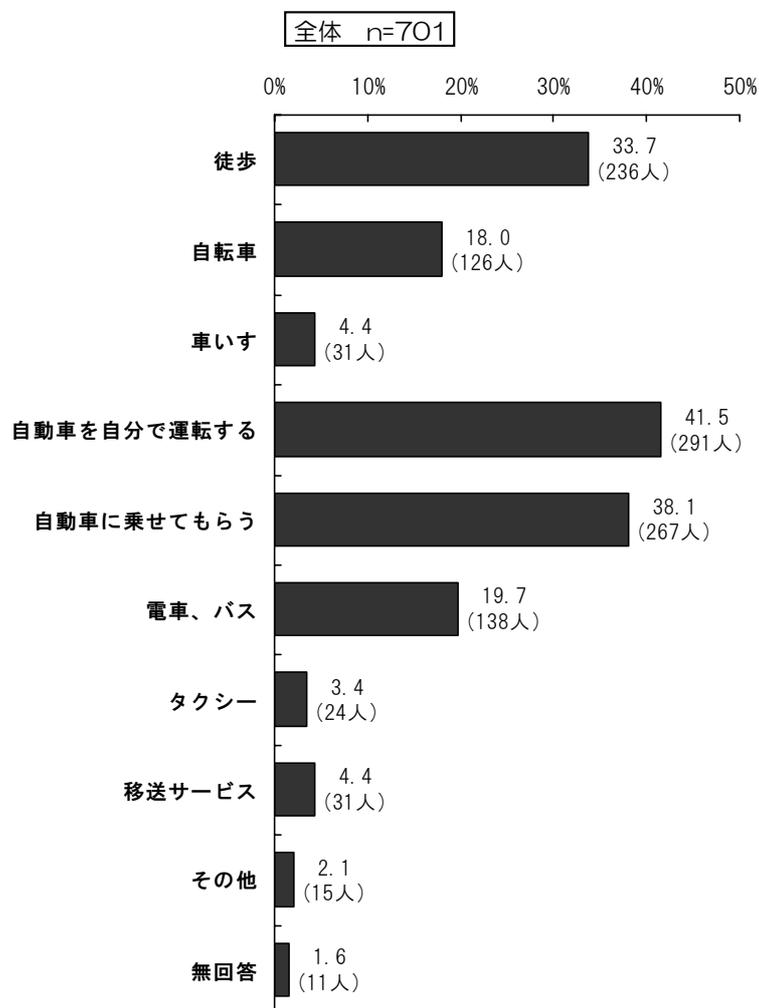


(2) 外出の手段

〈問11-1から問11-3は問11で「1」～「3」と回答した方におたずねします。〉
問11-1 あなたの主な外出方法は何ですか。(利用の多い3つに○)

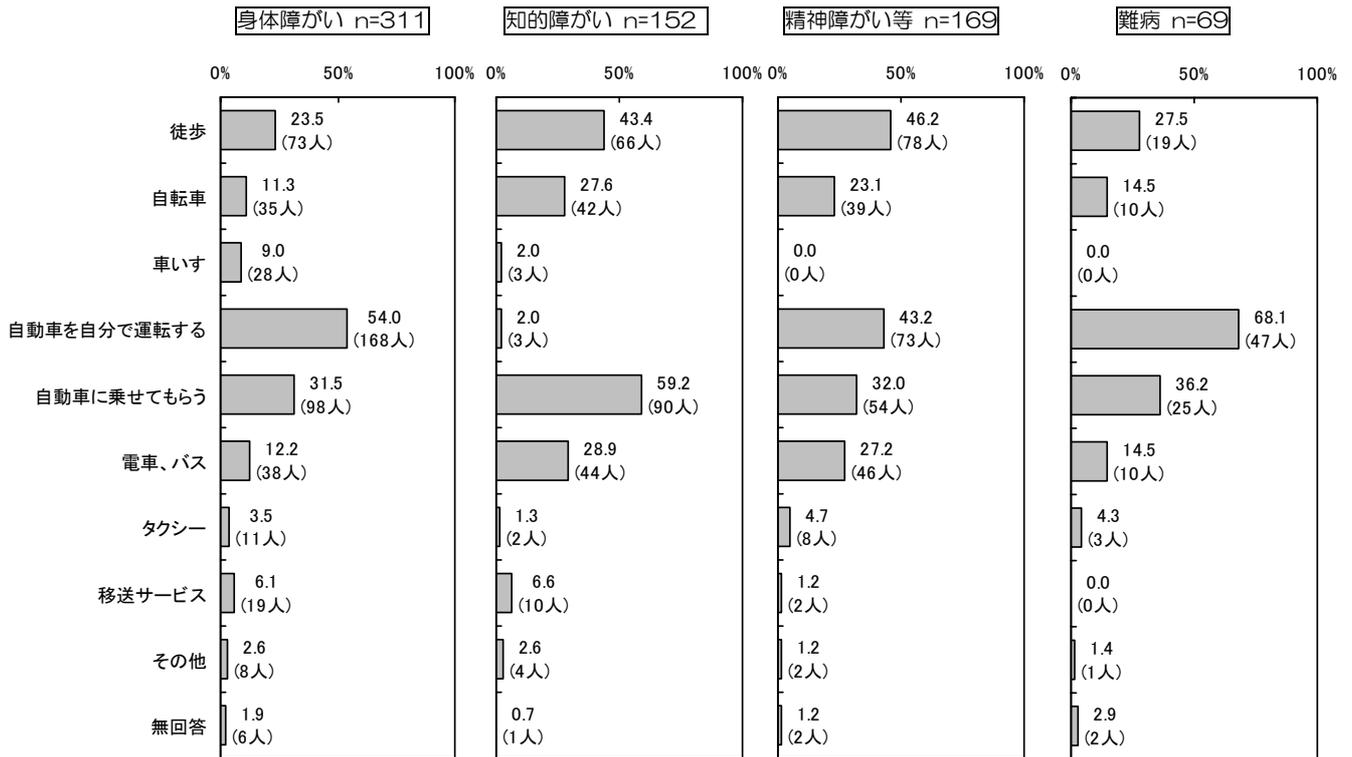
○「毎日外出する」、「1週間に数回外出する」、「めったに外出しない」を合わせた、1週間のうち『外出することがある方』にその方法についてたずねたところ、全体では「自動車を自分で運転する」が41.5%でもっとも多く、次いで「自動車に乗せてもらう」が38.1%、「徒歩」が33.7%となっています。

図5.3 外出の手段



○対象種別で見ると、難病の方や身体障がい者で「自動車を自分で運転する」(難: 68.1%、身: 54.0%) との回答が高く、知的障がい者で「自動車に乗せてもらう」(59.2%)、精神障がい者等で「徒歩」(46.2%) などが比較的高い割合となっています。

図5.4 外出の手段(対象種別)

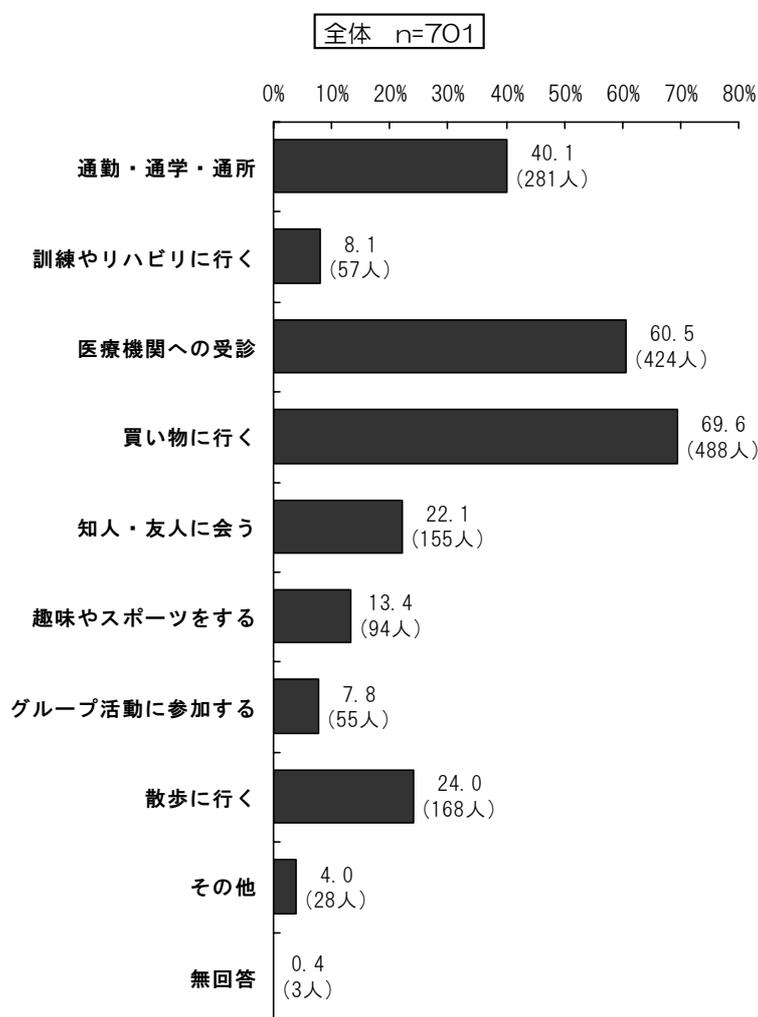


(3) 外出の目的

〈問 11-1 から問 11-3 は問 11 で「1」～「3」と回答した方におたずねします。〉
問 11-2 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

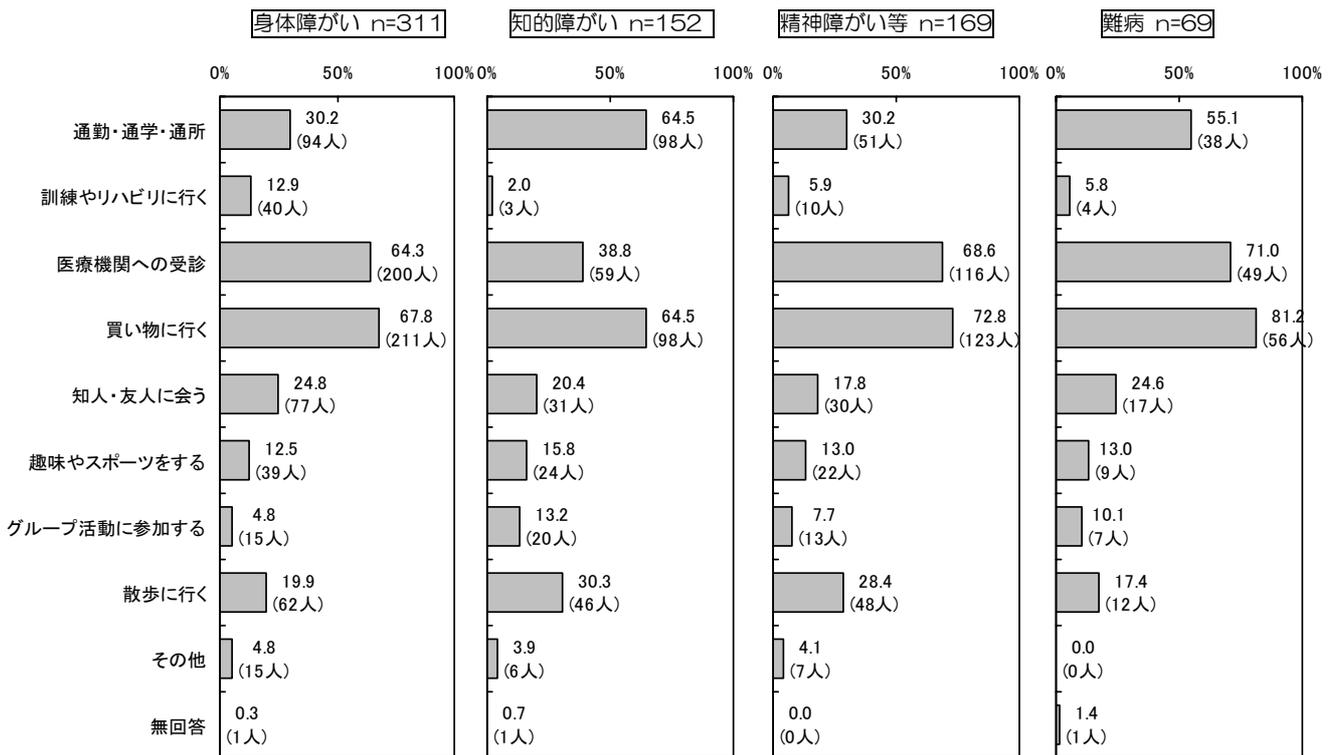
○1週間のうち『外出することがある方』に、その目的についてたずねたところ、全体では「買い物に行く」が 69.6%でもっとも多く、次いで「医療機関への受診」が 60.5%、「通勤・通学・通所」が 40.1%などとなっています。

図5.5 外出の目的



○対象種別で見ると、知的障がい者と難病の方で「通勤・通学・通所」（知：64.5%、難：55.1%）が、全体を大きく上回る割合となっています。そのほか、身体障がい者で「リハビリに行く」（12.9%）の割合や、知的障がい者と精神障がい者等で「散歩に行く」（知：30.3%、精：28.4%）の割合が比較的高いなど、対象者の抱える障がい等の別で特徴的な傾向がうかがえます。

図5.6 外出の目的（対象種別）

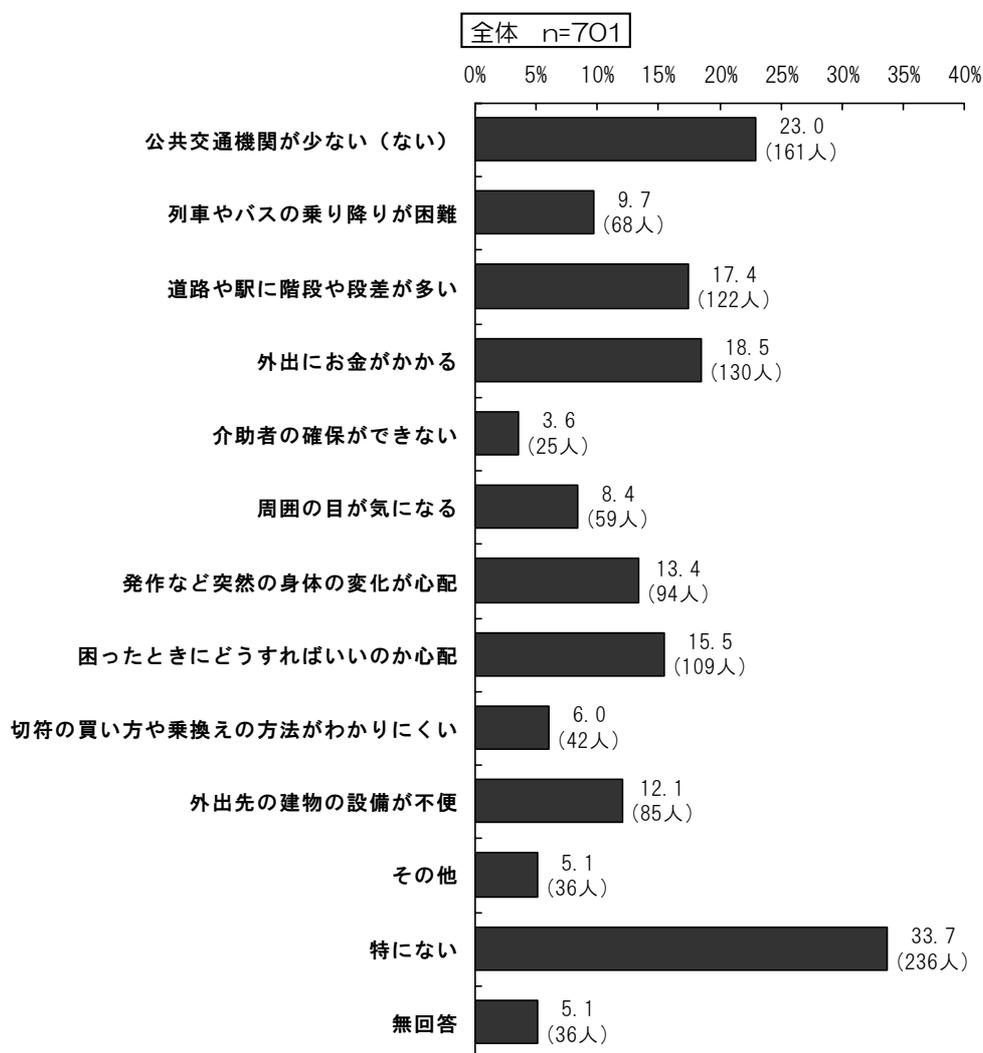


(4) 外出の際に困ること

〈問 11-1 から問 11-3 は問 11 で「1」～「3」と回答した方におたずねします。〉
問 11-3 外出のときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

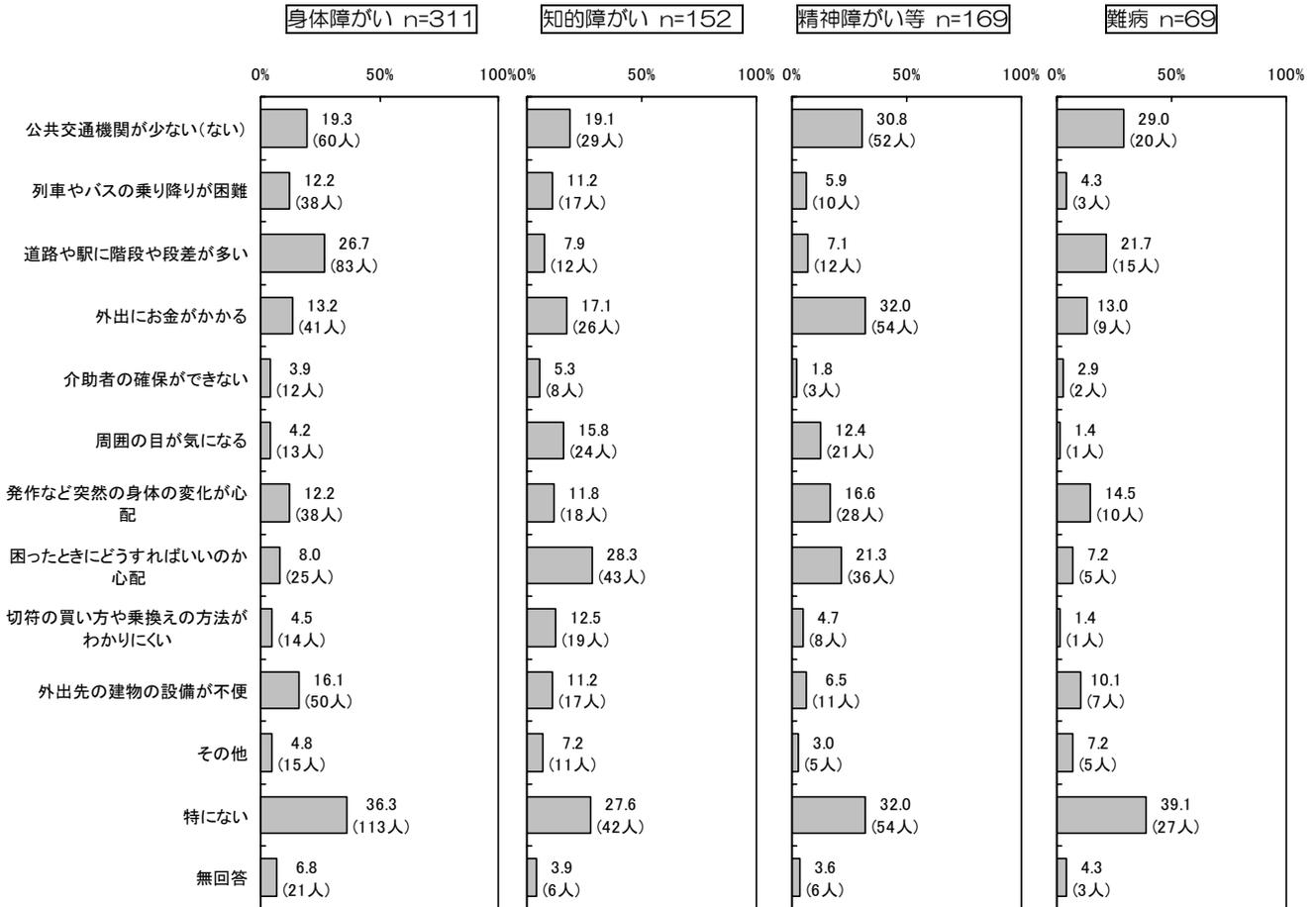
○1週間のうち『外出することがある方』に、外出の際に困ることについてたずねたところ、全体では「公共交通機関が少ない(ない)」が23.0%でもっとも多く、次いで「外出にお金がかかる」が18.5%、「道路や駅に階段や段差が多い」が17.4%などとなっています。

図5.7 外出の際に困ること



○対象種別で見ると、「特にない」が多いですが、身体障がい者は「道路や駅に段差が多い」(26.7%)、知的障がい者は「困ったときにどうすればいいのか心配」(28.3%)、精神障がい者等は「外出にお金がかかる」(32.0%)、難病の方では「公共機関が少ない(ない)」(29.0%)となっています。

図5.8 外出の際に困ること

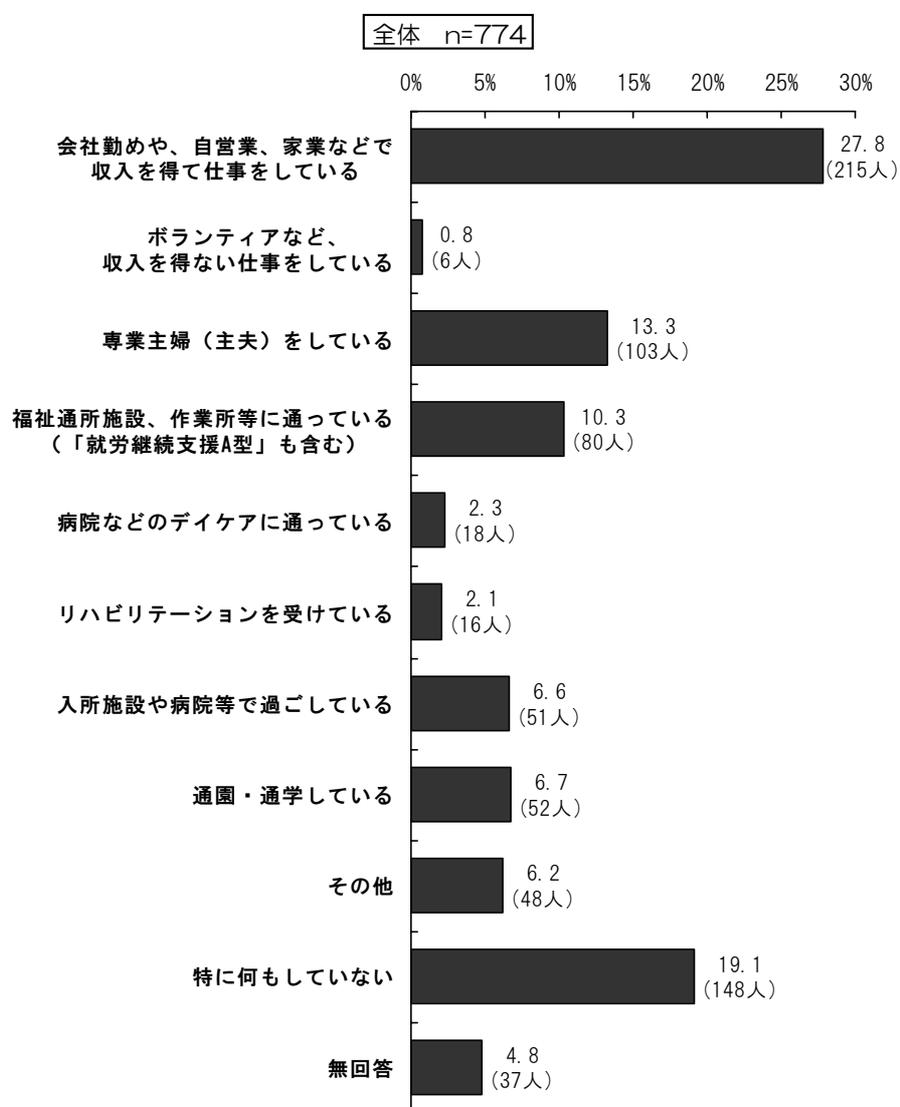


(5) 平日日中の過ごし方

問12 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

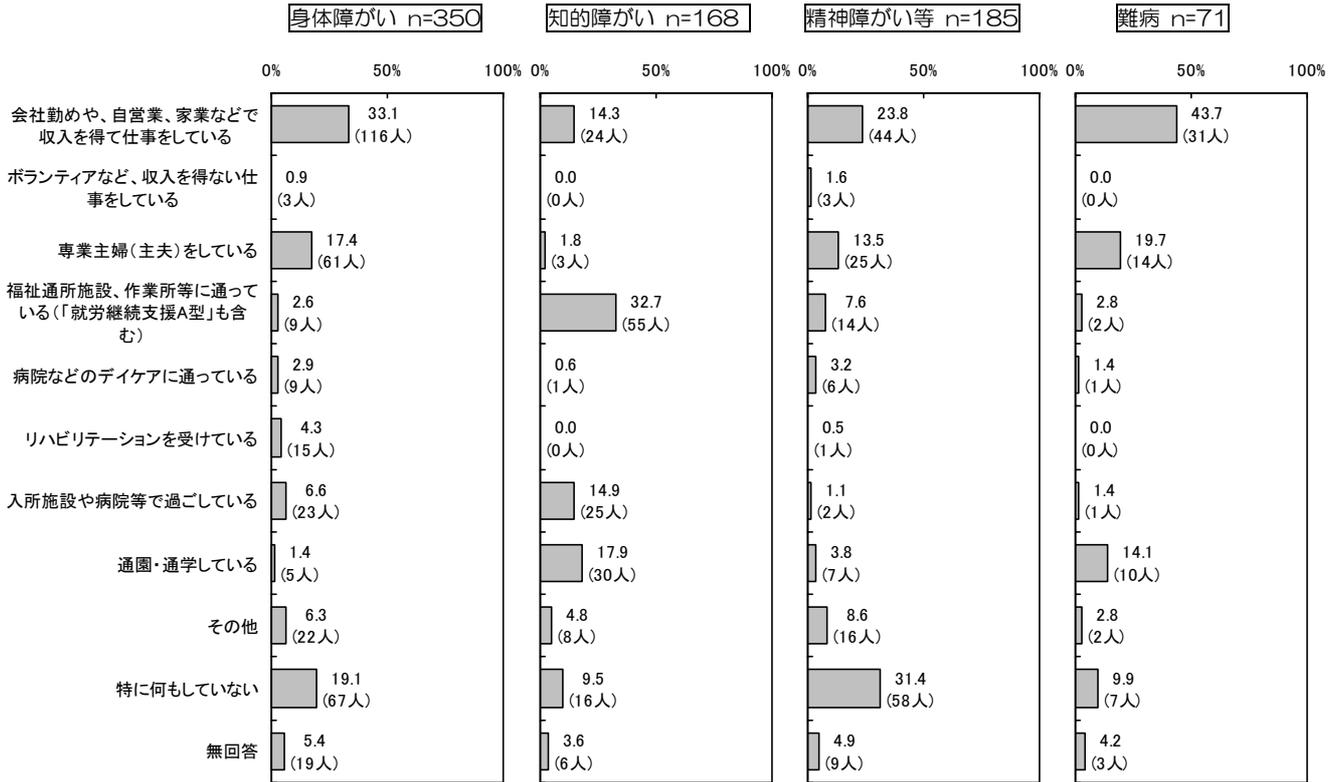
〇平日日中の主な過ごし方をたずねたところ、全体では「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が27.8%でもっとも多く、次いで「専業主婦(主夫)をしている」(13.3%)、「福祉通所施設、作業所等に通っている(「就労継続支援A型」も含む)」(10.3%)などとなっており、「特に何もしていない」(19.1%)との回答も一定程度ありました。

図5.9 平日日中の過ごし方



○対象種別で見ると、身体障がい者、難病の方で「収入を得て仕事をしている」(身：33.1%、難：43.7%) がもっとも多くなっていることや、知的障がい者で「福祉通所施設、作業所等に通っている」(32.7%)、精神障がい者等で「特に何もしていない」(31.4%) がきわめて多いことなどが特徴としてあげられます。

図 5.10 平日日中の過ごし方 (対象種別)



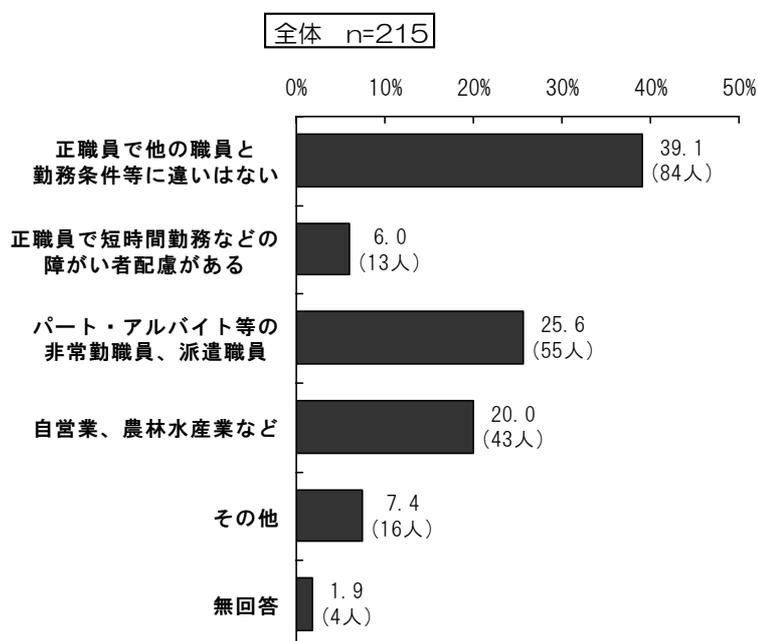
(6) 勤務形態

〈問 12 で「1」と回答した方におたずねします。〉

問 12-1 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

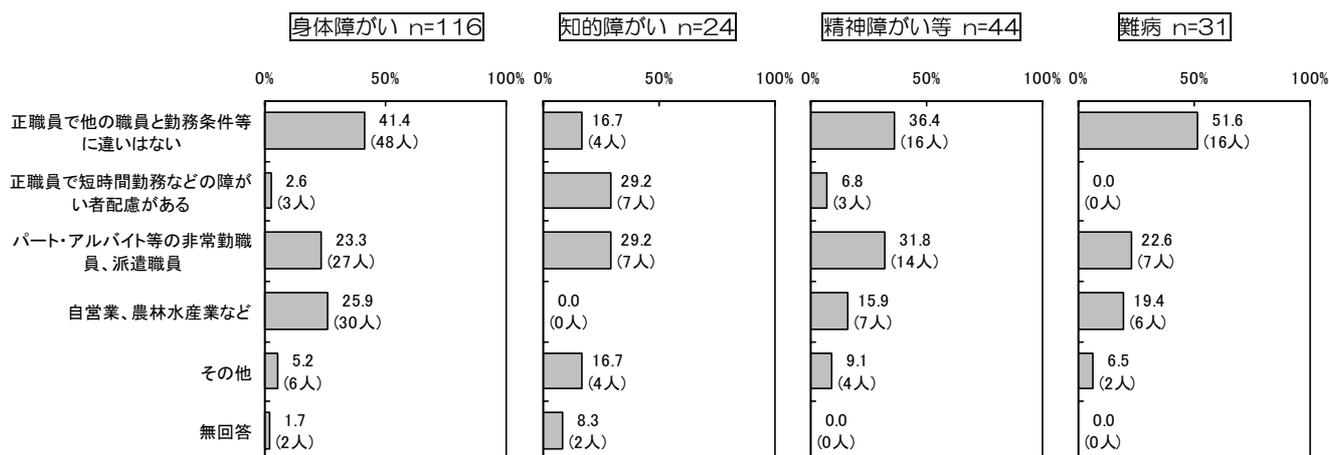
○「収入を得て仕事をしている」と回答した方に、その勤務形態についてたずねたところ、全体では「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 39.1%で最も多く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が 25.6%、「自営業、農林水産業など」が 20.0%などとなっています。

図 5.11 勤務形態



○対象種別で見ると、身体障がい者、精神障がい者等、難病の方で「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」（身：41.4%、精：36.4%、難：51.6%）と多く、知的障がい者では「正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある」（29.2%）「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」（29.2%）と多くなっています。

図 5.12 勤務形態（対象種別）



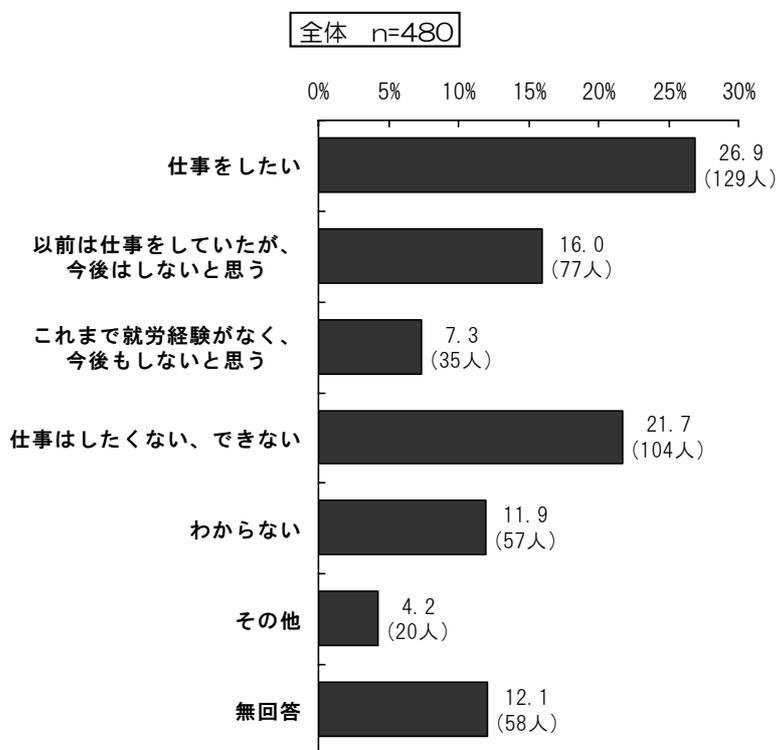
(7) 収入を得る仕事への就労希望

〈問 12-2 と問 12-3 は、問 12 で「1」以外を選択した、18 歳以上の方におたずねします。〉

問 12-2 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つだけ)

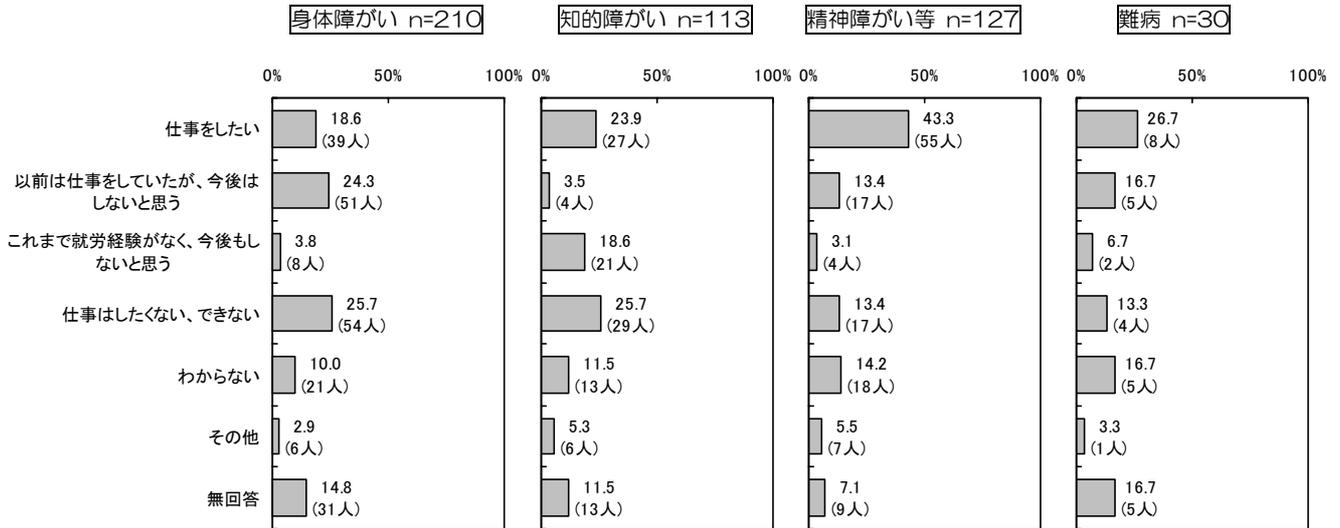
○「収入を得て仕事をしている」と回答した方以外に、今後の収入を得る仕事への就労希望をたずねたところ、全体では「仕事をしたい」が 26.9%でもっとも多く、次いで「仕事はしたくない、できない」が 21.7%、「以前は仕事をしていましたが、今後はしれないと思う」が 16.0%などとなっています。

図 5.13 収入を得る仕事への就労希望



○対象種別で見ると、身体障がい者と知的障がい者では「仕事はしたくない、できない」(25.7%)、一方精神障がい者等と難病の方は「仕事をしたい」(精:43.3%、難:26.7%)との回答が多くなっています。

図5.14 収入を得る仕事への就労希望(対象種別)



(8) 職業訓練などの受講希望等

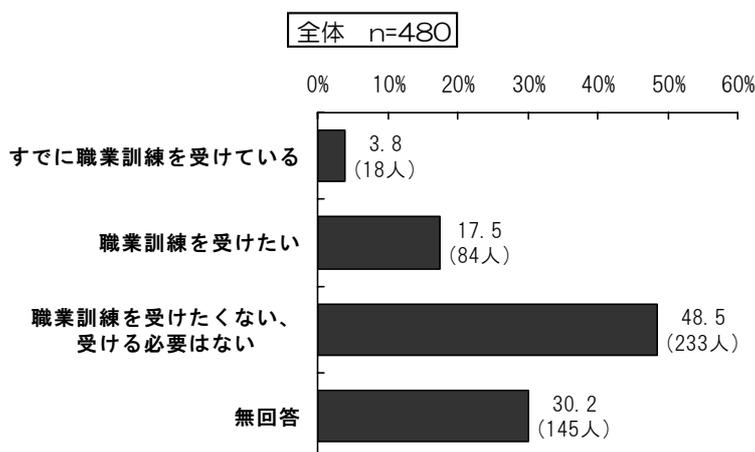
〈問 12-2 と問 12-3 は、問 12 で「1」以外を選択した、18 歳以上の方におたずねします。〉

問 12-3 収入を得る仕事につくために、職業訓練などを受けたいと思いますか。

(○は1つだけ)

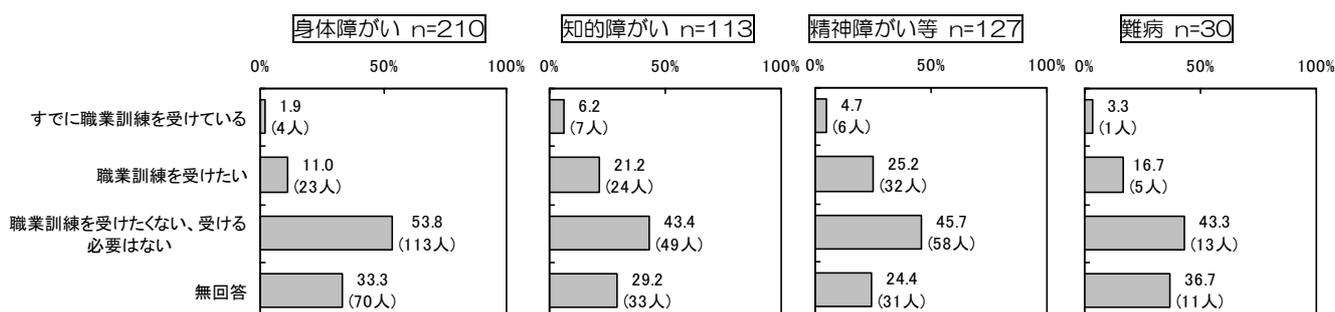
○「収入を得て仕事をしている」と回答した方以外に、職業訓練等の受講希望等についてたずねたところ、全体では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 48.5%でもっとも多く、次いで「職業訓練を受けたい」が 17.5%、「既に職業訓練を受けている」が 3.8%となっています。

図 5.15 職業訓練などの受講希望等



○対象種別で見ると、高齢の対象者が多い身体障がい者で「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」(53.8%)との回答が多く、「職業訓練を受けたい」(11.0%)との回答は少なくなっています。また、知的障がい者では「すでに職業訓練を受けている」(6.2%)が他と比較して多くなっています。「職業訓練を受けたい」との回答については、知的障がい者で 21.2%、精神障がい者等で 25.2%と全体の割合を上回り、比較的高い受講希望を示しています。

図 5.16 職業訓練などの受講希望等 (対象種別)

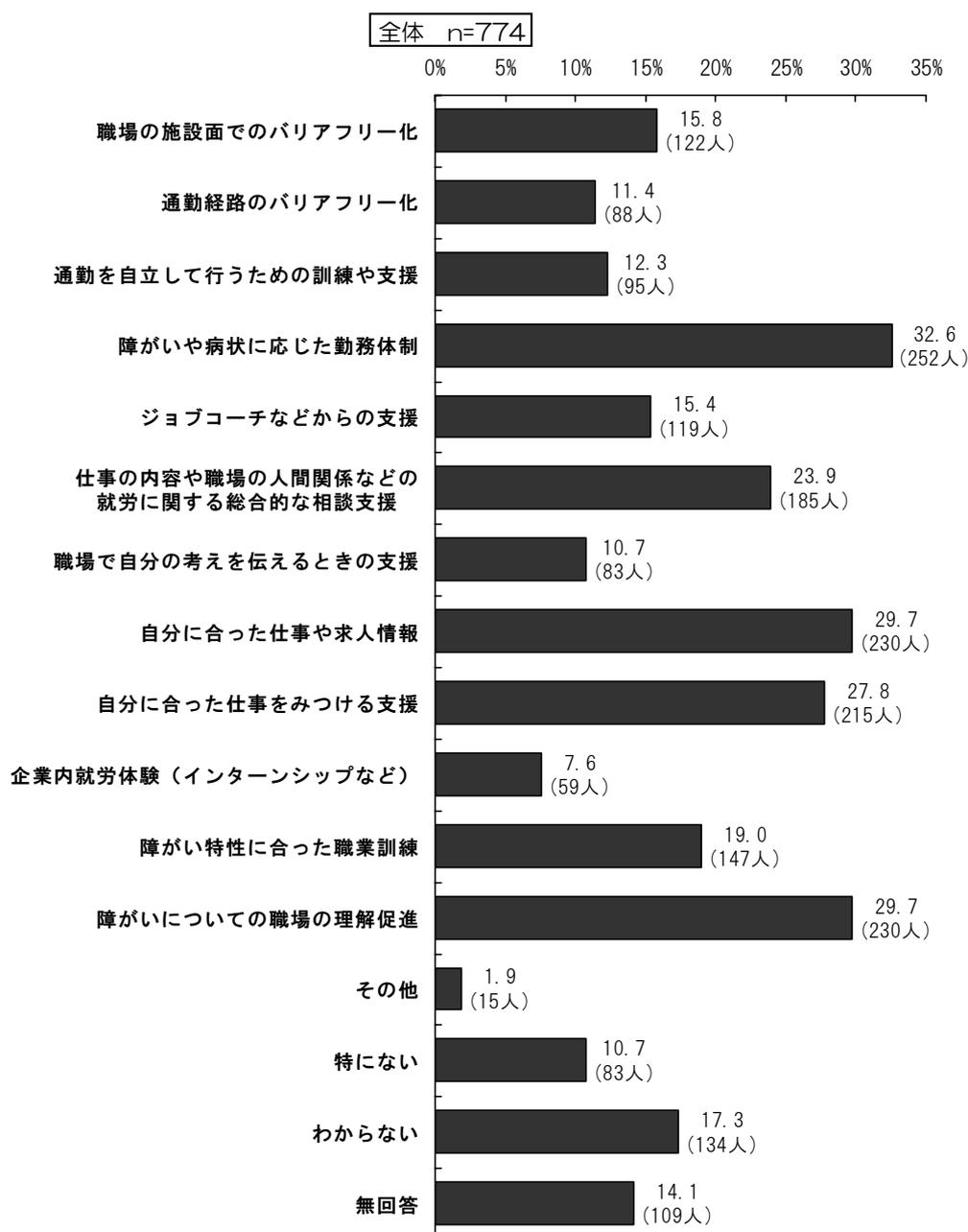


(9) 障がい者の就労支援に必要なこと

問 13 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

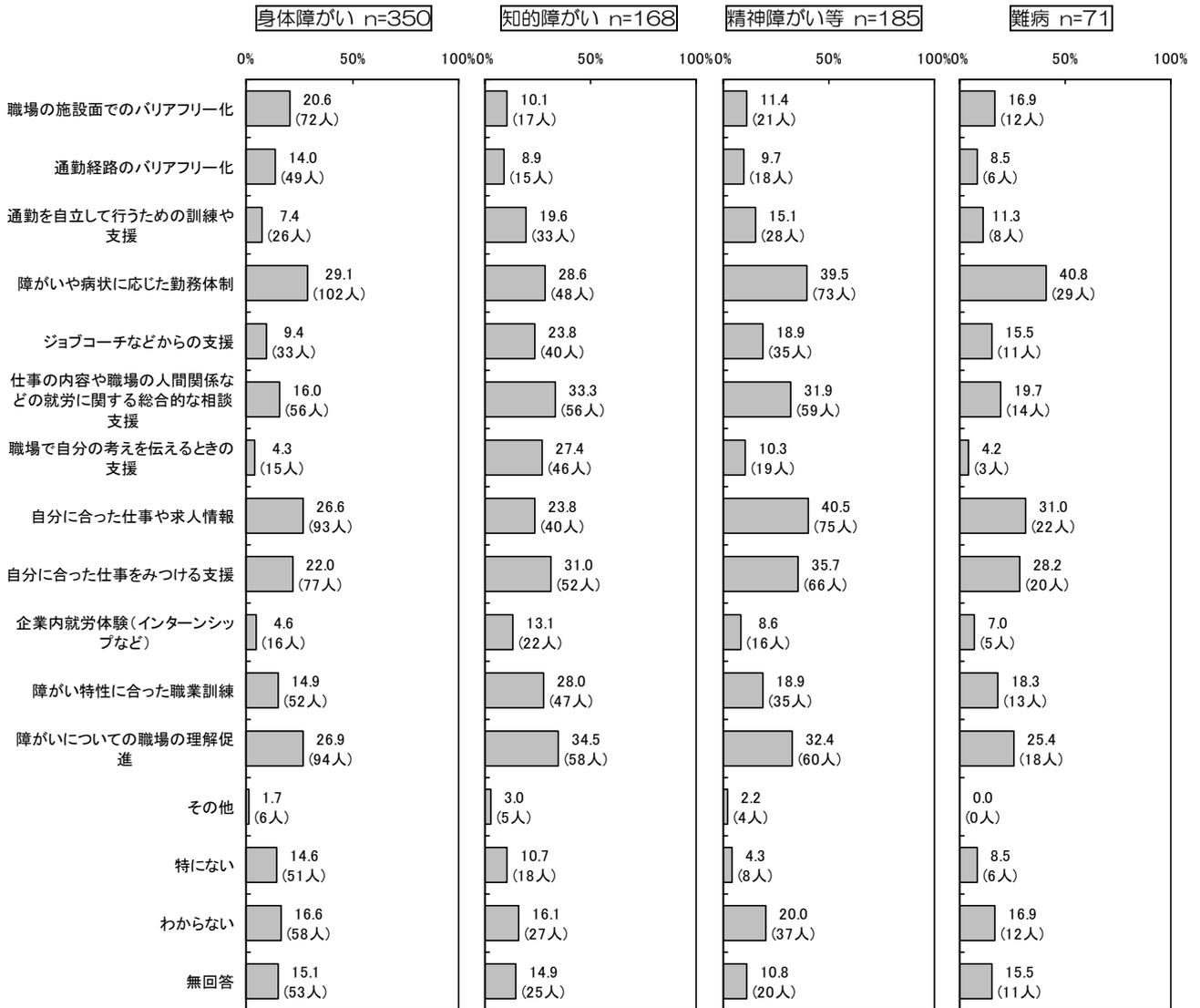
○障がい者の就労支援に必要なことについてたずねたところ、全体では「障がいや病状に応じた勤務体制」が 32.6%でもっとも多く、次いで「自分に合った仕事や求人情報」「障がいについての職場の理解促進」が同率で 29.7%、「自分に合った仕事を見つける支援」が 27.8%などとなっています。

図 5.17 障がい者の就労支援に必要なこと



○対象種別で見ると、身体障がい者と難病の方は「障がいや病状に応じた勤務体制」（身：29.1%、難：40.8%）を希望する回答が多くあげられています。知的障がい者では「障がいについての職場の理解促進」（34.5%）、精神障がい者等では「自分に合った仕事や求人情報」（40.5%）がそれぞれ多くあげられています。

図 5.18 障がい者の就労支援に必要なこと（対象種別）



(10) 通園・通学先

〈問 14 と問 14-1 は、18 歳以下の方におたずねします。〉
問 14 あなたが主に通園・通学しているところはどこですか。(○は1つだけ)

○通園・通学先についてたずねたところ、全体では「特別支援学校高等部」が 17.9%でもっとも多く、次いで「小学校の特別支援学級」が 14.3%、「高等学校」が 12.5%などとなっています。

○対象種別の内訳は、回答者数が少ないため参考までに掲載します。

図 5.19 通園・通学先

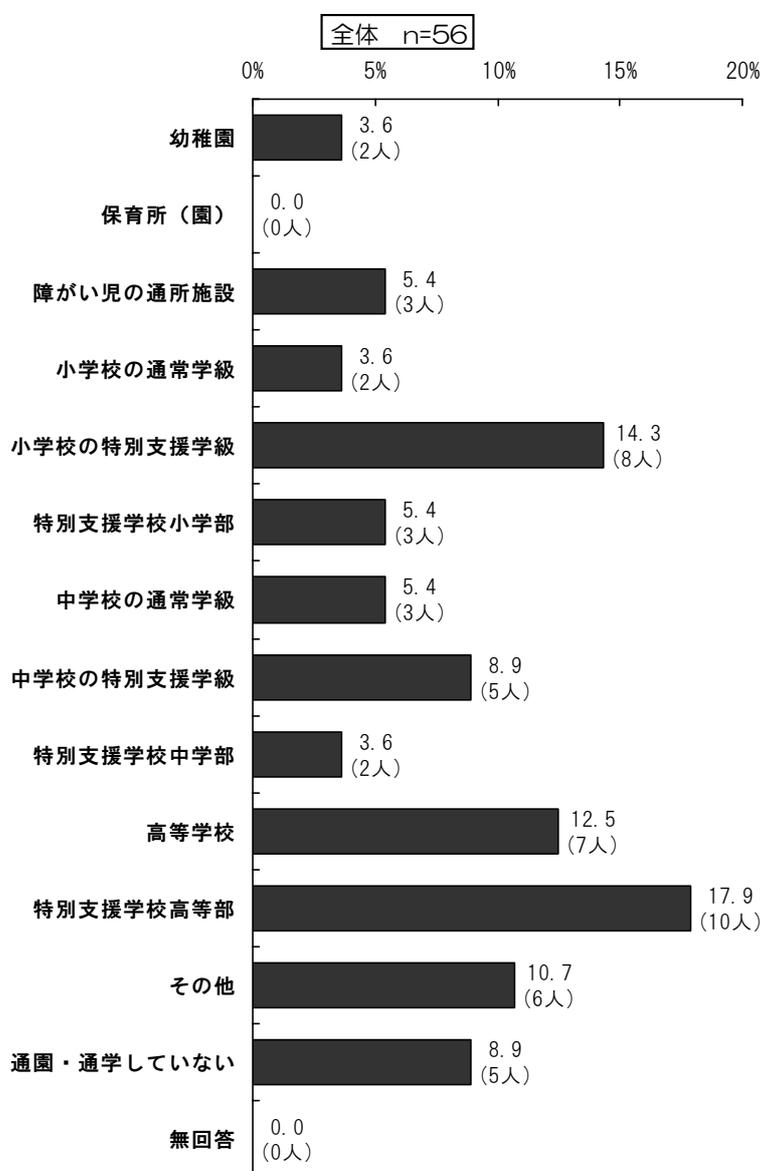
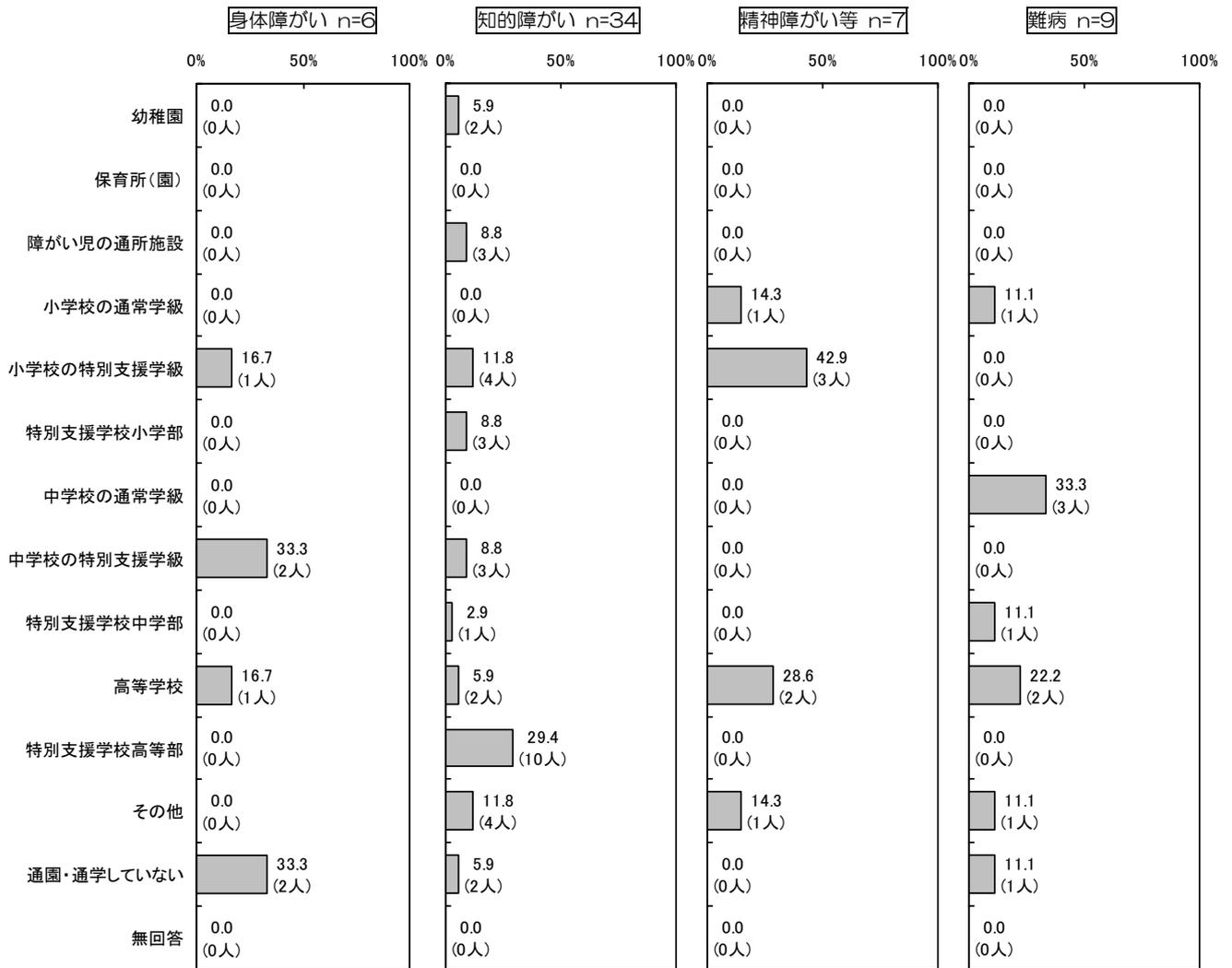


図 5.20 通園・通学先 (対象種別)

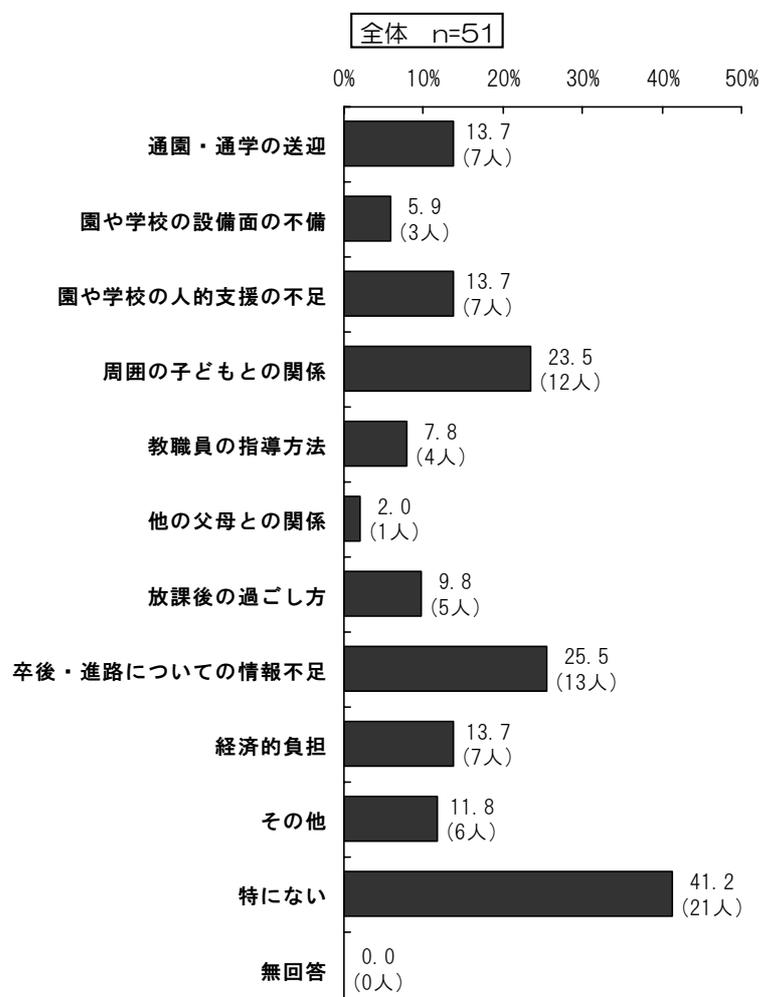


(11) 通園・通学で困ること、心配なこと

〈18歳以下で、問14で「1」～「12」を回答した方におたずねします。〉
問14-1 通園・通学において困っていること、心配なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

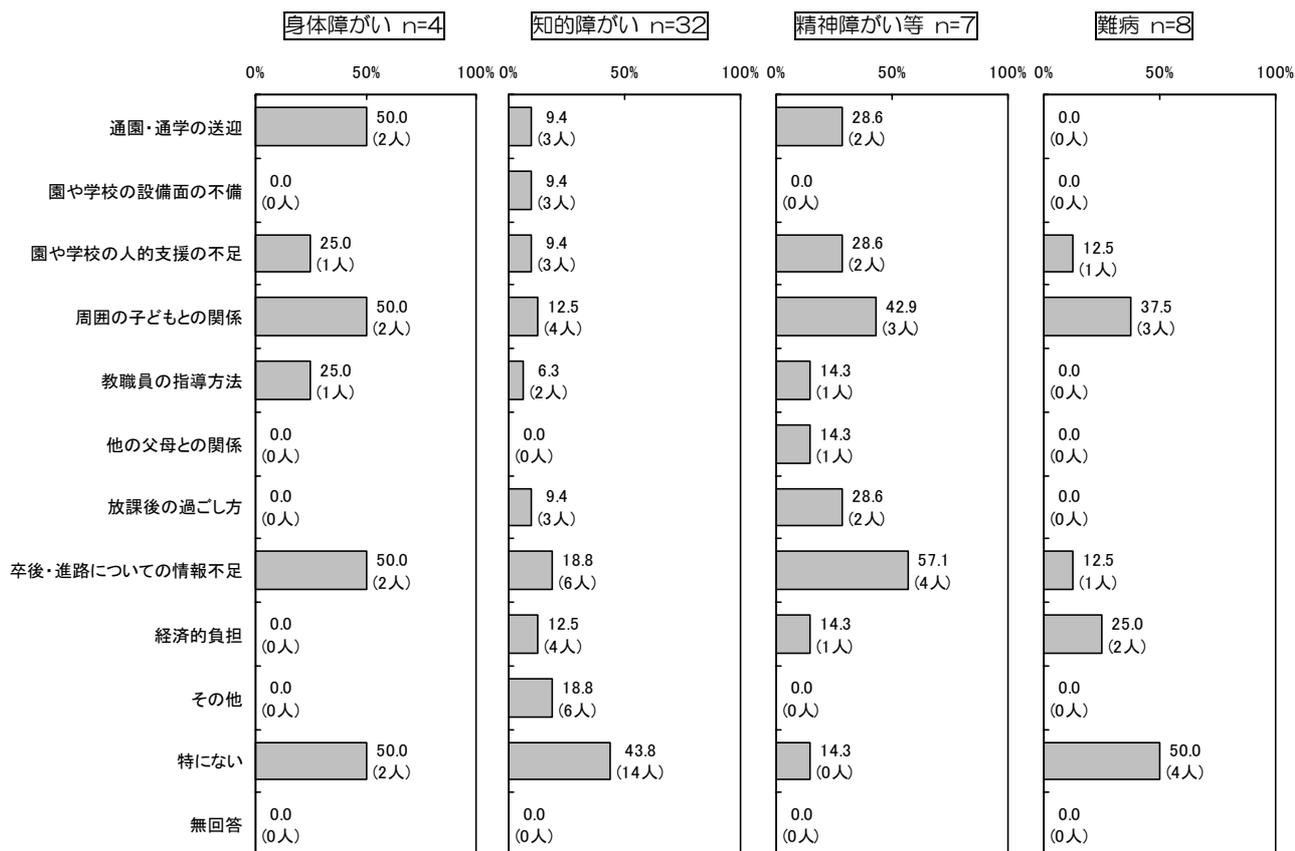
○通園・通学で困ること、心配なことについてたずねたところ、「卒後・進路についての情報不足」が25.5%でもっとも多く、次いで「周囲の子どもとの関係」が23.5%、「通園・通学の送迎」「園や学校の人的支援の不足」「経済的負担」が同率で13.7%などとなっています。一方、「特にない」(41.2%)は、4割を超える割合となっています。

図5.21 通園・通学で困ること、心配なこと



○対象種別で見ると、精神障がい者等では「卒後・進路についての情報不足」(57.1%)が多く、身体障がい者では「通園・通学の送迎」「周囲の子どもとの関係」「卒後・進路についての情報不足」(50.0%)が多くあげられています。また難病の方も「周囲の子どもとの関係」(37.5%)が多くあげられています。

図 5.22 通園・通学で困ること、心配なこと (対象種別)



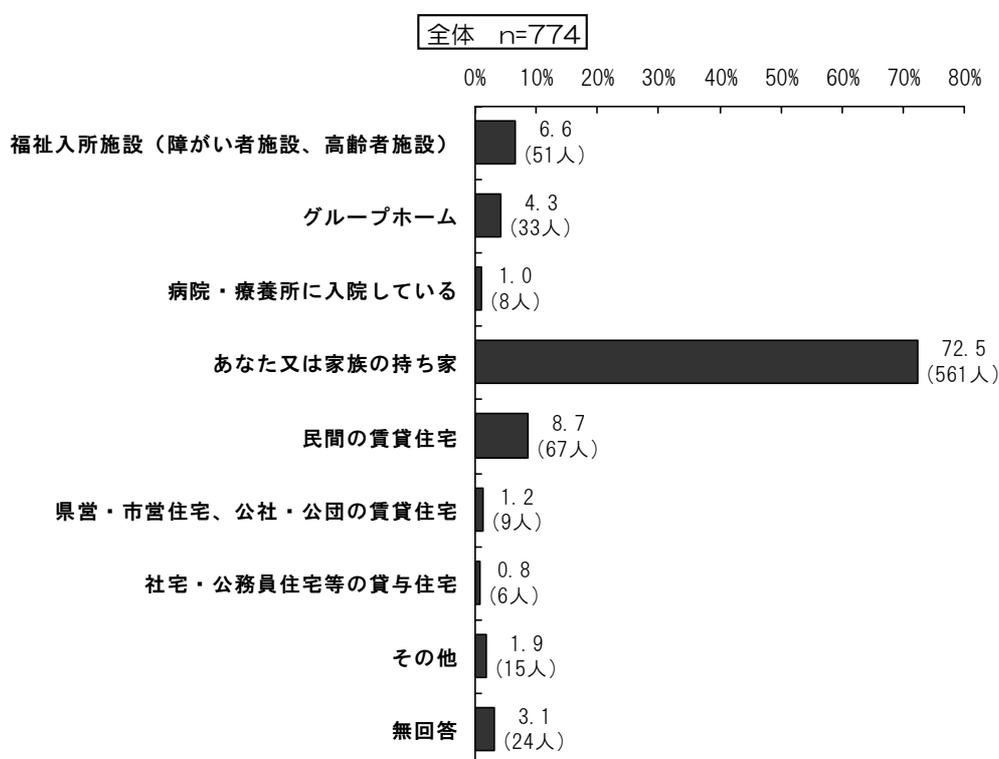
6. 住まいや暮らしについて

(1) 住まい

問15 あなたは、現在、どこで生活していますか。(〇は1つだけ)

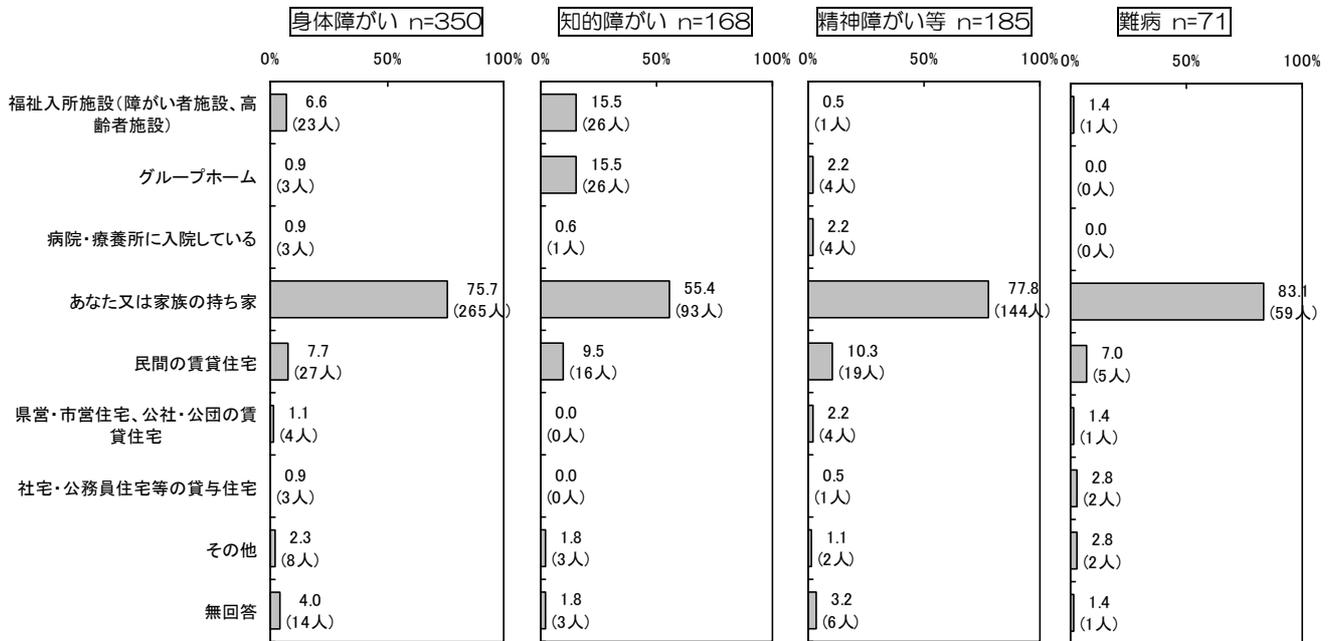
〇現在どこで生活しているかについてたずねたところ、全体では「あなた又は家族の持ち家」が72.5%で圧倒的に多く、次いで「民間の賃貸住宅」が8.7%、「福祉入所施設（障がい者施設、高齢者施設）」が6.6%などとなっています。

図6.1 住まい



○対象種別で見ると、知的障がい者で「福祉入所施設」(15.5%)、「グループホーム」(15.5%)の回答が多くなっています。

図 6.2 住まい (対象種別)

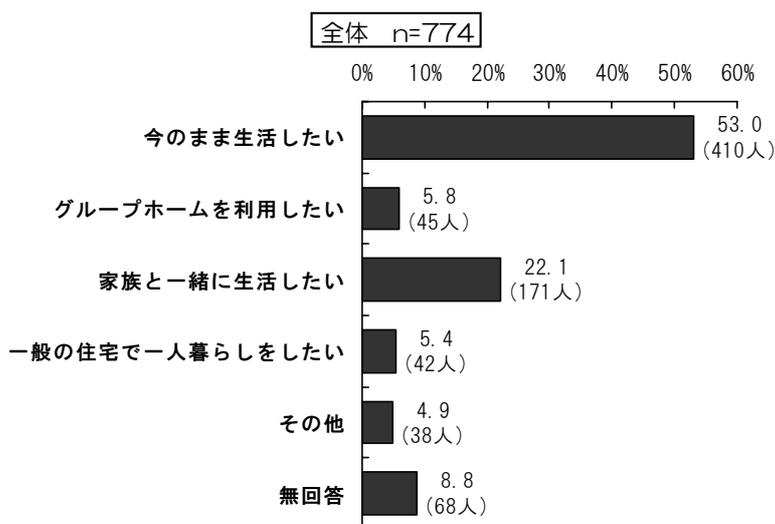


(2) 今後の暮らし方について

問16 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(〇は1つだけ)

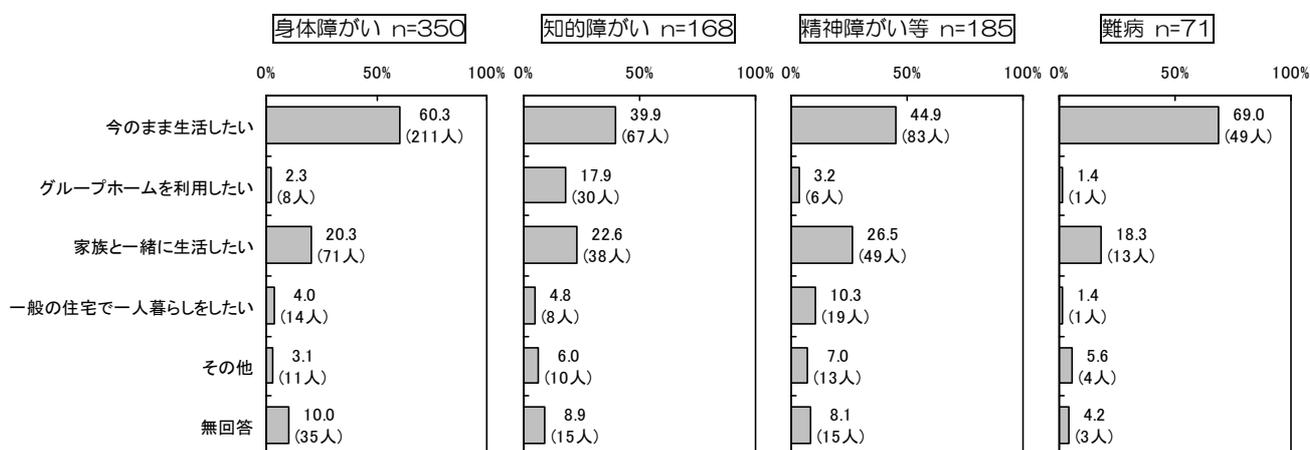
〇今後の暮らし方についてたずねたところ、全体では「今のまま生活したい」が53.0%でもっとも多く、次いで「家族と一緒に生活したい」が22.1%、「グループホームを利用したい」が5.8%などとなっています。

図6.3 今後の暮らし方について



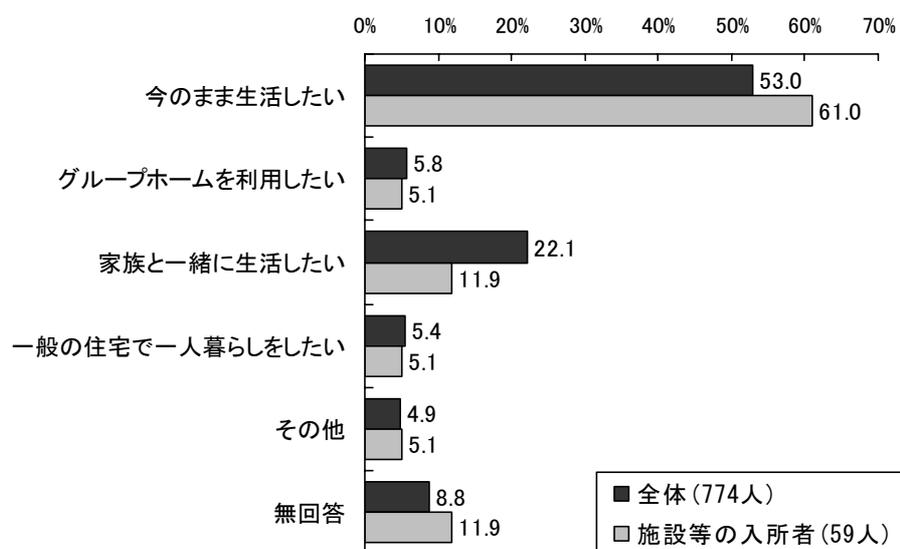
〇対象種別で見ると、身体障がい者と難病の方では「今のまま生活したい」(身: 60.3%、難: 69.0%)、知的障がい者では「グループホームを利用したい」(17.9%)が他の種別より多く、精神障がい者等では「家族と一緒に生活したい」(26.5%)がやや多い結果となっています。

図6.4 今後の暮らし方について (対象種別)



○今後の暮らし方について、問 15 で「福祉入所施設」または「病院・診療所に入
院している」と回答した方に限定して集計し、全体の割合との比較を行っていま
す。回答者数の差が大きいため正確な比較はできませんが、「今のまま生活した
い」が 61.0%で全体を 8.0 ポイント上回る一方、「家族と一緒に生活したい」は
11.9%で 10.2 ポイント下回る結果となりました。

図 6.5 今後の暮らし方について（福祉施設等の入所者との比較）

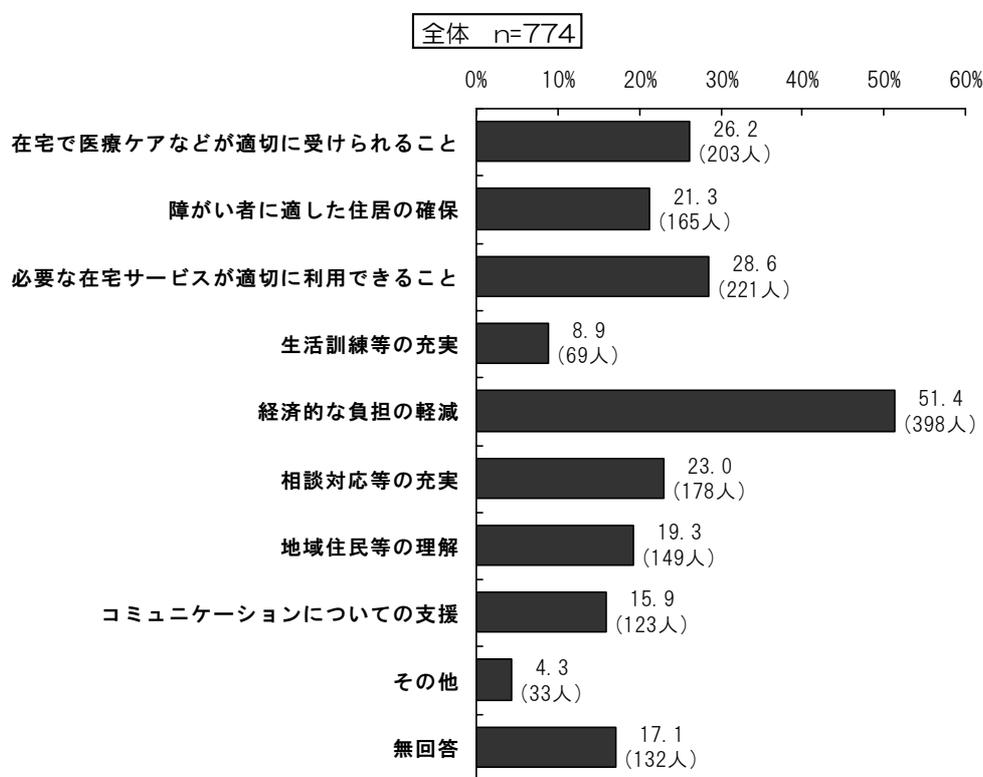


(3) 地域生活に必要な支援

問 17 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

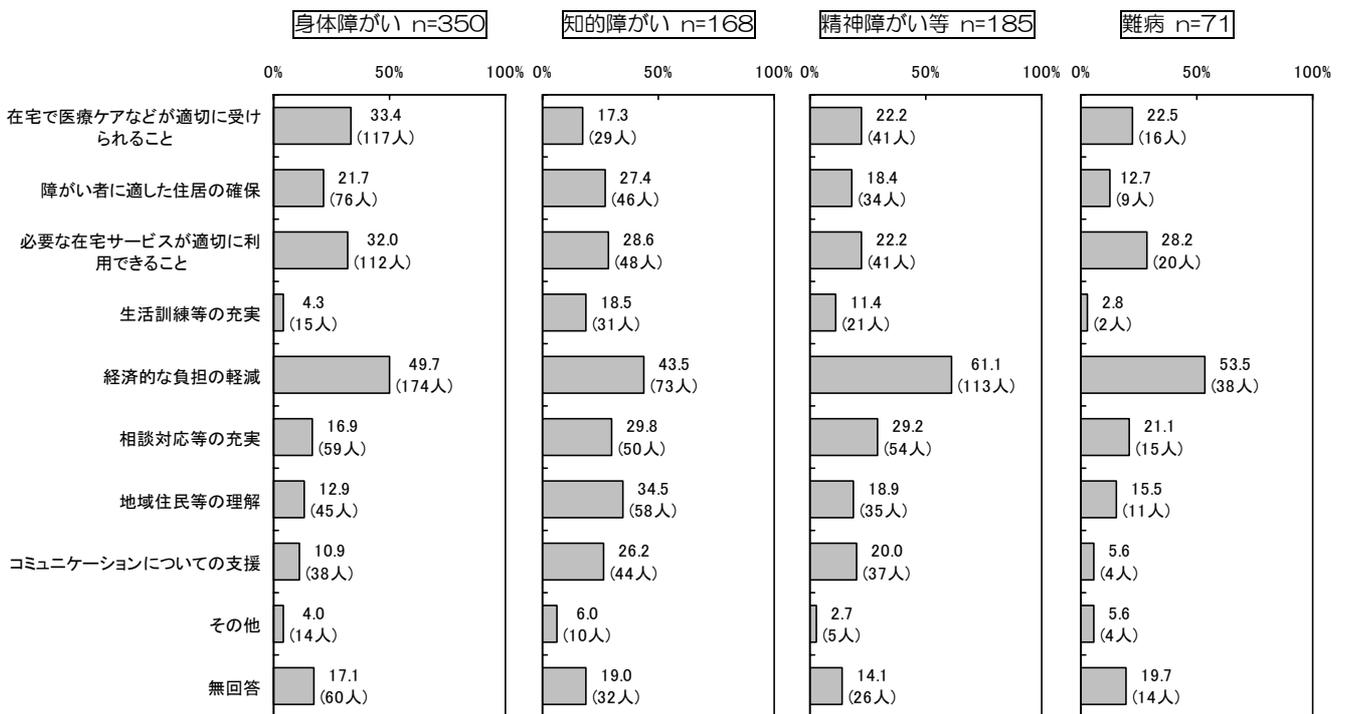
○地域生活に必要な支援についてたずねたところ、全体では「経済的な負担の軽減」が 51.4%でもっとも多く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 28.6%、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」が 26.2%などとなっています。

図 6.6 地域生活に必要な支援



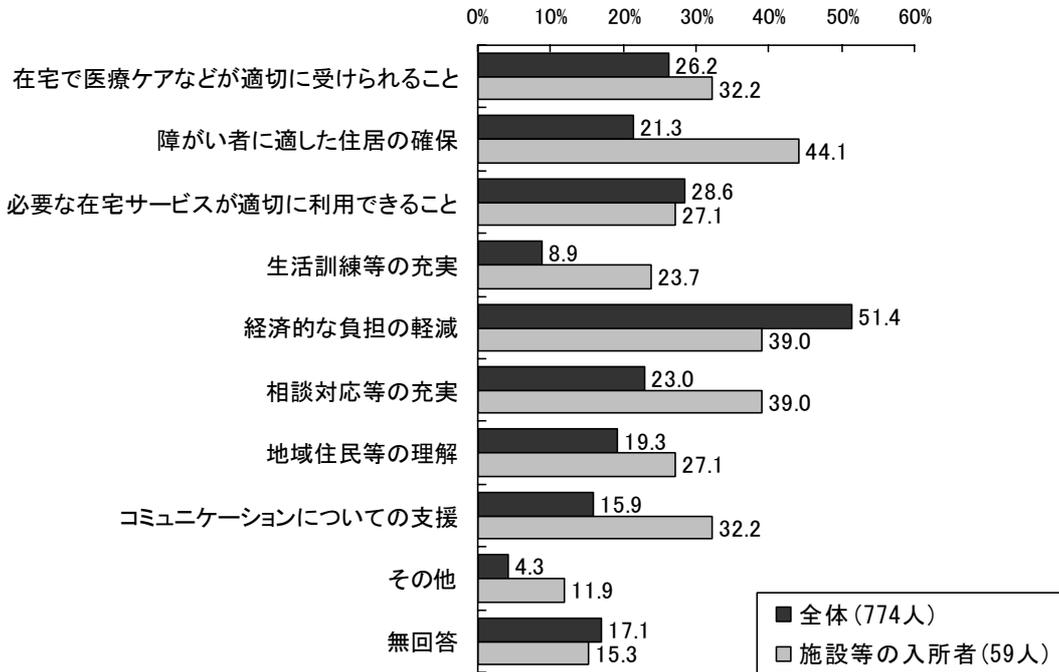
○対象種別で見ると、「経済的負担の軽減」を除くと、身体障がい者では「在宅医療ケアなどが適切に受けられること」(33.4%)、知的障がい者では「地域住民等の理解」(34.5%)の回答が多くあげられています。また、知的障がい者と精神障がい者等で「相談対応等の充実」(知：29.8%、精：29.2%)や、「コミュニケーションについての支援」(知：26.2%、精：20.0%)が全体の割合を上回る回答になっています。難病の方は「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(28.2%)が多くあげられています。

図 6.7 地域生活に必要な支援 (対象種別)



○地域生活に必要な支援について、問 15 で「福祉入所施設」または「病院・診療所に入院している」と回答した方に限定して集計し、全体の割合との比較を行っています。回答者数の差が大きいため正確な比較はできませんが、「障がい者に適した住居の確保」(44.1%) が 22.8 ポイント、「相談対応の充実」(39.0%) が 16.0 ポイント、「コミュニケーションについての支援」(32.2%) が 16.3 ポイント全体を上回るなど、いずれの回答も総じて高い割合となっています。

図 6.8 地域生活に必要な支援（福祉施設等の入所者との比較）



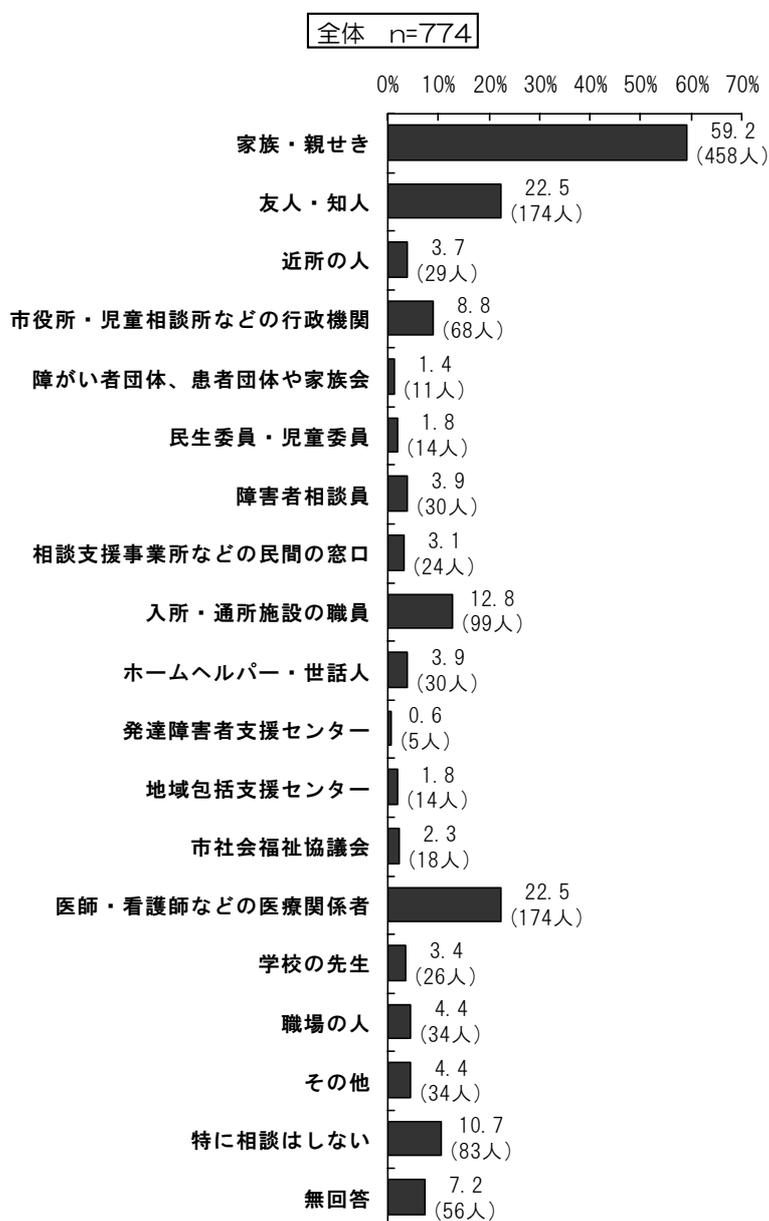
7. 福祉や生活に関する相談・情報入手について

(1) 相談先

問 18 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなた（どこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

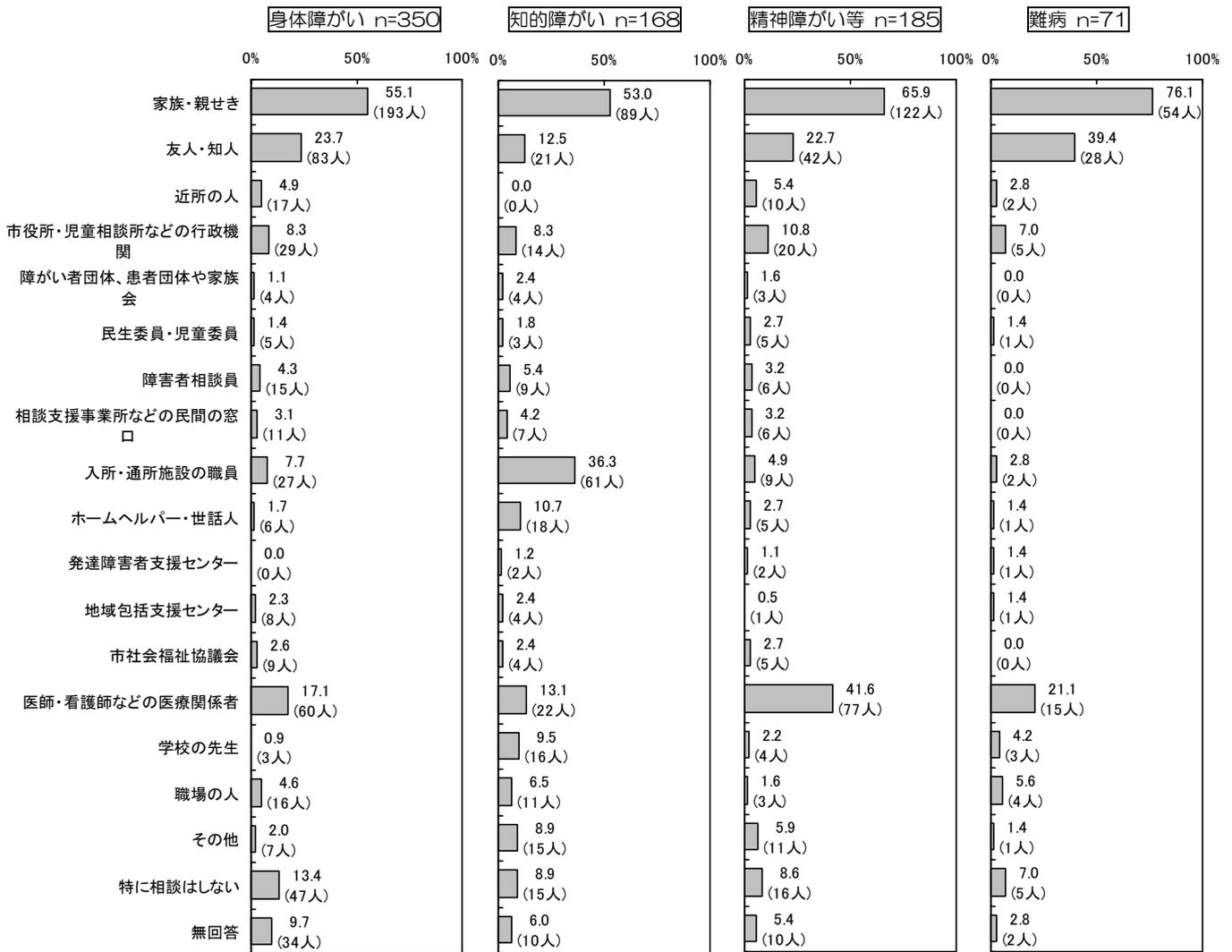
○相談先についてたずねたところ、全体では「家族・親せき」が 59.2%でもっとも多く、次いで「友人・知人」「医師・看護師などの医療関係者」が同率で 22.5%、「入所・通所施設の職員」が 12.8%などとなっています。

図 7.1 相談先



○対象種別で見ると、「家族・親せき」との回答は、精神障がい者等と難病の方で特に多くなっています（精：65.9%、難：76.1%）。また、精神障がい者等では「医師・看護師等の医療関係者」（41.6%）が他の対象種別の回答割合を大きく上回り、特徴的な傾向となっています。そのほか、知的障がい者では「入所・通所施設の職員」（36.3%）、難病の方では「友人・知人」（39.4%）が、全体の割合を大きく上回る回答率となっています。

図 7.2 相談先 (対象種別)

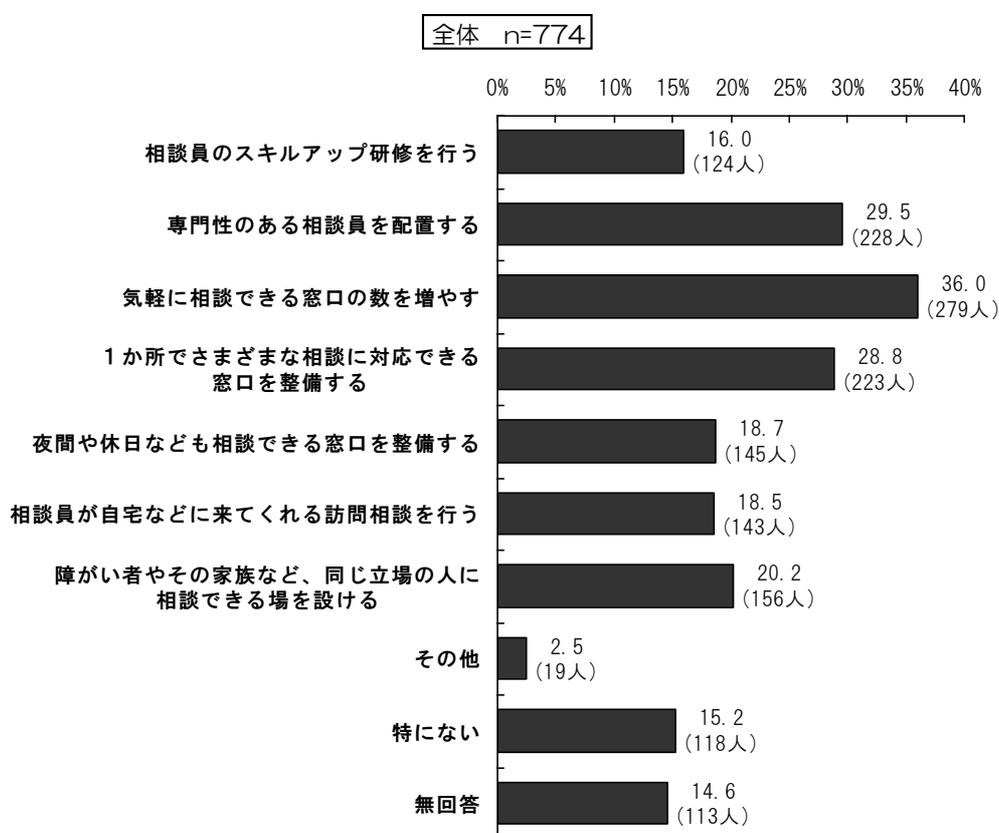


(2) 相談事業の充実について

問 19 相談事業を充実するために（あなたが相談したときに満足できるよう）、特にどのようなことをすればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

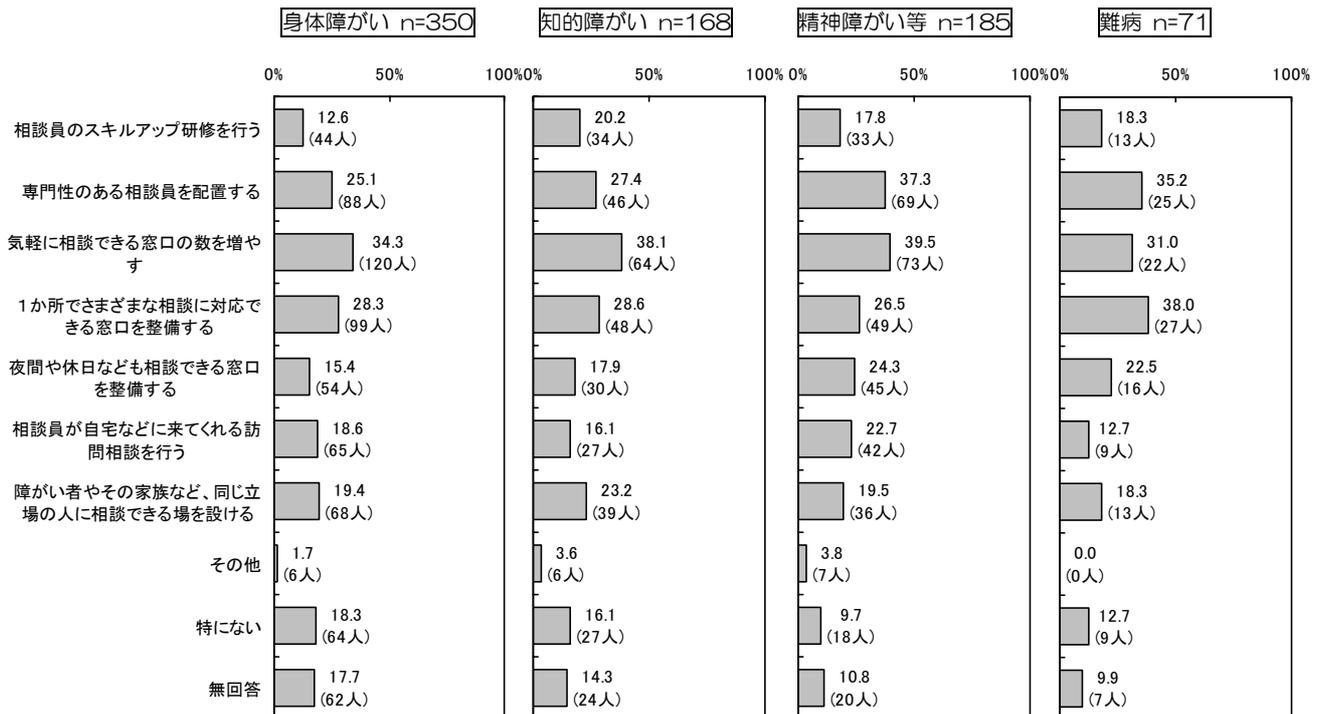
○相談事業の充実についてたずねたところ、全体では「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が36.0%でもっとも多く、次いで「専門性のある相談員を配置する」が29.5%、「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が28.8%などとなっています。

図 7.3 相談事業の充実について



○対象種別で見ると、全体的には「気軽に相談できる窓口の数を増やす」（身：34.3%、知：38.1%、精：39.5%、難：31.0%）との回答が多くあげられています。難病の方については「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」38.0%が多くなっています。

図7.4 相談事業の充実について（対象種別）

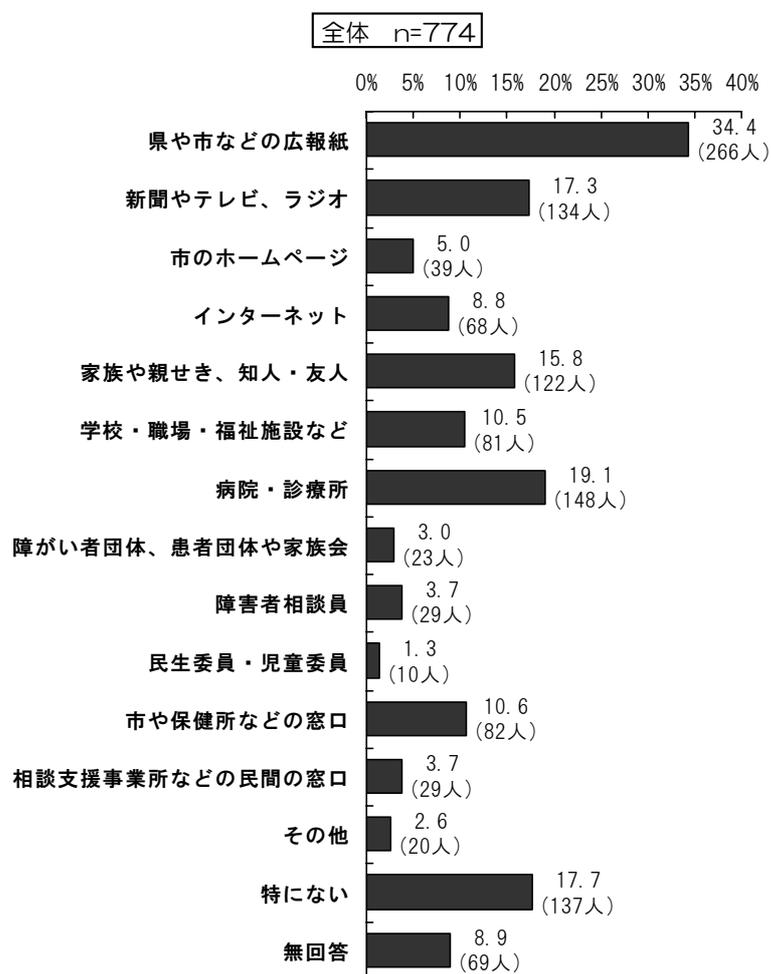


(3) 福祉関連情報の入手先

問 20 あなたは、福祉関連の情報を主にどこ（どなた）から入手していますか。
 （あてはまるものすべてに○）

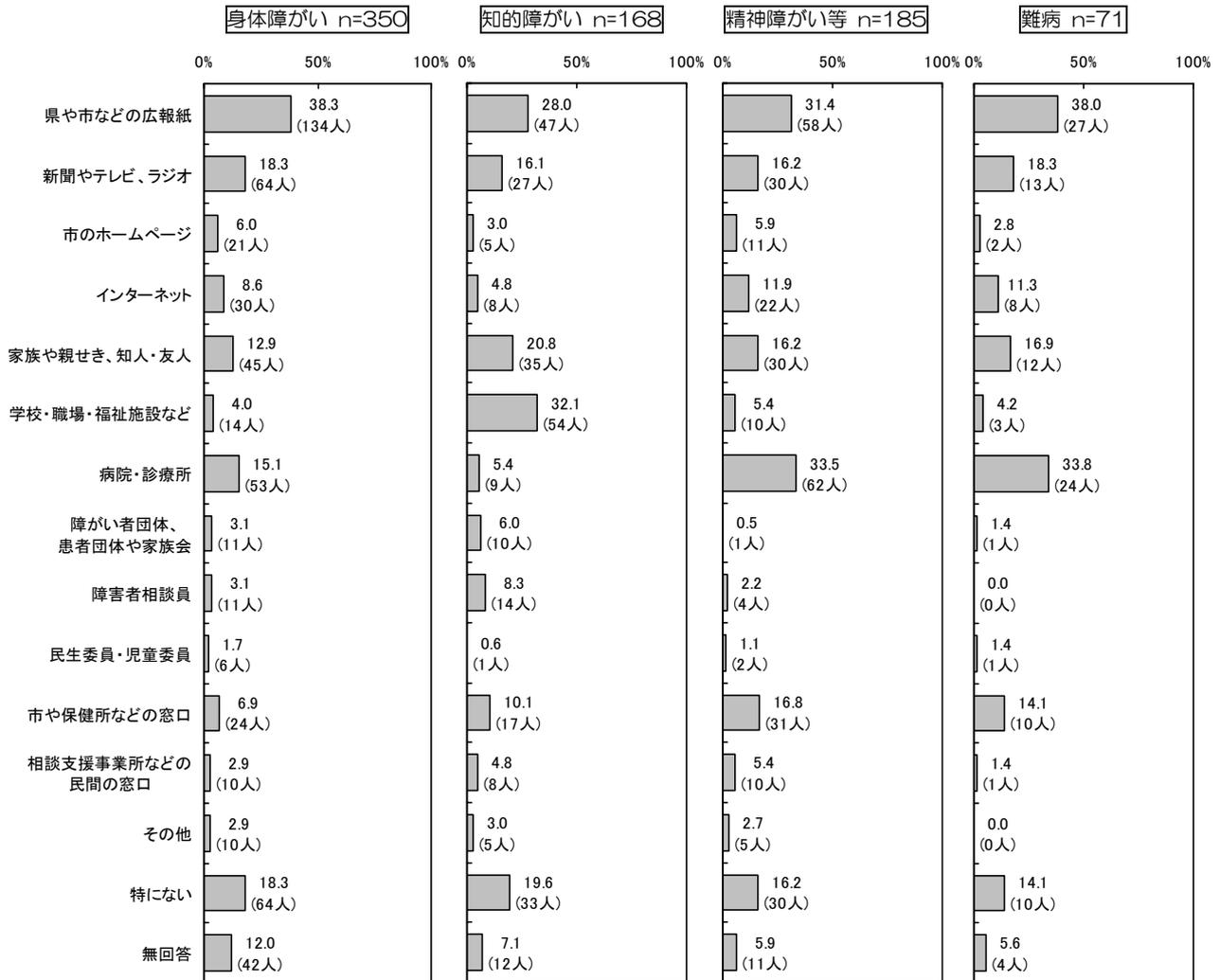
○福祉関連情報の入手先についてたずねたところ、全体では「県や市などの広報紙」が34.4%でもっとも多く、次いで「病院・診療所」が19.1%、「新聞やテレビ、ラジオ」が17.3%などとなっています。一方、「特にない」に関しても、17.7%と一定の回答がありました。

図 7.5 福祉関連情報の入手先



○対象種別で見ると、知的障がい者では「学校・職場・福祉施設など」(32.1%)、精神障がい者等と難病の方では「病院・診療所」(精：33.5%、難：33.8%)が、他の対象種別の回答割合を大きく上回り特徴的な傾向となっています。

図 7.6 福祉関連情報の入手先 (対象種別)



(4) 福祉関連情報の入手の際の困りごと

問 21 福祉関連情報の入手について、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

○福祉関連情報の入手の際の困りごとについてたずねたところ、全体では「どこに情報があるかわからない」が 35.8%でもっとも多く、次いで「情報の内容が難しく、わかりにくい」が 19.6%、「パソコンなどを持っていないため、インターネットが利用できない」が 14.7%などとなっています。一方、「特に困っていることはない」に関しても、32.7%と一定の回答がありました。

○対象種別で見ても全体の結果とほとんど変わらない結果となりました。

図 7.7 福祉関連情報の入手の際の困りごと

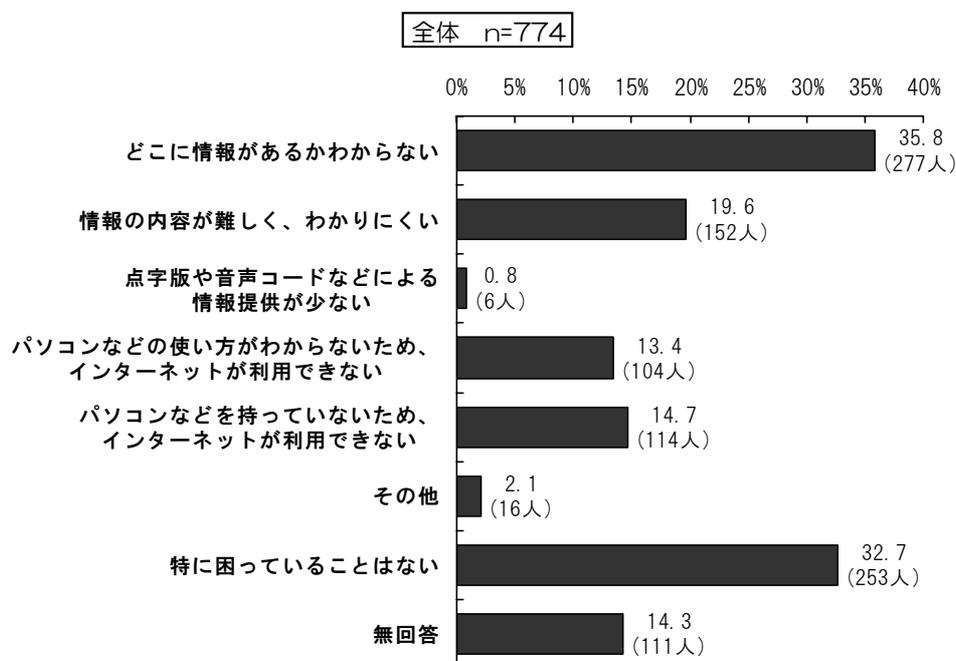
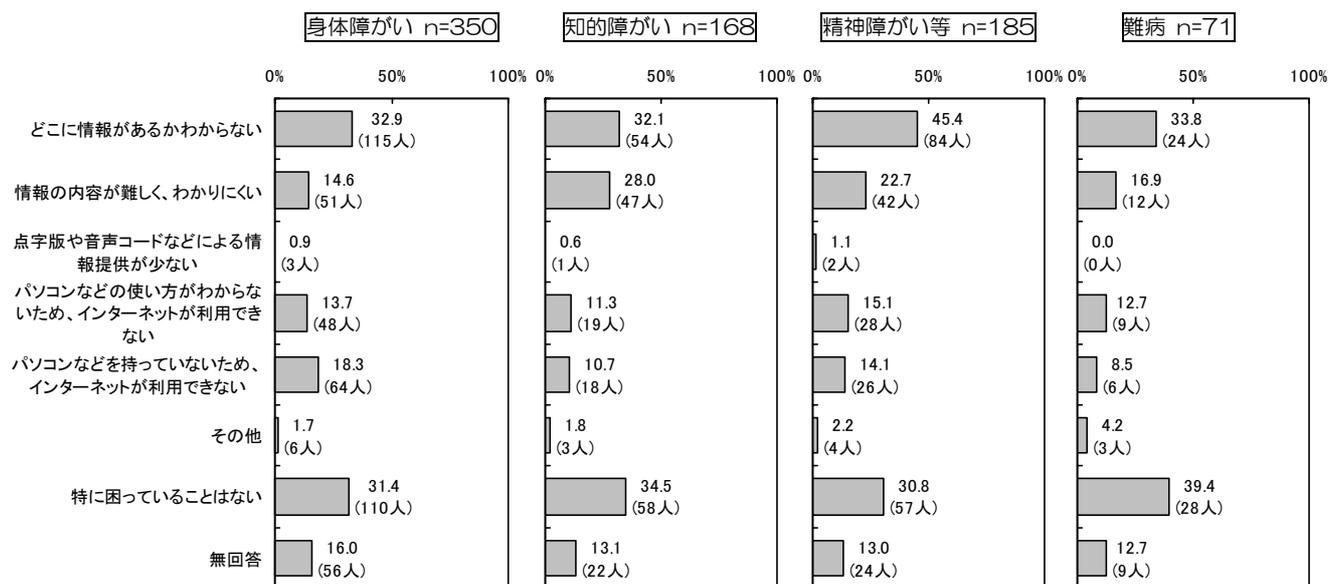


図 7.8 福祉関連情報の入手の際の困りごと（対象種別）



8. 災害時の対応について

(1) 災害時のひとりでの避難

問 22 あなたは、災害時にひとりで避難できますか。(〇は1つだけ)

○災害時にひとりで避難できるかについてたずねたところ、全体では「できる」が47.5%、「できない」が30.1%、「わからない」が18.7%となっています。
○対象結果で見ると、知的障がい者で「できない」が大きく上まり特徴的な結果となりました

図 8.1 災害時のひとりでの避難

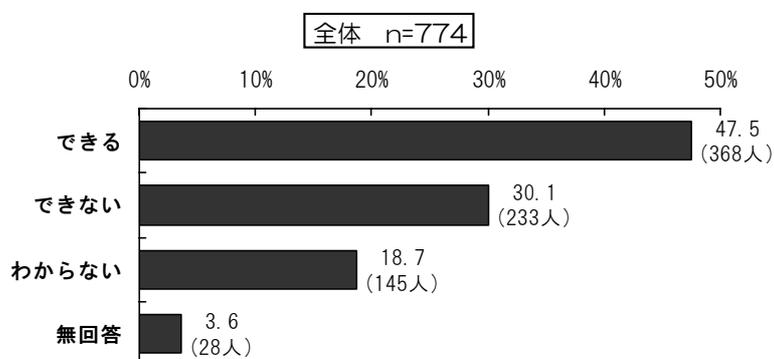
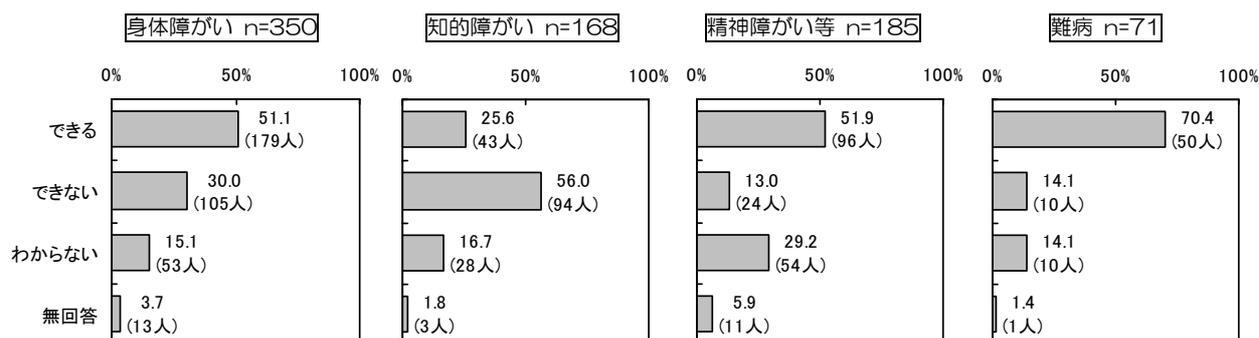


図 8.2 災害時のひとりでの避難 (対象種別)



(2) 災害時の対策

問 23 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(あてはまるものすべてに○)

○災害に備えて立てている対策についてたずねたところ、全体では「家族と避難方法を決めている」が 29.5%でもっとも多く、次いで「家に消火器がある」が 27.6%、「食料や水などの防災用品を用意している」が 24.2%などとなっています。一方、「特に対策は立てていない」は 33.1%で、3人にひとりには災害時に備えた対策を特に立てていないという結果になりました。

○対象種別で見ても全体の結果とほとんど変わらない結果となりました。

図 8.3 災害時の対策

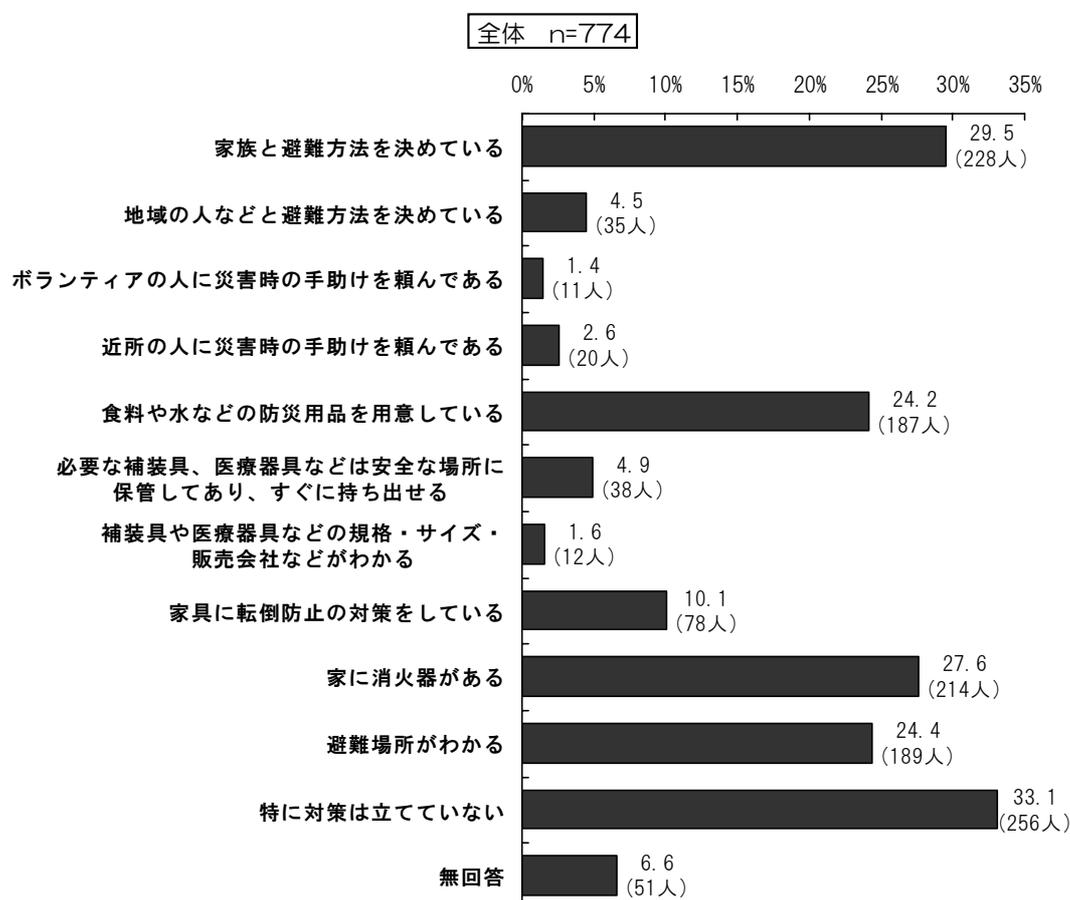
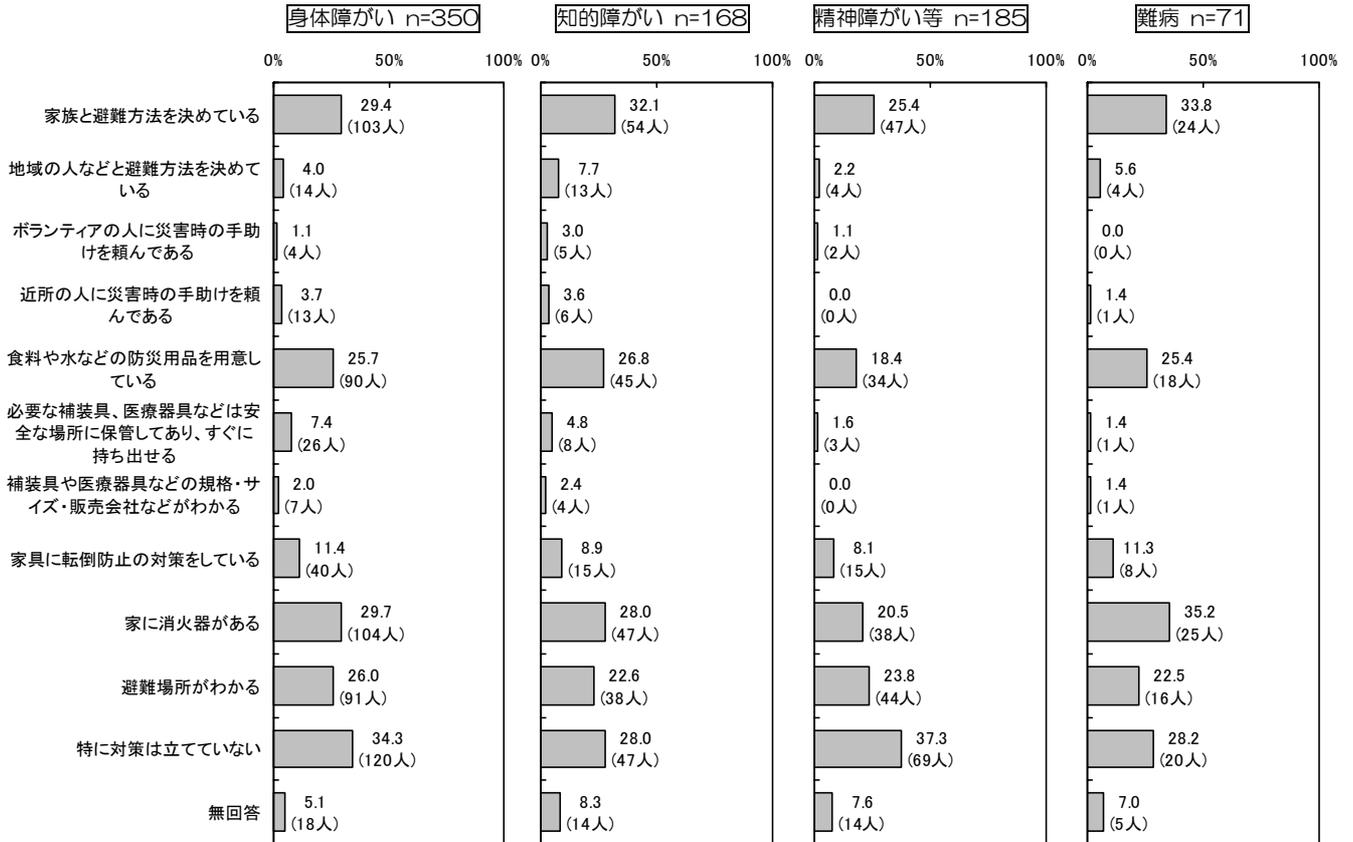


図 8.4 災害時の対策（対象種別）

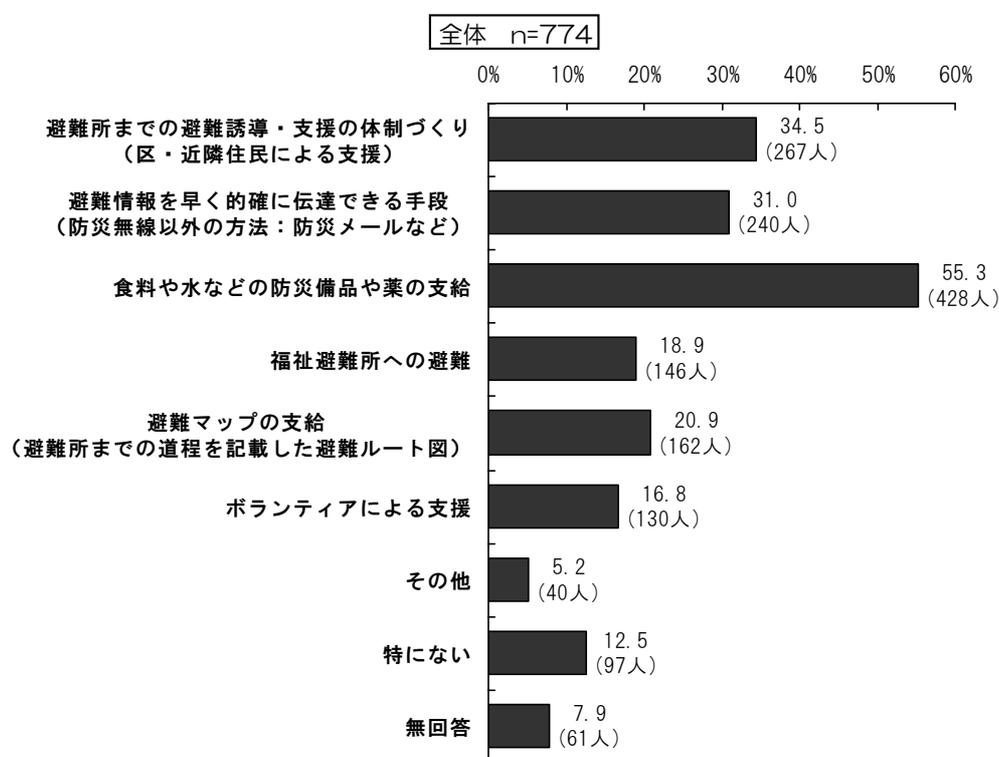


(3) 災害時に必要な支援

問 24 あなたは、災害時にどのような支援を必要としますか。(あてはまるものすべてに○)

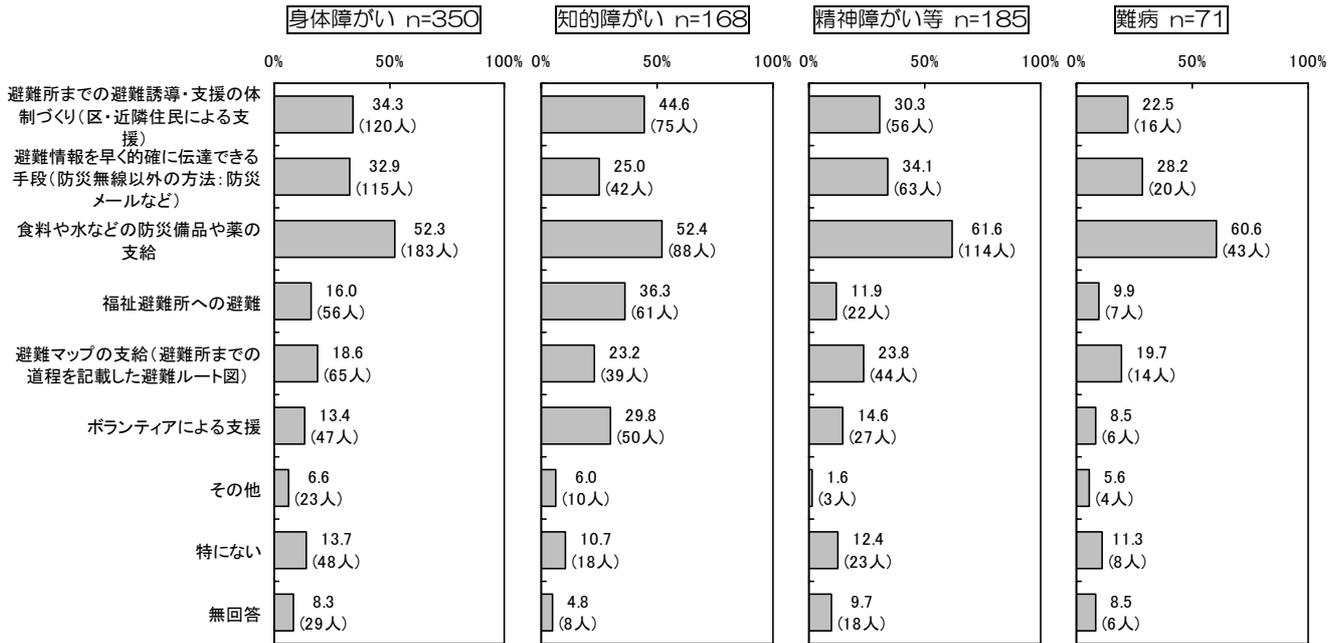
○災害時に必要な支援についてたずねたところ、全体では「食料や水などの防災備品や薬の支給」が 55.3%でもっとも多く、次いで「避難所までの避難誘導・支援の体制づくり(区・近隣住民による支援)」が 34.5%、「避難情報を早く的確に伝達できる手段(防災無線以外の方法：防災メールなど)」が 31.0%などとなっています。

図 8.5 災害時に必要な支援



○対象種別で見ると、知的障がい者では「避難所までの避難誘導・支援の体制づくり(区・近隣住民による支援)」(44.6%)、「福祉避難所への避難」(36.3%)、「ボランティアによる支援」(29.8%)が、他の対象による回答の割合を大きく上回り、特徴的な傾向となっています。

図 8.6 災害時に必要な支援 (対象種別)



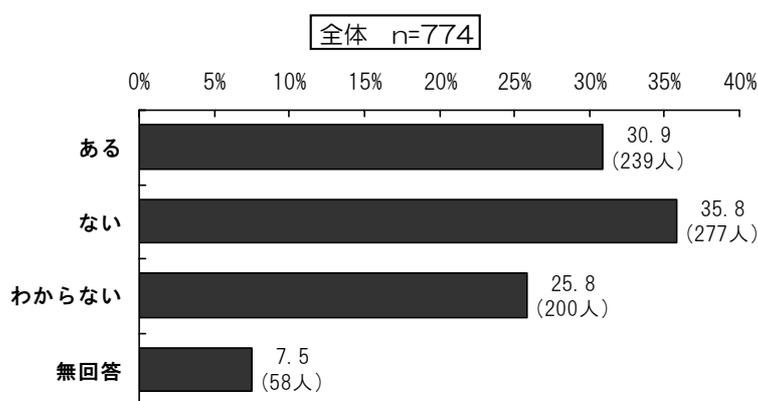
9. 障がい者の権利擁護・理解促進、今後の施策について

(1) 障がい者への差別・偏見

問 25 あなたは日常生活で、障がい者への差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。(○は1つだけ)

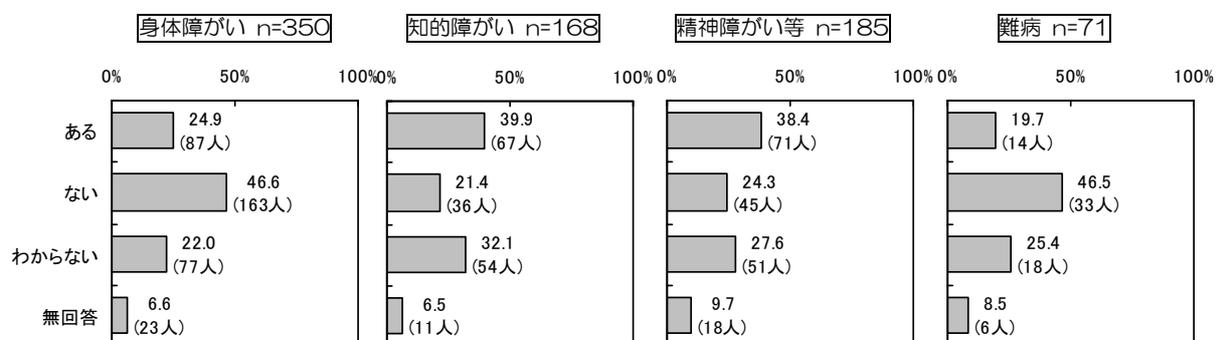
○障がい者への差別・偏見についてたずねたところ、全体では「ある」が 30.9% に対し、「ない」が 35.8%、「わからない」が 25.8%となっています。

図 9.1 障がい者への差別・偏見



○対象種別で見ると、知的障がい者と精神障がい者等で「ある」(知：39.9%、精：38.4%)と回答した方の割合が比較的高くなっています。

図 9.2 障がい者への差別・偏見

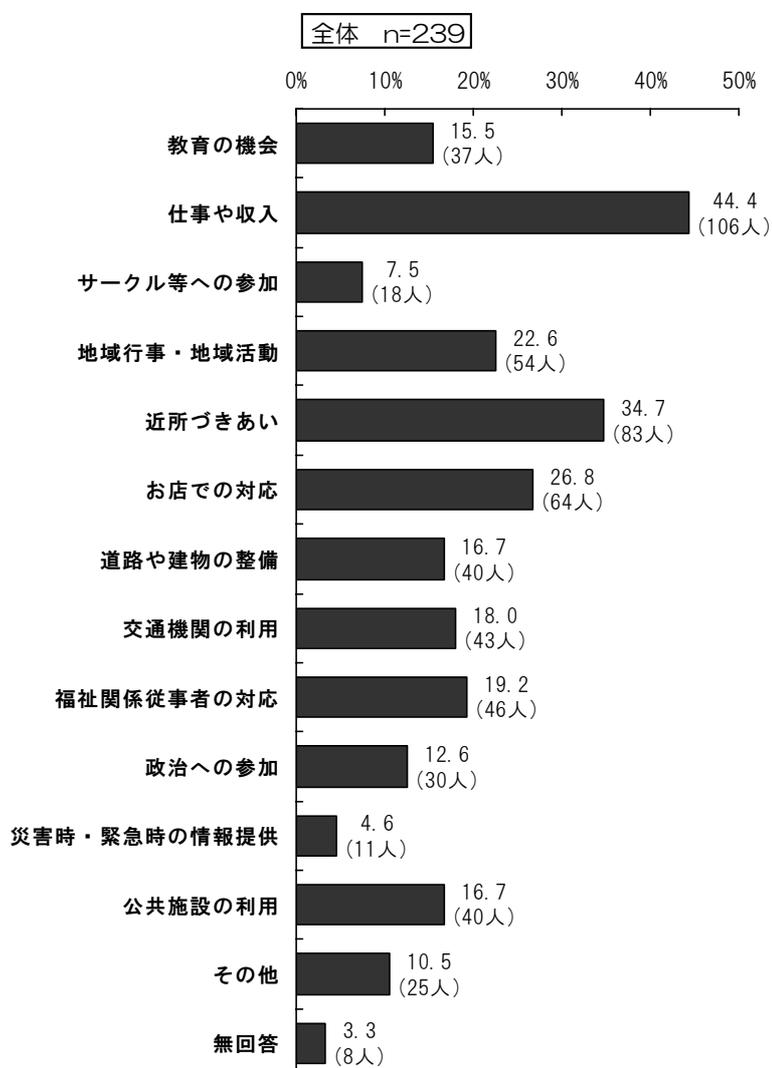


(2) 差別・偏見や疎外感を感じること

〈問 25 で「1」と回答した方におたずねします。〉
問 25 - 1 次のどのようなところに、差別・偏見や疎外感を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

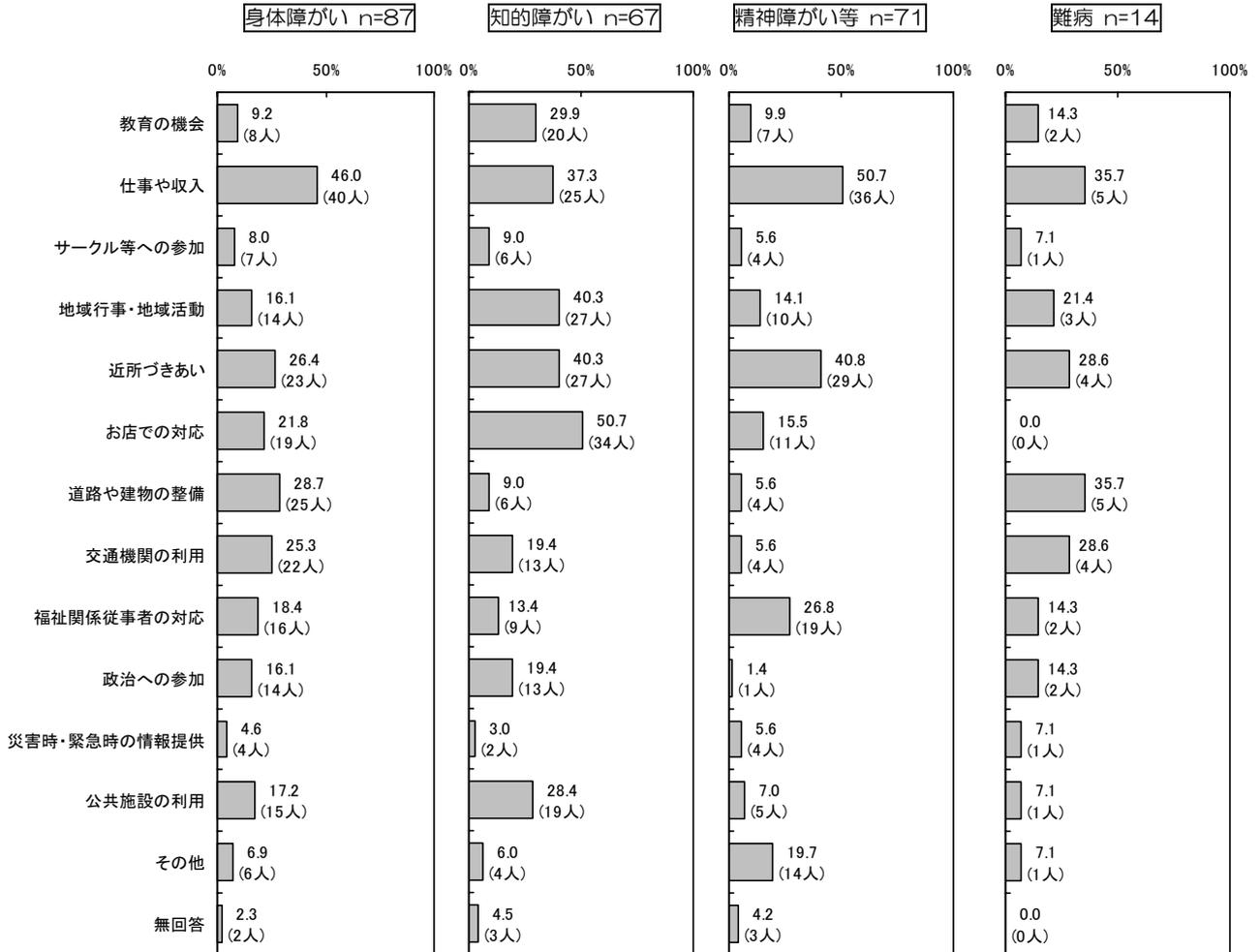
○差別・偏見や疎外感を感じることにあつたところ、全体では「仕事や収入」が 44.4%でもっとも多く、「近所づきあい」が 34.7%、「お店での対応」が 26.8%などとなっています。

図 9.3 差別・偏見や疎外感を感じること



○対象種別で見ると、身体障がい者、精神障がい者、難病の方では「仕事や収入」(身：46.0%、精：50.7%、難 35.7%)が多くなっています。知的障がい者では「お店での対応」(50.7%)が多く、また難病の方は「道路や建物の整備」(35.7%)も多くあげられています。

図9.4 差別・偏見や疎外感を感じること (対象種別)



(3) 千葉県条例の認知状況

問 26 千葉県では、全国に先駆けて「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例[※]」を制定し、取り組みを積極的に進めています。あなたは、この条例についてご存知でしたか。(○は1つだけ)

※「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例（平成19年7月1日施行）」では、障害のある方に対する差別をなくすため、県民共通の目標としてなくすべき「差別」を具体的に定めるとともに、差別の解消に向けた3つの仕組み（①相談解決の仕組み②誰もが暮らしやすい社会づくりを議論する仕組み③障害のある方に優しい取り組みを応援する仕組み）を定めています。

○千葉県条例の認知状況についてたずねたところ、全体では「名前も内容も知っている」5.0%と、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」19.3%を合わせた『名前を聞いたことがある』との回答が(24.3%)あったのに対し、「名前も内容も知らない」は70.7%となっています。約4人に1人は『名前を聞いたことがある』という結果になりました。

図 9.5 千葉県条例の認知状況

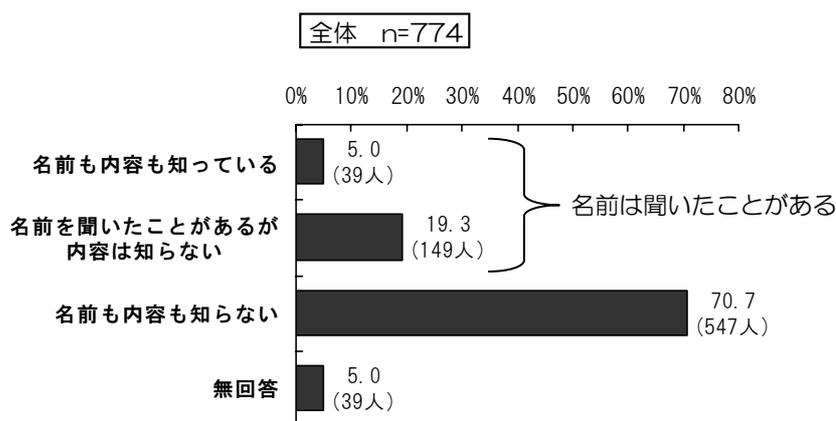
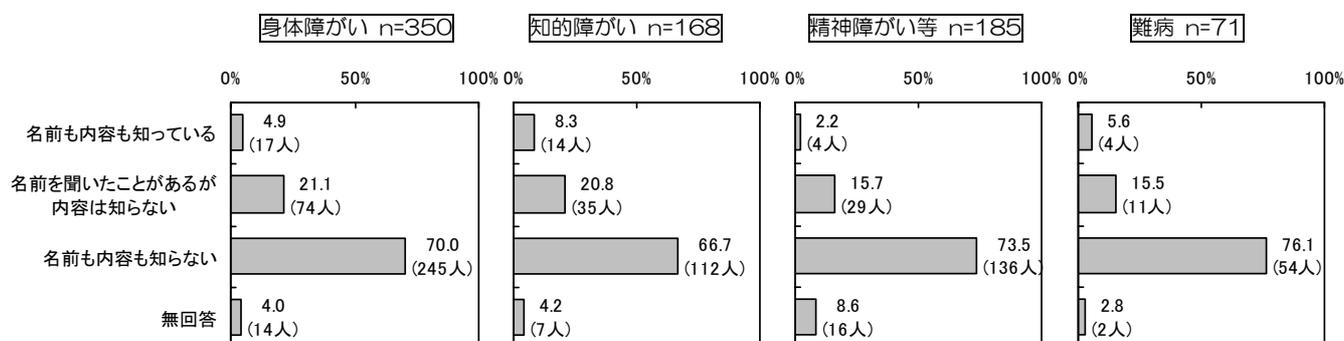


図 9.6 千葉県条例の認知状況（対象種別）



(3) 成年後見制度の認知状況

問 27 あなたは、「成年後見制度[※]」についてご存知ですか。(1つだけに○)

※「成年後見制度」とは、精神上的の障害や認知症等で判断が困難になった方に代って財産管理や契約行為などを行う後見人を選定し、法律的に保護・支援する制度です。後見人には、家族や親族のほかに弁護士・司法書士・社会福祉士等が選任されます。

○成年後見制度の認知状況についてたずねたところ、全体では「名前も内容も知っている」が25.3%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が23.6%であったのに対し、「名前も内容も知らない」は44.8%となっています。「名前も内容も知っている」と「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」をあわせると、『名前を聞いたことがある』(48.9%)方は、約2人に1人という結果になりました。

図 9.7 成年後見制度の認知状況

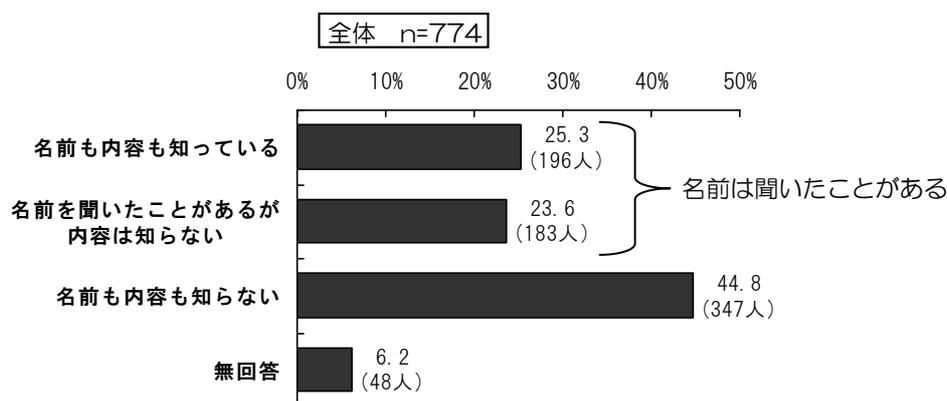
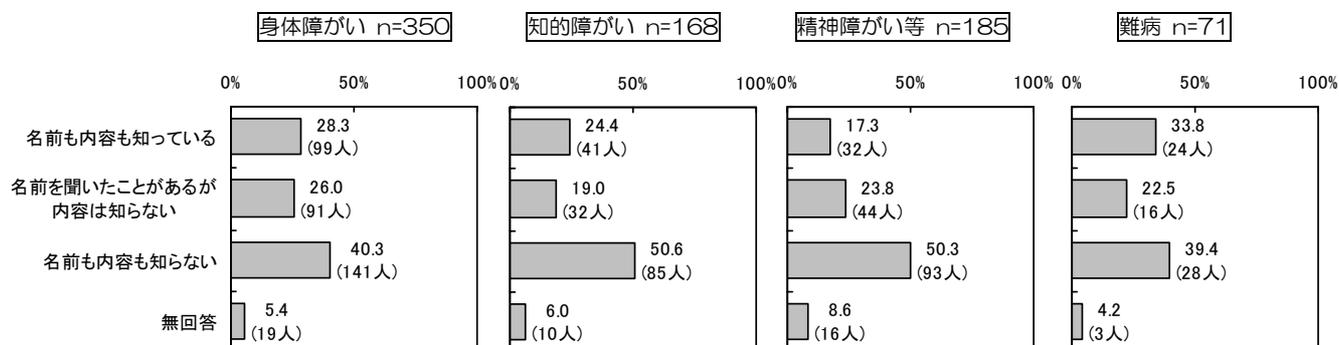


図 9.8 成年後見制度の認知状況 (対象種別)

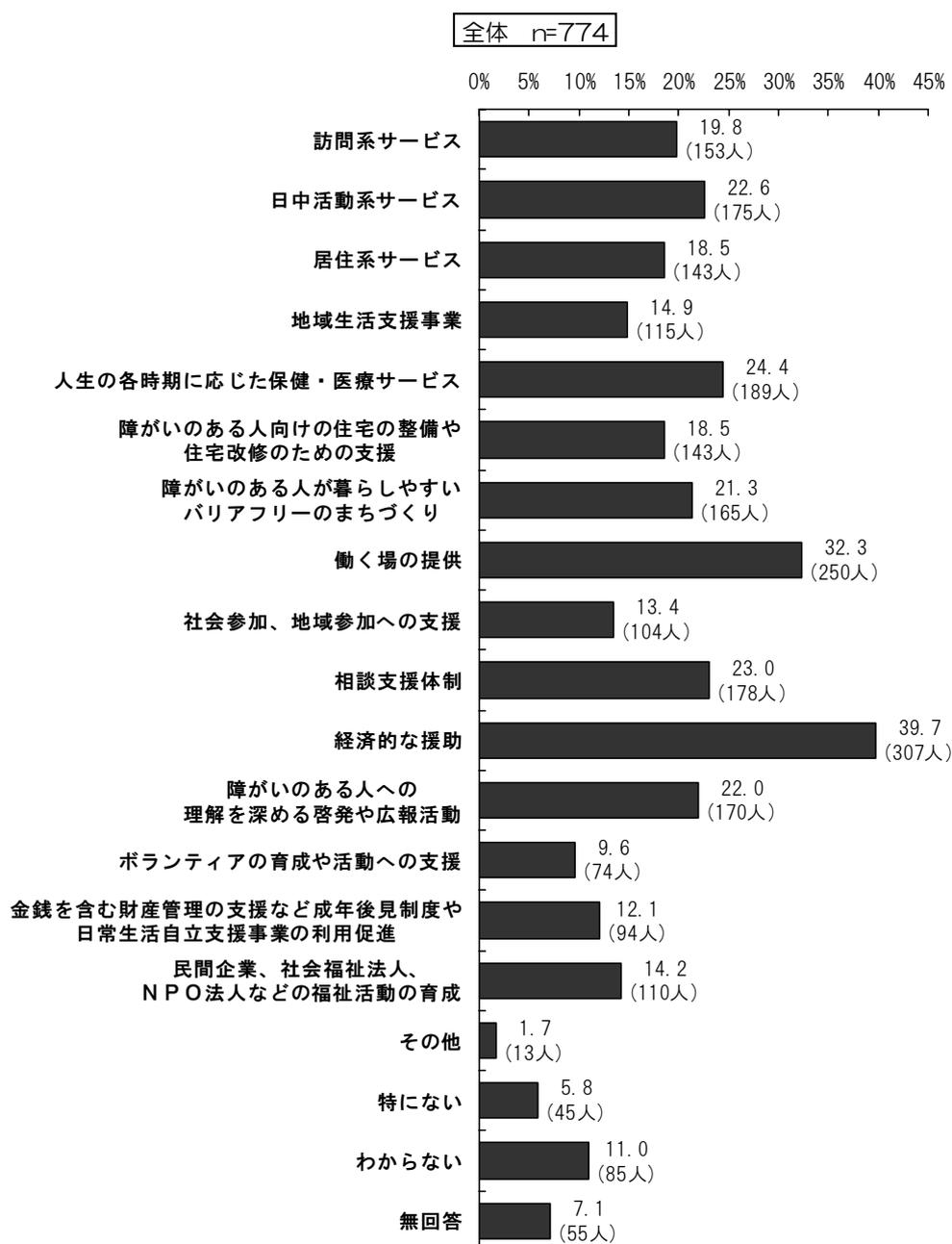


(4) 力を入れるべき施策

問 28 今後、市が障がい福祉の施策として、特に力を入れていくべきことは何だとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

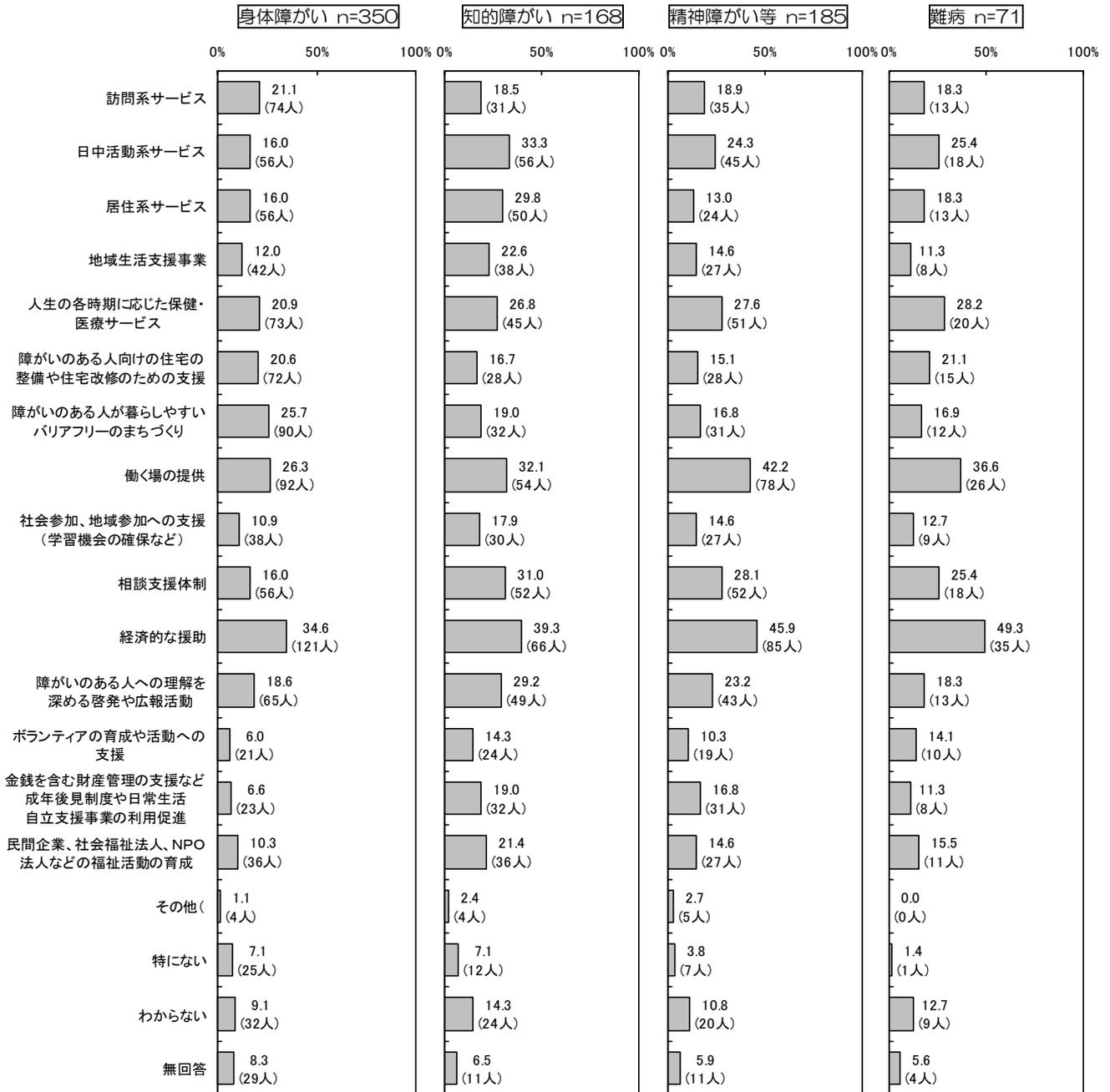
○市が障がい福祉施策として特に力を入れるべきことについては、全体では「経済的な援助」が39.7%でもっとも多く、次いで「働く場の提供」が32.3%、「人生の各時期に応じた保健・医療サービス」が24.4%などとなっています。

図9.9 力を入れるべき施策



○全体的には「経済的な援助」(身:34.6%、知:39.3%、精:45.9%、難:49.3%)が多くあげられています。対象種別では、身体障がい者、精神障がい者等、難病の方では「働く場の提供」(身:26.3%、精:42.2%、難:36.6%)が多くあげられており、知的障がい者では「日中活動系サービス」(33.3%)が多くあげられています。

図9.10 力を入れるべき施策(対象種別)



III 參考資料

1 自由意見

2 調查票

1. 自由意見

問 29 そのほか、障がい福祉に関して市へのご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

【身体障がい者】

内容	件数
経済的負担の軽減、生活の困窮	8
障害福祉サービスの充実、施設の整備	8
障害者にやさしいまちづくり（バリアフリー化、公共交通の整備等）	6
障害者に対する理解、配慮、差別の撤廃	5
不安（高齢期、将来等）	5
障害福祉サービスに関する情報提供、分かりやすく利用しやすい制度	4
相談体制・コミュニケーションの充実	4
生活環境の整備・充実	3
就労支援、雇用環境の充実、社会参加	1
医療の充実	1
障害者の親・家族への支援	1
その他、感謝	6
合 計	52

【知的障がい者】

内容	件数
障害福祉サービスの充実、施設の整備	8
障害福祉サービスに関する情報提供、分かりやすく利用しやすい制度	5
経済的負担の軽減、生活の困窮	3
就労支援、雇用環境の充実、社会参加	3
障害者にやさしいまちづくり（バリアフリー化、公共交通の整備等）	2
障害者に対する理解、配慮、差別の撤廃	1
障害者の親・家族への支援	1
その他、感謝	5
合 計	28

【精神障がい者等】

内容	件数
経済的負担の軽減、生活の困窮	7
障害者にやさしいまちづくり（バリアフリー化、公共交通の整備等）	5
障害者に対する理解、配慮、差別の撤廃	5
障害福祉サービスに関する情報提供、分かりやすく利用しやすい制度	2
相談体制・コミュニケーションの充実	2
医療の充実	2
生活環境の整備・充実	2
就労支援、雇用環境の充実、社会参加	1
不安（高齢期、将来等）	1
その他、感謝	6
合 計	33

【難病】

内容	件数
障害者にやさしいまちづくり（バリアフリー化、公共交通の整備等）	3
障害福祉サービスに関する情報提供、分かりやすく利用しやすい制度	2
経済的負担の軽減、生活の困窮	1
障害福祉サービスの充実、施設の整備	1
障害者に対する理解、配慮、差別の撤廃	1
その他、感謝	5
合 計	13

2. 調査票

障がい福祉に関するアンケートにご協力ください

市民の皆様には日頃から福祉行政にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、富津市では、障がいのある方等への福祉の更なる推進を図るため、平成29年度までを計画期間とする「第4期障害福祉計画」を策定いたします。

このアンケート調査は、計画策定の基礎資料とさせていただくため、無作為で選ばせていただいた身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療費支給認定受給者証（精神通院）、特定疾患医療に関する受給者証をお持ちの方から、生活の状況や障がい福祉に関するご意見、ご要望などをお聞かせいただくものです。皆様にはアンケート調査の趣旨をご理解のうえ、より良い計画を策定するためにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

平成26年7月

富津市長 佐久間 清治

アンケート調査について

このアンケート調査は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療費支給認定受給者証（精神通院）、特定疾患医療に関する受給者証をお持ちの方を対象としています。質問、選択肢の中で、直接関係のない内容（項目）もありますのでご了承ください。調査は無記名で行い、その結果については、計画策定の資料としてのみ使用し、他に使用することは一切ございません。

また、ご記入いただきました調査票は、まことに恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手不要）で8月25日（月）までに、お名前やご住所を書かずに、ポストにご投函くださいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

- 1 障がいのある方等（封筒のあて名の方）の状況についてお答えください。
- 2 できるだけ、ご本人がお答えください。年齢や障がいなどにより、ご本人が答えられない場合は、介助（支援）者の意見をお答えください。
- 3 質問には、全員の方にお答えいただくものと、一部の方にお答えいただくものがあります。説明にそってお答えください。

この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

富津市役所 社会福祉課 障害者福祉係

TEL 0439-80-1260 FAX 0439-80-1355

あなたのことについて

※ この調査では、調査対象者ご本人を「あなた」と呼びます

◎ はじめに、この調査票にお答えいただくのはどなたですか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 調査対象のあなた自身 |
| 2 あなたの意見を聞いて、家族や介助者や施設職員が代筆 |
| 3 あなたの意見を確かめることが難しいので、家族や介助者、施設職員が回答 |

問1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたは何歳ですか。(○は1つだけ)

- | |
|----------|
| 1 0～5歳 |
| 2 6～17歳 |
| 3 18～39歳 |
| 4 40～64歳 |
| 5 65歳以上 |

問3 あなたのお住まいの地区はどちらですか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------|
| 1 富津地区 |
| 2 大佐和地区 |
| 3 天羽地区 |
| 4 その他の市町村 () |

問4 あなたは、誰と生活していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 親 | 2 夫または妻 |
| 3 子どもやその配偶者 | 4 孫やその配偶者 |
| 5 兄弟姉妹やその配偶者 | 6 祖父母 |
| 7 1～6以外の親族 | 8 友人・知人 |
| 9 ひとりで暮らしている | 10 その他 () |

※グループホーム、福祉入所施設（障がい者施設・高齢者施設）を利用されている方は「9」としてください。

問5 以下の中で、あなたにあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1 身体障害者手帳を持っている → 問5-1へ進んでください |
| 2 療育手帳を持っている |
| 3 精神障害者保健福祉手帳を持っている |
| 4 自立支援医療費支給認定受給者証（精神通院）を持っている |
| 5 難病※ ¹ （特定疾患医療）の受給者証を持っている
（病名： _____ ） |
| 6 発達障がい※ ² がある |
| 7 高次脳機能障がい※ ³ がある |

※¹「難病」とは、関節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病その他特殊な疾病をいいます。

※²「発達障がい」とは、自閉症、アスペルガー症候群、その他広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

※³「高次脳機能障がい」とは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がいなどの認知障がいなどを指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」等の症状があります。

問5で「1」を回答した方におたずねします。

問5-1 どのような障がいがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1 視覚障がい |
| 2 聴覚・平衡機能障がい |
| 3 音声機能・言語機能・そしゃく機能障がい |
| 4 肢体不自由 |
| 5 内部障がい（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能、肝臓など） |

あなたの健康や医療について

問6 あなたは、現在、医師による診療を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 入院している | 2 通院している |
| 3 往診を受けている | 4 診療は受けていない |

問7 あなたが、医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 診療所や病院が遠い | 2 待ち時間が長い |
| 3 お金がかかる | 4 往診や訪問看護をしてもらえない |
| 5 通院時に付き添いをしてくれる人がいない | |
| 6 専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない | |
| 7 医師に病気のことや薬のことをきけない | |
| 8 その他 () | |
| 9 特に不満や困ったことはない | |

介助の状況について

問8 あなたの主な介助者(支援者)は、どなたですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1 親 | 2 夫または妻 |
| 3 子どもやその配偶者 | 4 孫やその配偶者 |
| 5 兄弟姉妹やその配偶者 | 6 祖父母 |
| 7 その他の親族 | 8 友人・知人・近所の人 |
| 9 ボランティア | 10 ホームヘルパー |
| 11 施設・病院の職員 | 12 その他 () |
| 13 介助(支援)は受けていない → 問8-3へ進んでください | |

→ 問8-1と問8-2は、問8で「1」～「7」を回答した方におたずねします。

問8-1 あなたを主に介助している人は何歳ですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 29歳以下 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 |
| 4 50～59歳 | 5 60～64歳 | 6 65歳以上 |

問8-2 あなたを主に介助している人が介助できなくなった場合、どのようにしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1 家族・親戚に頼む | 2 知人・友人・近所の人に頼む |
| 3 ボランティアに頼む | 4 病院を利用する |
| 5 グループホーム、福祉入所施設（障がい者施設・高齢者施設）を利用する | |
| 6 ホームヘルプ・ショートステイなどを利用する | |
| 7 その他（ | ） |
| 8 どうするか決めていない・わからない | |

問8で「13 介助（支援）は受けていない」と回答した方におたずねします。

問8-3 将来必要となると思われる介助はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに〇)

- | | | | |
|----------|---------|---------|-------------|
| 1 食事 | 2 家事 | 3 トイレ | 4 着替え・身だしなみ |
| 5 入浴 | 6 寝返り | 7 室内の移動 | 8 外出 |
| 9 金銭管理 | 10 薬の管理 | | |
| 11 その他（ | | | ） |
| 12 わからない | | | |

サービスの利用について

問9 富津市では、以下のような障がい福祉サービス(①～⑱)を提供しています。それぞれの利用の様子について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	利用している		利用していない		
	満足している	不満がある	今後は利用したい	今後もしない	どついでサービスかよく分からない
①居宅介護	1	2	3	4	5
②重度訪問介護	1	2	3	4	5
③行動援護	1	2	3	4	5
④同行援護	1	2	3	4	5
⑤重度障害者等包括支援	1	2	3	4	5
⑥短期入所	1	2	3	4	5
⑦生活介護	1	2	3	4	5
⑧療養介護	1	2	3	4	5
⑨自立訓練	1	2	3	4	5
⑩就労移行支援	1	2	3	4	5
⑪就労継続支援	1	2	3	4	5
⑫児童発達支援・ 放課後等デイサービス	1	2	3	4	5
⑬グループホーム※	1	2	3	4	5
⑭施設入所支援	1	2	3	4	5
⑮相談支援事業	1	2	3	4	5
⑯地域活動支援センター	1	2	3	4	5
⑰移動支援	1	2	3	4	5
⑱日常生活用具給付	1	2	3	4	5
⑲日中一時支援	1	2	3	4	5

※ いわゆる「ケアホーム」を含む。サービス名：「共同生活援助」

問10 サービス利用に関して困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	利用したいサービスがあっても利用できない(事業所や人手の不足)
2	利用できる回数や日数が少ない
3	サービスの質が良くない
4	利用者負担が大きい
5	手続きが難しい
6	サービスに関する情報が少ない
7	その他()
8	特になし

日中活動や就学・就労について

問11 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

1 毎日外出する	3 めったに外出しない
2 1週間に数回外出する	4 まったく外出しない

↓ 問12へ進んでください

問11-1から問11-3は、問11で「1」～「3」と回答した方におたずねします。

問11-1 あなたの主な外出方法は何ですか。(利用の多い3つに○)

1 徒歩	2 自転車	3 車いす
4 自動車を自分で運転する	5 自動車に乗せてもらう	
6 電車、バス	7 タクシー	8 移送サービス
9 その他()		

問11-2 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。

(あてはまるものすべてに○)

1 通勤・通学・通所	2 訓練やリハビリに行く
3 医療機関への受診	4 買い物に行く
5 知人・友人に会う	6 趣味やスポーツをする
7 グループ活動に参加する	8 散歩に行く
9 その他()	

問11-3 外出するときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1 公共交通機関が少ない(ない) | 2 列車やバスの乗り降りが困難 |
| 3 道路や駅に階段や段差が多い | 4 外出にお金がかかる |
| 5 介助者の確保ができない | 6 周囲の目が気になる |
| 7 発作など突然の身体の変化が心配 | 8 困ったときにどうすればいいのかわからない |
| 9 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい | |
| 10 外出先の建物の設備が不便(通路・トイレ・エレベーターなど) | |
| 11 その他() | |
| 12 特にない | |

問12 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--|--|
| 1 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている | → 問12-1へ
進んでください |
| 2 ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている | } 「2」～「10」に
○をつけた方は、
問12-2、3へ
進んでください |
| 3 専業主婦(主夫)をしている | |
| 4 福祉通所施設、作業所等に通っている
(「就労継続支援A型」も含む) | |
| 5 病院などのデイケアに通っている | |
| 6 リハビリテーションを受けている | |
| 7 入所施設や病院等で過ごしている | |
| 8 通園・通学している | |
| 9 その他() | |
| 10 特に何もしていない | |

問12で「1」と回答した方におたずねします。

問12-1 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------|
| 1 正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない |
| 2 正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある |
| 3 パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員 |
| 4 自営業、農林水産業など |
| 5 その他() |

問12 - 2と問12 - 3は、問12で「1」以外を選択した、18歳以上の方におたずねします。

問12 - 2 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 仕事をしたい
- 2 以前は仕事をしていたが、今後はしないと思う
- 3 これまで就労経験がなく、今後もしないと思う
- 4 仕事はしたくない、できない
- 5 わからない
- 6 その他 ()

問12 - 3 収入を得る仕事につくために、職業訓練などを受けたいと思いますか。
(〇は1つだけ)

- 1 すでに職業訓練を受けている
- 2 職業訓練を受けたい
- 3 職業訓練を受けたくない、受ける必要はない

問13 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思えますか。
(あてはまるものすべてに〇)

- 1 職場の施設面でのバリアフリー化
- 2 通勤経路のバリアフリー化
- 3 通勤を自立して行うための訓練や支援
- 4 障がいや病状に応じた勤務体制
- 5 ジョブコーチ※などからの支援
- 6 仕事の内容や職場の人間関係などの就労に関する総合的な相談支援
- 7 職場で自分の考えを伝えるときの支援
- 8 自分に合った仕事や求人情報
- 9 自分に合った仕事をみつける支援
- 10 企業内就労体験（インターンシップなど）
- 11 障がい特性に合った職業訓練
- 12 障がいについての職場の理解促進
- 13 その他（具体的に：)
- 14 特にない
- 15 わからない

※ジョブコーチ：障がいのある人と一緒に職場に入り、ひとりで仕事ができるようになるまでの手助けをしたり、障がいのある人と勤め先との調整などをする支援者です。

問14と問14-1は、18歳以下の方におたずねします。

問14 あなたが主に通園・通学しているところはどこですか。(〇は1つだけ)

1 幼稚園	2 保育所(園)	3 障がい児の通所施設
4 小学校の通常学級	5 小学校の特別支援学級	6 特別支援学校小学部
7 中学校の通常学級	8 中学校の特別支援学級	9 特別支援学校中学部
10 高等学校	11 特別支援学校高等部	
12 その他()		
13 通園・通学していない		

問14で「1」～「12」を回答した方におたずねします。

問14-1 通園・通学において困っていること、心配なことはありますか。

(あてはまるものすべてに〇)

1 通園・通学の送迎	2 園や学校の設備面の不備
3 園や学校の人的支援の不足	4 周囲の子どもとの関係
5 教職員の指導方法	6 他の父母との関係
7 放課後の過ごし方	8 卒後・進路についての情報不足
9 経済的負担	
10 その他()	
11 特にない	

住まいや暮らしについて

問15 あなたは、現在、どこで生活していますか。(1つに〇をつけてください)

1 福祉入所施設(障がい者施設、高齢者施設)
2 グループホーム
3 病院・療養所に入院している
4 あなた又は家族の持ち家
5 民間の賃貸住宅
6 県営・市営住宅、公社・公団の賃貸住宅
7 社宅・公務員住宅等の貸与住宅
8 その他()

問16 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 今のまま生活したい |
| 2 | グループホームを利用したい |
| 3 | 家族と一緒に生活したい |
| 4 | 一般の住宅で一人暮らしをしたい |
| 5 | その他 () |

問17 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 在宅で医療ケアなどが適切に受けられること |
| 2 | 障がい者に適した住居の確保 |
| 3 | 必要な在宅サービスが適切に利用できること |
| 4 | 生活訓練等の充実 |
| 5 | 経済的な負担の軽減 |
| 6 | 相談対応等の充実 |
| 7 | 地域住民等の理解 |
| 8 | コミュニケーションについての支援 |
| 9 | その他 () |

福祉や生活に関する相談・情報入手について

問18 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなた(どこ)に相談しますか。

(あてはまるものすべてに〇)

- | | | | |
|----|-----------------|----|------------------|
| 1 | 家族・親せき | 2 | 友人・知人 |
| 3 | 近所の人 | 4 | 市役所・児童相談所などの行政機関 |
| 5 | 障がい者団体、患者団体や家族会 | 6 | 民生委員・児童委員 |
| 7 | 障害者相談員 | 8 | 相談支援事業所などの民間の窓口 |
| 9 | 入所・通所施設の職員 | 10 | ホームヘルパー・世話人 |
| 11 | 発達障害者支援センター | 12 | 地域包括支援センター |
| 13 | 市社会福祉協議会 | 14 | 医師・看護師などの医療関係者 |
| 15 | 学校の先生 | 16 | 職場の人 |
| 17 | その他 () | | |
| 18 | 特に相談はしない | | |

災害時の対応について

問22 あなたは、災害時にひとりで避難できますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|--------|---------|
| 1 できる | 2 できない | 3 わからない |
|-------|--------|---------|

問23 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| 1 家族と避難方法を決めている | |
| 2 地域の人などと避難方法を決めている | |
| 3 ボランティアの人に災害時の手助けを頼んである | |
| 4 近所の人に災害時の手助けを頼んである | |
| 5 食料や水などの防災用品を用意している | |
| 6 必要な補装具、医療器具などは安全な場所に保管してあり、すぐに持ち出せる | |
| 7 補装具や医療器具などの規格・サイズ・販売会社などがわかる | |
| 8 家具に転倒防止の対策をしている | |
| 9 家に消火器がある | 10 避難場所がわかる |
| 11 特に対策は立てていない | |

問24 あなたは、災害時にどのような支援を必要としますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1 避難所までの避難誘導・支援の体制づくり(区・近隣住民による支援) |
| 2 避難情報を速く的確に伝達できる手段(防災無線以外の方法:防災メールなど) |
| 3 食料や水などの防災備品や薬の支給 |
| 4 福祉避難所への避難 |
| 5 避難マップの支給(避難所までの道程を記載した避難ルート図) |
| 6 ボランティアによる支援 |
| 7 その他() |
| 8 特にない |

障がい者の権利擁護・理解促進、今後の施策について

問25 あなたは日常生活で、障がい者への差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。
(1つだけに○)

1	ある	→	問25-1へ進んでください
2	ない	}	問26へ進んでください
3	わからない		

問25で「1」と回答した方におたずねします。

問25-1 次のどのようなところに、差別・偏見や疎外感を感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 教育の機会	2 仕事や収入	3 サークル等への参加
4 地域行事・地域活動	5 近所づきあい	6 お店での対応
7 道路や建物の整備	8 交通機関の利用	
9 福祉関係従事者の対応	10 災害時・緊急時の情報提供	
11 政治への参加	12 公共施設の利用	
13 その他 ()

問26 千葉県では、全国に先駆けて「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を制定し、取り組みを積極的に進めています。あなたは、この条例についてご存知でしたか。(○は1つだけ)

1 名前も内容も知っている
2 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3 名前も内容も知らない

問27 あなたは、「成年後見制度※」についてご存知ですか。(1つだけに○)

1 名前も内容も知っている
2 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3 名前も内容も知らない

※成年後見制度：判断能力が不十分な成年者（知的障がい者、精神障がい者、認知症の高齢者等）が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その方を援助してくれる人（「後見人等」）を付け、財産管理やサービスの利用などを手伝ってもらう制度です。

問28 今後、市が障がい福祉の施策として、特に力を入れていくべきことは何だとお考えですか。

(あてはまるものすべてに○)

1	訪問系サービス（居宅介護（ホームヘルプ）など）
2	日中活動系サービス（生活介護、児童デイサービス、短期入所、自立訓練、就労継続、就労移行）
3	居住系サービス（施設入所、グループホームなど）
4	地域生活支援事業（日中一時支援事業や移動支援事業など）
5	人生の各時期に応じた保健・医療サービス
6	障がいのある人向けの住宅の整備や住宅改修のための支援
7	障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり
8	働く場の提供
9	社会参加、地域参加への支援（学習機会の確保など）
10	相談支援体制
11	経済的な援助
12	障がいのある人への理解を深める啓発や広報活動
13	ボランティアの育成や活動への支援
14	金銭を含む財産管理の支援など成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進
15	民間企業、社会福祉法人、NPO法人などの福祉活動の育成
16	その他（ <input type="checkbox"/> ）
17	特にない
18	わからない

問29 そのほか、障がい福祉に関して市へのご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

★アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返信用の封筒（切手は不要です）に入れて、**8月25日（月）まで**にご返送ください。また、富津市役所（本庁）や天羽行政センター、峰上出張所、各連絡所の窓口にお持ちいただいても結構です。

いきいきふっつ障害者プラン 第4期障害福祉計画
策定のためのアンケート調査結果報告書

発行 平成27年3月

企画・編集 富津市役所 社会福祉課

〒293-8506 千葉県富津市下飯野 2443 番地

TEL : 0439-80-1260

FAX : 0439-80-1355

URL : <http://www.city.futtsu.lg.jp/>